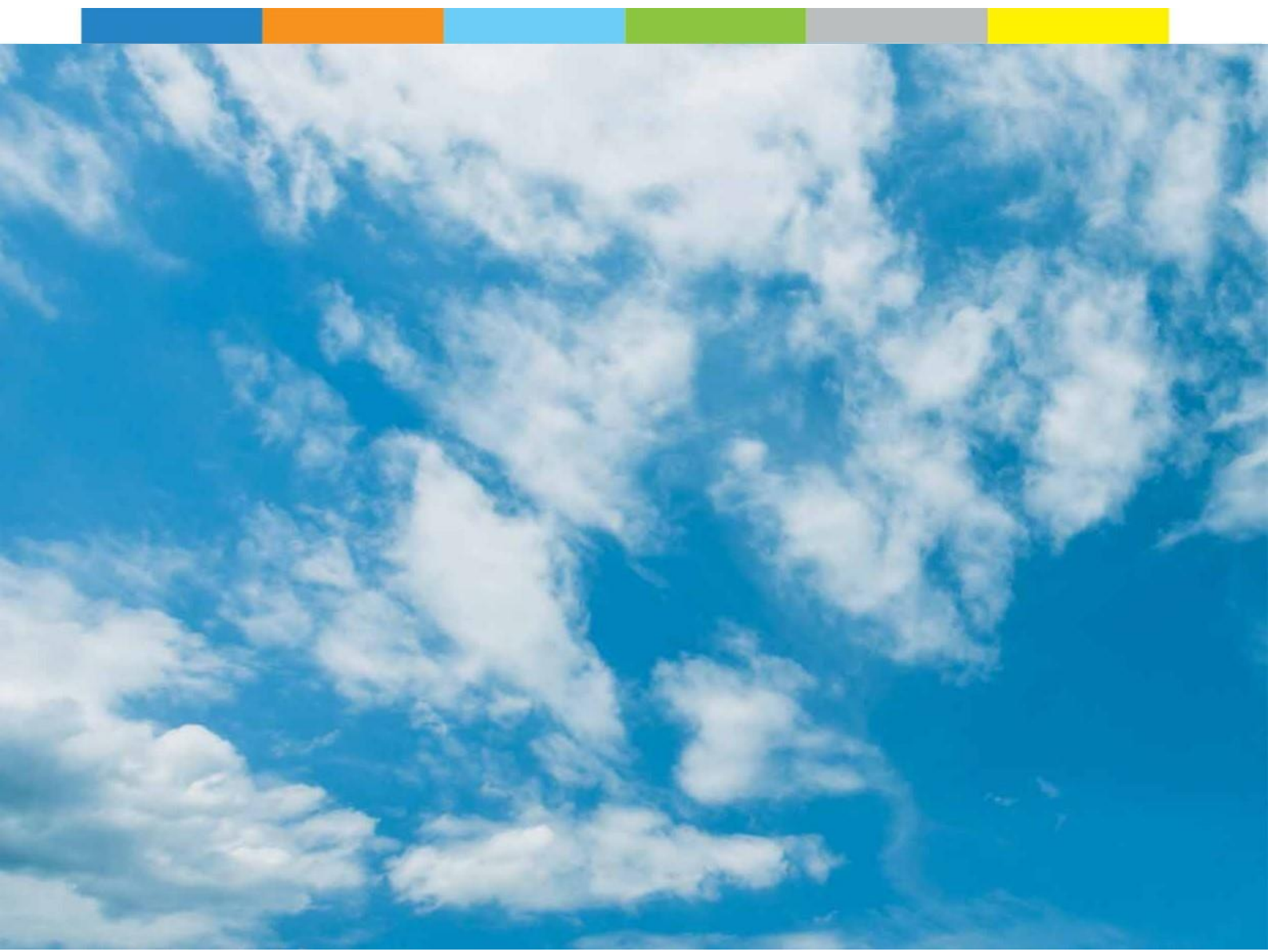


新潟県防災教育プログラム

【改訂版】

令和2年3月



新潟県防災教育プログラム【改訂版】

目 次

本書について	3
1. はじめに ～新潟県防災教育プログラムの改訂について～	4
(1) 新潟県防災教育のねらい（確認）	4
(2) 防災の動向と防災教育	5
(3) 改訂の方針	7
(4) 改訂の進め方	7
提言 防災教育の今と未来を語る	
新潟県防災教育に関する検討会議からのメッセージ	8
2. 防災教育 実践の手引き	10
(1) 全国で発生した近年の災害	10
(2) 新潟県内の防災教育関連施設	15
(3) 防災教育の実践サポート団体	30
(4) 防災教育に役立つサイト	37
(5) 防災教育の授業例（新潟県内）	45
3. 新潟県防災教育プログラムの改定内容（各災害編）	60
(1) 津波災害編の改訂	61
新潟県内市町村別津波ハザードマップ（更新）	61
(2) 地震災害編の改訂	62
① 大地震後の地震活動・余震等	62
② 地震によるブロック塀倒壊の危険性	63
③ 避難生活における「災害関連死」	64
④ 避難所の質の向上に関する国の取組	65
⑤ 防災グッズチェックリスト（参考）	66
⑥ 【地_資料301】「新潟県の主な被害地震」（更新）	67
(3) 洪水災害編の改訂	68
① 新潟県内市町村別洪水ハザードマップ（更新）	68
② 雨量・水位観測情報の取得	69
③ 洪水情報の危険度分布	70
④ 5段階の警戒レベルと防災気象情報	71

⑤ テレビのdボタン -----	72
⑥ 授業で使うワークシートの改良（更新） -----	73
⑦ 災害からの教訓（参考） -----	74
（4）土砂災害編の改訂 -----	75
① 全国の土砂災害発生件数の推移 -----	75
② 新潟県で発生した土砂災害 -----	76
③ 土砂災害警戒区域 -----	77
④ 土砂災害警戒情報 -----	78
⑤ 5段階の警戒レベルと防災気象情報 -----	79
⑥ 【土_資料308】「火山と火山災害の基礎知識」（更新） -----	80
⑦ 土砂災害の学習教材・資料（参考） -----	81
（5）雪災害編の改訂 -----	82
① 雪による死者数の推移と内訳 -----	82
② 新潟県による事故防止の注意喚起 -----	83
③ 雪かき作業前の準備運動 -----	84
④ 新潟県の雪冷熱利用施設に関する情報 -----	85
⑤ 参考図書の紹介（参考） -----	86

本書について

新潟県では、東日本大震災の発生を踏まえ、児童生徒の「災害から生き抜く力」を育むため、新潟県中越大震災義援金を活用して、平成23年度より「新潟県防災教育プログラム」（以下、防災教育プログラム）の制作が進められ、平成26年2月に完成しました（「原子力災害編」のみ平成28年2月に完成）。

この防災教育プログラムは、新潟県において今後起こり得る「津波災害」「地震災害」「洪水災害」「土砂災害」「雪災害」「原子力災害」の6つの災害について、防災教育のカリキュラム、学習指導案、児童生徒用ワークシート、学習資料（映像・画像等）をとりまとめたものであり、新潟県内の全ての小学校、中学校、特別支援学校、高校に配布されています。これがきっかけとなって、新潟県内の各学校において防災教育が広く実践されるようになり、令和元年度の時点では、小学校の98%、中学校の92%において、防災教育プログラムが活用されています。

さて、防災教育プログラムの制作から5年以上が経過しました。その間にも、地震や台風をはじめとする自然災害は衰えることなく猛威を振るい、全国各地で甚大な被害をもたらしました。命を守るための行動の重要性や防災の社会的要請は年々大きくなる一方であり、災害対応のあり方も変化を余儀なくされています。

このような状況を踏まえ、防災教育活動のさらなる質の向上を図り、児童生徒の生き抜く力をより的確に育むため、このたび新潟県中越大震災義援金を活用して防災教育プログラムの改訂を行いました。現行のプログラムを精査し、更新・補足する情報やコンテンツを整理したものが本書「新潟県防災教育プログラム【改訂版】」になります（ただし「原子力災害編」を除く）。また、本書に関係する電子データについては、新潟県教育庁より各学校に別途送付するとともに、新潟県防災教育公式ホームページ「防災教育スイッチ」にて掲載しています。

「新潟県防災教育プログラム【改訂版】」は、現行の防災教育プログラムを引き続き活用することを前提としています。今後、各学校で防災教育プログラムを活用した防災教育を実践する際には、本書を一読していただき、カリキュラムの設計や授業の組み立て等に適宜反映していただければと存じます。

令和2年3月

<本書の保管について>

各校に提供されている防災教育プログラムは、右写真のように、黒色のボックスに、6つの災害種類別の防災教育プログラム（2穴ファイル）、概要編（冊子）、教職員用ガイド編（冊子）が収納されています。この黒色のボックスの中に、本書【改定版】を収納・保管していただき、防災教育プログラムと併せてご活用ください。



1. はじめに ～新潟県防災教育プログラムの改訂～

(1) 新潟県防災教育のねらい（確認）

新潟県では、中越大震災をはじめとする様々な災害の経験や教訓を次世代に正しく伝承するため、東日本大震災以降の防災教育に関する動向を考慮し、平成26年2月に制作した防災教育プログラムにおいて、防災教育を通して目指す児童生徒の姿を整理するとともに、その将来像の実現に向けて防災教育プログラムの目的を定めています。また、そのような防災教育を実践するための教職員の指導の心得として、基本理念と実践の留意点を『教職員用ガイド編 ～必読！指導のココロエ！』として提供しています。特にこの教職員用ガイド編は、今日においても極めて重要な事項が記載されており、あらためて熟読していただくことをお願いいたします。

【防災教育を通して目指す児童生徒の姿】

- (1) 自分の命は自分で守るという姿勢を身につけており、災害時には危険を自ら察知し、率先して安全を確保するための行動ができる。
- (2) 災害及び被害の特徴、発生のメカニズム、地域の自然環境、災害防災についての基本的な事項を理解できる。
- (3) 災害の発生時及び発生後に、人々や集団、地域の安心・安全に対して、すすんで役に立つことができる。

【新潟県防災教育プログラムの目的】

- (1) 児童生徒の『災害から生き抜く力』を育み、内発的な自助意識（姿勢）を定着させる。
- (2) 児童生徒の地域に対する関心を高め、自然環境や地域特性を理解させる。
- (3) 被災時や他地域の災害時に、他者に寄り添い、力になろうとする気持ちを育む。
- (4) 新潟県中越大震災をはじめ、新潟県の災害の歴史、教訓、知見を次世代へ継承する。
- (5) 長期に渡って継続し、災害に強い県民・地域・文化（防災立県の人的基盤）を創る。

【防災教育を実践する教職員の指導の心得】 ※『教職員用ガイド編』に詳細を掲載

＜防災教育の基本理念＞

- (1) “災害から生き抜く力”を育む
- (2) 自然の“恵み”と“災い”の二面性をとらえる
- (3) “姿勢の防災教育”を通じて、“主体性”を身につける
- (4) 一生涯つかえる“災害から生き抜く力”を身につける
- (5) 20年かけて、“災害に強い地域文化”をつくる

＜実践の留意点＞

- (6) 教職員自身の自然と向き合う姿勢が問われる
- (7) 災害を“自分事”として主体的にとらえる授業を実践する
- (8) 教育活動全体を通じて、防災教育の目的を達成する
- (9) 家庭や地域と連携した防災活動を取り入れる
- (10) 学校の特性を踏まえて、カリキュラムを自校化する



(2) 防災の動向と防災教育

令和元年5月31日、国の防災分野の最上位計画である防災基本計画が一部修正されました。この計画は、防災体制の確立、防災事業の促進、災害復興の迅速適切化、防災に関する科学技術及び研究の振興、防災業務計画及び地域防災計画において重点をおくべき事項について、基本的な方針を示したものです。

この修正において注目すべきは、平成30年7月豪雨による水害・土砂災害の経験に基づき、特に風水害対策において、『国及び地方公共団体は、「自らの命は自らが守る」という意識の徹底や、地域の災害リスクととるべき避難行動等についての住民の理解を促進するため、行政主導のソフト対策のみでは限界があることを前提とし、住民主体の取組を支援・強化することにより、社会全体としての防災意識の向上を図るものとする。』と明記されたことです。

これは先述の【防災教育を通して目指す児童生徒の姿】にある「(1) 自分の命は自分で守るという姿勢を身につけており、災害時には危険を自ら察知し、率先して安全を確保するための行動ができる。」と深く関係するものであり、【新潟県防災教育プログラムの目的】の「(1) 児童生徒の『災害から生き抜く力』を育み、内発的な自助意識(姿勢)を定着させる。」ことの重要性が一層高まっているといえます。

これは新潟県防災教育において最も大切な視点と位置付けている「主体性」の問題といえます。今後の国の防災のあり方を実現する上でも、防災教育において児童生徒の「主体性」を身につけることが重要であり、教職員においては、【防災教育を実践する教職員の指導の心得】に記された「(3) “姿勢の防災教育”を通じて、“主体性”を身につける」及び「(7) 災害を“自分事”として主体的にとらえる授業を実践する」が特に強く求められることになります。

防災基本計画修正(令和元年5月)の概要

■防災基本計画

災害対策基本法に基づき、中央防災会議が作成する計画で、災害の未然防止、被害の軽減及び災害復旧のための諸施策等の基本的な事項を定めるもの。

主な修正項目

平成30年7月豪雨を踏まえた水害・土砂災害からの避難対策に関する修正

- 「**自らの命は自らが守る**」意識の徹底や、**地域の災害リスクととるべき避難行動等**の周知
(避難訓練と合わせた防災教育の実施や防災と福祉の連携等)



防災教育の実施

- 住民の避難行動等を支援する防災情報の提供**

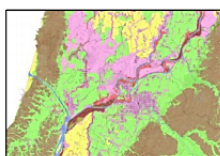
5段階の警戒レベルでの防災情報の提供

【避難のタイミングを明確化】

レベル3:高齢者等避難		レベル4:全員避難	
警戒レベル (洪水、土砂災害)	住民がとるべき行動	行動を促す情報	防災気象情報
警戒レベル5	命を守る最善の行動	災害の発生情報 (出発を勧告で発表)	指定河川 洪水予報
警戒レベル4	避難	・避難勧告 ・避難指示(緊急)	土砂災害 警戒情報 警報
警戒レベル3	高齢者等は避難 他の住民は準備	避難準備・高齢者等 避難開始	危険度分布 等

昨年発生した災害への対応の教訓を踏まえた修正

- ISUT(災害時情報集約支援チーム)の派遣
- 被災市区町村応援職員確保システムの充実
- 液状化ハザードマップの作成・公表

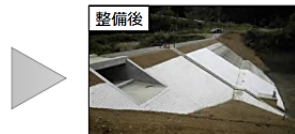


液状化ハザードマップの例

- 関係機関の緊密な連携による**災害廃棄物及び堆積土砂の処理**
- 走锚等に起因する事故防止のための監視体制の強化等**
- ため池の耐震化や統廃合の推進**



整備前



ため池の耐震化

その他最近の施策の進展等を踏まえた所要の修正

- 南海トラフ地震臨時情報発表時の対応
(「南海トラフ地震防災対策推進基本計画」に基づき実施)
- 外国人に対する**防災・気象情報の多言語化**
- 行政・NPO・ボランティア等の**三者連携**による情報共有
会議の整備・強化
- 中小企業等における防災・減災対策の普及促進**

資料：内閣府 防災情報のページ 防災基本計画

<http://www.bousai.go.jp/taisaku/keikaku/kihon.html>

(参考) 学校安全資料『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育

「学校安全資料『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」は、安全教育、安全管理、組織活動の各内容を網羅して解説した総合的な資料として、文部科学省より平成13年11月に作成され、その後、学校保健安全法の改正、学習指導要領の改訂を踏まえて平成22年3月に改訂されています。

平成28年度に閣議決定された「第2次学校安全の推進に関する計画」で、国は、安全教育に関する各種参考資料の作成等に当たって、学校安全に関する変化や新たな状況などの現代的課題を踏まえる必要があるとされており、児童生徒等を取り巻く安全に関する状況が変化してきていることや、「学校事故対応に関する指針」（平成28年3月）の策定や学習指導要領の改訂等を踏まえ、平成31年3月に改訂2版が発刊されています。

この安全教育の内容は、生活安全、交通安全、災害安全の各領域について整理されています。防災教育と最も関係する領域は「災害安全」であり、災害安全に関する安全教育の内容として、次のように記述されています。



災害安全に関する安全教育の内容

様々な災害発生時における危険について理解し、正しい備えと適切な判断ができ、行動がとれるようにする。

- ①火災発生時における危険の理解と安全な行動の仕方
- ②地震・津波発生時における危険の理解と安全な行動の仕方
- ③火山活動による災害発生時の危険の理解と安全な行動の仕方
- ④風水（雪）害、落雷等の気象災害及び土砂災害発生時における危険の理解と安全な行動の仕方
- ⑤放射線の理解と原子力災害発生時の安全な行動の仕方
- ⑥避難場所の役割についての理解
- ⑦災害に関する情報の活用や災害に対する備えについての理解
- ⑧地域の防災活動の理解と積極的な参加・協力
- ⑨災害時における心のケア
- ⑩災害弱者や海外からの来訪者に対する配慮
- ⑪防災情報の発信や避難体制の確保など、行政の働き
- ⑫消防署など関係機関の働き

補足：「学校安全資料『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」の付録として「安全に関する指導の内容例」があり、144-145頁に「災害安全に関する指導の内容例（小学校、中学校及び高等学校）」が一覧表として掲載されています。

資料：文部科学省「学校安全資料『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」について
https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/1416715.htm

（３）改訂の方針

このたびの防災教育プログラムの改訂については、内容のボリューム、作業スケジュール、学校教育現場の実情及びニーズなどを勘案し、以下のような方針としました。

- （１）近年の法改正等に伴う内容を追加・反映する。
- （２）近年の大きな災害等に基づき、記述を追加する。
- （３）学校教育現場の参考となる実践事例を追加する。
- （４）現行プログラムに掲載されている各種情報・データをアップデートする。
- （５）その他、外部有識者の意見に基づき、記述を改訂・追加する。

（４）改訂の進め方

防災教育プログラムの改訂を進める上で、以下の事項に即して作業を遂行しました。

- （１）全体監修（監修者）を、現行の防災教育プログラム制作時に全体統括としてご協力いただいた片田敏孝・東京大学大学院情報学環特任教授に依頼する。
- （２）防災教育プログラムの各災害編の改訂に当たっては、現行の防災教育プログラム制作において座長を担っていただいた外部有識者に対して、個別にアドバイス及び改訂原稿の確認等を依頼する。
- （３）改訂作業に当たっては、新潟県庁内各災害所管課等の協力・確認を得る。
- （４）成果品の案ができた段階で、監修者及び外部有識者らによる検討会議を実施し、防災教育プログラムの改正内容についての最終確認を行う。
- （５）学校教育現場等への成果品の提供は、冊子及び電子データとする。
- （６）防災教育スイッチ（新潟県内の防災教育についてとりまとめたホームページ）を改修し、改訂内容をダウンロードできるように整備する。

新潟県防災教育プログラム改訂 実施体制

区分	所属	氏名※	備考（担当）
全体監修	東京大学大学院情報学環	片田 敏孝	
外部有識者	群馬大学理工学府	金井 昌信	洪水災害編、津波災害編
	兵庫県立大学	澤田 雅浩	地震災害編
	岩手大学	福留 邦洋	土砂災害編
	長岡技術科学大学	上村 靖司	雪災害編
事務局	新潟県教育庁保健体育課 公益社団法人中越防災安全推進機構 地域防災力センター		

※敬称略

新潟県防災教育プログラム【改訂版】を仕上げるため、監修者及び外部有識者等による「新潟県防災教育に関する検討会議」（日時：令和2年3月3日、場所：長岡震災アーカイブセンターきおくみらい）を開催し、改訂版の最終確認を行うとともに、これからの新潟県の防災教育のあり方について意見交換を行いました。その中から大事なところをピックアップし、防災教育に携わる先生方へのメッセージとしてお届けします。

● 問題提起！

- 近年の災害経験や防災に関する動向、学校現場の取組などが改訂版には反映されており、高い防災意識を持った先生方にもお応えできる内容になったと思います。今、日本の防災、日本の防災教育が迷いの時期にあると思います。防災教育というのは、それだけで独立したものではなく、日本の防災のあり様とか、社会のあり様の中でとらえる必要があると最近強く思うようになりました。

● 防災教育をめぐる現場の悩み

- 以前は何の迷いもなく従来通りの防災教育を一生懸命やればよかったものが、例えば姿勢を身につけるとか自分事にするとか、その具体は何なのかと悩み、模索が続いている状況だと思っています。
- 防災教育については相変わらずテクニカルな話になりがちです。時間の確保が難しいとか、クロスカリキュラムですとか、外部の団体に任せるといった議論になります。
- 防災教育は教室座学であって、学校がやるものだという認識があります。その制約の中で実施される従来型の防災教育に限界がきているのではないのでしょうか。

● 要配慮者の問題から防災全体のあり方を問い直す

- 災害の度に要配慮者、高齢者が亡くなり続けています。防災の究極の目的はやはり犠牲者を一人も出さないということ。少なくとも天寿を全うできる、人が人らしく死ぬことができることが大切です。でも災害で人が死に続けています。
- 今の状況は行政も住民も少し無責任だと思っています。行政は要配慮者の対応を地域にゆだね、住民は住民で地域コミュニティが崩壊していることを棚に上げて行政の対応を求めます。宙に浮いている要配慮者という集団の中で犠牲者が出続けているという社会構造が問題なのです。
- 全ての日本の防災の問題点は、主体は行政で客体は住民である、という構造になっていること。主体性を持ってと言われて、みんなもわかっています。でも、住民主体の防災を行政主体で進めているような状況にあって、行政も住民も「主体性」という言葉の実像がわからず、混乱しています。

● 「時間軸で考える」というブレイクスルー

- 今までは防災教育というものを、我々大人たちが子どもたちをどう育むかという視点で見えていました。要配慮者問題も、我々健常者がお年寄りをどう面倒見てやるかと思っています。こういう考え方をしている限りダメだと思っています。
- つまり時間軸の中でつながっていて、「時間軸の今この瞬間自分たちはここにいるけど、20年経ったら自分たちは要配慮者のところにいる」となります。今、お年寄りを助けるということは、将来の自分もそのような地域で暮らすことができるということ。地域の人たちがちゃんと支えてくれる地域であることが大事なのです。
- 時間軸の中で考えると、要配慮者の問題も防災教育も全てつながっています。どんなに年をとろうとも、子どもであろうとも、災害というものに向き合える地域であること。そういう地域にするという中に防災教育が位置付けられるべきだし、要配慮者問題も位置付けられるべきです。

新潟県防災教育に関する検討会議からのメッセージ

● 防災教育を「育みの環境づくり」と再定義

- ・ 災害に向き合える社会とは、時間軸上に流れていく中で、どこの世代に属していても災害なんかで命を落とさない社会であり、そのような社会構造をみんなで作るという構図があって初めて防災なのではないでしょうか。その環境の中で大人になっていく、それが防災教育ではないかと思います。
- ・ こう考えると、これまでの「防災教育」という言葉は、もう使いたくないわけです。

● 学校で防災教育を実践する上で

- ・ 防災教育は、どうしても「教育」と名前がついているので、学習の目当てや指導案を作って実施するのですが、先生が知らない、気づかないことに対して、もう少しフレキシブルに対応できたらなと思います。
- ・ 例えばある関西の小学校の話。大人が車で生活する住宅街で、唯一街のことを歩いて知っているのは子どもたち。彼らが集めた情報は先生も知らない、街の大人たちも知らない、誰も知らない情報。これは子どもが作った防災マップですが、それは作ることが目的ではなく、彼らが気づくことをすごい発見だと認識する場として、防災教育が存在しています。
- ・ 防災教育は「教える」だけではありません。だから「正解はありません」と、明確に伝えた方がよいのかもしれませんが。「子どもたちの声をちゃんと聞いてあげてください」と。完璧な防災というのもあり得ません。こと防災に関しては、正解のないことを教えないといけないのに、正解を与えなくてはいいののかとなります。
- ・ 完全もない。100%の安心もない。だからみんなで不安を共有したり、不完全な部分をどう補うのか、正解がないものに対してみんなでどう判断をするのかということが大事であることを、先生方にわかっていたいただければと思います。
- ・ 防災教育は教える体系が従来のものと全く違います。正解がないため、先生は子どもの質問に対して適切なアドバイスがなかなかできません。そのうち、ともに悩むという姿勢を先生方が身につけ、その中で子どもたちにも気づかされ、子どもたちにも気づきを与えます。一緒に迷う中で地域に出て行ったら、思わぬところからいろいろ褒めてもらったり、喜んでもらったりして、子どもたちもどんどん変わっていきます。自分の取り組んできたこの防災教育のプロセスというものは、子どもたちに何をもたらしたんだろうかと、先生方が自問自答し始めたりします。

● 新潟県の防災教育を別次元の枠組みで

- ・ 防災教育をもう少し大きな、別次元の枠組みの中で捉えていかないといけないと思います。防災教育を考える枠はどこまでなのか。防災という枠だけではないように思いますし、何か大きなものにチャレンジしているような気がしてきます。
- ・ 防災教育は辛気臭くやってはいけません。命を大切にもいいんだけど、明るく楽しく。結局、地域づくりの話になってきます。
- ・ 新潟県はこのように防災教育の枠を拡大して捉えているということを共通認識にしていきたいと思います。

2. 防災教育 実践の手引き

本章では、防災教育を実践する上で参考にしていただきたい情報として、（１）全国で発生した近年の災害、（２）新潟県内の防災教育関連施設、（３）防災教育の実践サポート団体、（４）防災教育に役立つサイト、（５）防災教育の授業例、を掲載しています。

（１）全国で発生した近年の災害

現行の防災教育プログラムでは、『教職員用ガイド編』に「新潟県で発生した主な災害」を記載しています。プログラムが制作された平成26年以降も毎年のように地震や洪水、土砂災害などの大規模な自然災害が起き、全国各地で甚大な被害が発生しています。そこで、新潟県に限定せず、全国で発生した近年の主な災害について、その概要を整理しました。

【地震災害】

災 害	概 要
平成28年熊本地震 2016年4月14日・16日 【震源地】 熊本県熊本地方 【規模】 M7.3 最大震度7	■ 4月14日21時26分、熊本県でM6.5の地震が発生し、益城町で震度7を観測。16日午前1時25分にはM7.3の地震が発生し、益城町及び西原村で震度7を観測した。「本震－余震型」の判定条件が妥当でなくなった。 ■ 死者273人のうち、直接死は50人であり、200人以上が関連死。 ■ 避難所のあり方や被災者支援のあり方に大きな課題を投げかけた。 【人的・住宅被害】 ● 死者：273人 ● 住家全壊：8,667棟 ● 住家半壊：34,719棟
大阪府北部地震 2018年6月18日 【震源地】 大阪府北部 【規模】 M6.1 最大震度6弱	■ 7時58分に地震発生。朝の通勤・通学時間帯であり、交通機関が麻痺し、大量の通勤困難者が発生。典型的な都市型災害。 ■ 死者6人のうち2人はブロック塀の倒壊によるもの。登校中の小4児童が下敷きになり死亡した。 【人的・住宅被害】 ● 死者：6人 ● 住家全壊：21棟 ● 住家半壊：483棟
平成30年北海道胆振東部地震 2018年9月6日 【震源地】 北海道胆振地方 【規模】 M6.7 最大震度7	■ 午前3時7分に地震発生。震度7を観測した厚真町を中心に広範囲で表層崩壊が起き、多数の民家が巻き込まれた。 ■ 札幌市清田区の住宅地で液状化や流動化による被害が発生。 ■ 震源地近くの苫東厚真発電所が被災。離島を除く北海道ほぼ全域にあたる約295万戸で停電。日本初のブラックアウトとなった。 【人的・住宅被害】 ● 死者：42人 ● 住家全壊：462棟 ● 住家半壊：1,570棟
山形県沖地震 2019年6月18日 【震源地】 山形県沖 【規模】 M6.7 最大震度6強	■ 22時22分の地震発生2分後に津波注意報が発令（山形県、新潟県、石川県能登）。観測された津波は最大11cm（鶴岡市鼠ヶ関）。 ■ 新潟市の震度4と津波注意報は、どちらも市の避難所開設基準にあたらなかったが、自主的に避難した市民も多かった。 【人的・住宅被害】 ● 死者：0人（負傷者43人） ● 住家全壊：0棟 ● 住家半壊：36棟

【洪水災害】

災 害	概 要
平成27年9月関東・東北豪雨 2015年9月9日から11日 【氾濫した主な川】 鬼怒川 【主な破堤箇所】 茨城県常総市三坂町	■ 台風18号から変わった低気圧に次々と南から湿った空気が流れ込み、多数の線状降水帯が発生。9月9日から11日にかけて関東北部から東北地方に豪雨が続き、茨城、栃木、宮城三県を中心に被害が発生した。 ■ 9月10日朝、茨城県常総市で鬼怒川の堤防が決壊。濁流が市街地に流れ込み、家に取り残された多数の住民がヘリで救助される事態になる。 ■ 常総市の浸水範囲はハザードマップの想定浸水域とほぼ重なり、地域防災計画で浸水時の避難体制も決められていた。 ■ しかし災害対策本部の置かれた常総市役所本庁舎は一階が浸水し、職員、避難してきた住民、自衛隊関係者併せて約1,000人が孤立した。 【人的・住宅被害】 ● 死者：20人 ● 住家全壊：81棟 ● 住家半壊：7,090棟 ● 床上浸水：2,523棟 ● 床下浸水：13,259棟
平成28年台風10号 2016年8月30日 【氾濫した主な川】 小本川 【主な破堤箇所】 岩手県岩泉町	■ 8月21日に四国の南海上で発生した台風10号は、停滞・迷走、発達して30日朝関東地方に接近。同日夕方岩手県大船渡市付近に上陸し、東北地方を通過して日本海へ抜けた。 ■ 東北地方から北海道にかけて大雨。岩手県岩泉町では高齢者施設に濁流が流れ込み、9人が死亡。 【人的・住宅被害】 ● 死者：26人 ● 行方不明者：3人 ● 住家全壊：518棟 ● 住家半壊：2,281棟 ● 床上浸水：279棟 ● 床下浸水：1,752棟
平成29年7月九州北部豪雨 2017年7月5日から6日 【氾濫した主な川】 桂川（筑後川水系）他 【主な破堤箇所】 福岡県朝倉市ほか	■ 対馬海峡付近に停滞した梅雨前線に向かって、暖かく非常に湿った空気が流れ込んだ影響で、線状降水帯が形成され、九州北部地方で記録的な大雨となった。 ■ 福岡県朝倉市では1時間当たり129.5mm、7月5日から6日にかけての24時間で545.5mmの猛烈な降雨を記録した。 ■ 特に大量の流木が発生したことが災害規模を拡大した。 【人的・住宅被害】 ● 死者：42人 ● 行方不明者：2人 ● 住家全壊：338棟 ● 住家半壊：1,101棟 ● 床上浸水：223棟 ● 床下浸水：2,113棟

【洪水災害】

災 害	概 要
平成30年7月豪雨 【西日本豪雨災害】 2018年6月28日から7月8日 【氾濫した主な川】 小田川、久米川 【主な破堤箇所】 岡山県倉敷市真備町 愛媛県大洲市ほか	■ 前線や台風7号の影響により、日本付近に暖かく湿った空気が供給され続け、全国的に広い範囲で記録的な大雨。 ■ 西日本を中心に、広域的かつ同時多発的に水害・土砂災害が発生。 ■ 洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域において、避難行動を促す情報が発令されていたにもかかわらず、人的被害が多く発生。 ■ 河川の氾濫で町の多くが浸水した岡山県倉敷市真備町では、51人の死者のうち45人が65歳以上の高齢者であった。 【人的・住宅被害】 ● 死者：237人 ● 行方不明者：8人 ● 住家全壊：6,767棟 ● 住家半壊：11,243棟 ● 床上浸水：7,173棟 ● 床下浸水：21,296棟
平成30年台風21号 2018年9月3日から5日	■ 台風の接近・通過により、西日本から北日本にかけて非常に強い風が吹き、激しい雨が降った。 ■ 特に四国や近畿地方では猛烈な風が吹いたほか、これまでの観測記録を更新する記録的な高潮となった。 ■ 関西国際空港は高波で浸水。滑走路は機能停止、旅客ターミナルは停電。また強風により対岸をつなぐ連絡橋にタンカーが衝突したことで、乗客等が孤立した。 【人的・住宅被害】 ● 死者：14人 ● 住家全壊：68棟 ● 住家半壊：833棟 ● 床上浸水：244棟 ● 床下浸水：463棟
令和元年台風15号 2019年9月9日	■ 台風の接近・上陸により、関東地方では猛烈な雨と猛烈な風が吹き、観測史上1位の最大風速や最大瞬間風速を観測したところがあった。 ■ 特に千葉県では風による倒木や建築物の被害に加え、送電塔や電柱の倒壊で停電。復旧に時間を要し、停電は長期に及んだ。 【人的・住宅被害】 ● 死者：3人 ● 住家全壊：391棟 ● 住家半壊：4,204棟 ● 床上浸水：121棟 ● 床下浸水：109棟
令和元年台風19号 2019年10月12日 【氾濫した主な川】 阿武隈川、千曲川他 【主な破堤箇所】 宮城県丸森町 福島県須賀川市 長野市ほか多数	■ 台風本体の雨雲と周辺の湿った空気の影響で、関東甲信、東北地方を中心に広い範囲で記録的な大雨。 ■ 東日本各地で大規模な河川氾濫が相次いだ。 【人的・住宅被害】 ※10月25日からの大雨による被害を含む ● 死者：99人 ● 行方不明者：3人 ● 住家全壊：3,280棟 ● 住家半壊：29,638棟 ● 床上浸水：7,837棟 ● 床下浸水：23,092棟

【土砂災害】

災 害	概 要
平成25年台風26号 伊豆大島土石流災害 2013年10月16日	■ 10月15日から台風の暴風域に入る。17時30分大雨警報、18時土砂災害警戒情報。 ■ 16日午前2時30分、記録的短時間大雨情報（気象庁）発令。 ■ 大島町は16日午前2時、非常配備警戒体制をとるも、豪雨中の夜間の避難は危険と判断し、避難勧告・避難指示は出さなかった。 ■ 土石流は16日午前2時～3時頃に発生、伊豆大島の中心部を直撃した。 【人的・住宅被害】 ● 死者：36人 ● 行方不明者：3人 ● 住家全壊：137棟 ● 住家半壊：49棟
平成26年8月20日広島土砂災害 2014年8月20日	■ 未明の局地的短時間大雨により、広島市安佐南区から安佐北区にかけて、住宅地背後の山が崩れ、同時多発的に土石流が発生。 ■ 土石流が発生した一帯は、複数の土石流で形成された複合扇状地で、いわば土石流の通り道であった。 ■ 被災箇所の多くは土砂災害警戒区域に未指定だった。 ■ 発生時間は午前3時20分頃～4時頃にかけての未明。 【人的・住宅被害】 ● 死者：77人 ● 住家全壊：179棟 ● 住家半壊：217棟
平成30年7月豪雨 【西日本豪雨災害】 2018年7月5日から8日	■ 広島県では、広島市や呉市、坂町（さかちょう）等において同時多発的に土石流等が発生した。 ■ 死者が出た箇所に係る全ての市町において、発災前に土砂災害警戒情報が発表され、その7割で避難勧告が発令されていた。 ■ 自宅が土砂災害警戒区域に含まれていることを認識していたのは住民の約2割（アンケート調査より）。 ■ 防災情報は認識していたものの、居住地や避難場所までのルートがすでに危険な状態で、避難できなかった事例もあったと推定される。 【人的被害（土砂災害によるもの）】 ● 死者：119人（がけ崩れ：35人、土石流84人）
平成30年北海道胆振東部地震 2018年9月6日	■ 午前3時7分M6.7の地震が発生し、厚真町で震度7を観測。広範囲で表層崩壊が発生。多くの家屋が土砂に埋まる。 ■ 火山噴出物で構成された脆弱な地質のうえ、地震前日に台風の大雨で多量の水分を含んでいた。 【人的・住宅被害】 ● 死者：42人 ● 住家全壊：462棟 ● 住家半壊：1,570棟
平成26年御嶽山噴火 2014年9月27日	■ 行楽シーズンの好天の土曜昼頃に噴火発生。頂上付近にいた多数の登山者が巻き込まれる。死者58人、不明者5人。 ■ 1979年の噴火まで文書等の噴火記録なく、過去の噴火データが乏しい状況であった。 ■ 噴火前、9月10日に52回、11日に52回の火山性地震を観測するも、山体膨張や火山性微動は観測されず、その後地震回数も減少し、警戒レベルは普段通りの1のままで、登山者への警戒呼びかけはされていなかった。

【雪災害】

災 害	概 要
平成30年豪雪 1月～2月にかけて北陸地方を中心に1981（昭和56）年以来の大雪	■ 1月11日、三条市内のJR信越線で積雪のため普通列車が15時間にわたり立ち往生した。400人を超える乗客が車内に閉じ込められた。 ■ 1月12日には新潟市で8年ぶりに積雪80センチを記録。 ■ 1月中旬から下旬にかけての相次ぐ寒波で全国各地で氷点下の低温を記録。家庭の水道管破損が相次いだ。 ■ 2月6～8日の大雪では、福井市の積雪が140センチを越え、福井県嶺北地方の交通機関がマヒ。国道8号で車両1,500台が立ち往生するなど、生活や物流にも大きな影響が出た。 【人的・住宅被害】 ● 死者：116人 ● 住家全壊：9棟 ● 住家半壊：18棟 ● 住家浸水：53棟

(2) 新潟県内の防災教育関連施設

自然の恵み豊かな新潟県では、昔から地震だけでなく、豪雨や雪による気象災害も含め、多くの自然災害が発生しました。そのため、度重なる大災害の記録や、それに立ち向かってきた先人たちの様子を知ることのできる数多くの文献や資料が残されており、それらを伝えるための施設が各地に整備されています。

現行の防災教育プログラムの『教職員用ガイド編』では、このような災害や防災について学習できる新潟県内の施設を紹介していますが、今回の改訂にあたり、市町村の防災担当部局や教育委員会のご協力のもと、現時点の情報を更新しました。社会科見学や体験学習等を検討・計画する際にご活用ください。

<防災教育関連施設の一覧リスト>

No.	市町村	災害	施設名称	施設所在地	連絡先
1	新潟市	地震・洪水	新潟県立自然科学館	〒950-0948 新潟市中央区女池南3-1-1	TEL : 025-283-3331 FAX : 025-283-3336
2	新潟市	地震・洪水	新潟市歴史博物館みなとぴあ	〒951-8013 新潟市中央区柳島町2-10	TEL : 025-225-6111 FAX : 025-225-6130
3	新潟市	地震・洪水	亀田郷土地改良区資料館 「芦沼館」	〒950-0168 新潟市江南区東早通1-2-25	TEL : 025-381-2131 亀田郷土地改良区企画課
4	新潟市	洪水・その他	新潟市江南区郷土資料館	〒950-0144 新潟市江南区茅野山3-1-14	TEL : 025-383-1001 FAX : 025-381-7921
5	新潟市	洪水・その他	新潟防災センター (国土交通省北陸地方整備局 北陸技術事務所)	〒950-1101 新潟市西区山田2310-5	TEL : 025-231-1281 FAX : 025-231-1282
6	長岡市	地震	長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	〒940-0062 長岡市大手通2-6 フェニックス大手イースト2F	TEL : 0258-39-5525 FAX : 0258-39-5526
7	長岡市	地震	川口きずな館	〒949-7503 長岡市川口中山1441	TEL : 0258-89-3620 FAX : 0258-89-3621
8	長岡市	地震	やまこし復興交流館おらたる	〒940-0204 長岡市山古志竹沢甲2835 (山古志支所隣 旧山古志会館)	TEL : 0258-41-1203 FAX : 0258-41-1204
9	長岡市	洪水・雪	新潟県立歴史博物館	〒940-2035 長岡市関原町1丁目字権現堂 2247-2	TEL : 0258-47-6130 FAX : 0258-47-6136
10	長岡市	地震・津波・ 洪水・雪・火災	ながおか市民防災センター	〒940-0082 長岡市千歳1-3-85 ながおか市民防災センター2F	TEL : 0258-39-2262 FAX : 0258-39-2283 (危機管理防災本部)

No.	市町村	災害	施設名称	施設所在地	連絡先
11	長岡市	火災	長岡市消防本部庁舎	〒940-0082 長岡市千歳1-3-100	TEL : 0258-36-0119 FAX : 0258-36-8320
12	長岡市	地震	長岡市立科学博物館	〒940-0084 長岡市幸町2-1-1 さいわいプラザ内	TEL : 0258-32-0546 FAX : 0258-36-7691
13	柏崎市	原子力	柏崎原子力広報センター 「アトムミュージアム」	〒945-0017 柏崎市荒浜1-3-32	TEL : 0257-22-1896 FAX : 0257-32-3228
14	柏崎市	原子力	新潟県柏崎刈羽 原子力防災センター	〒945-0034 柏崎市三和町5-48	TEL : 025-282-1695 FAX : 025-285-2975 (県原子力安全対策課)
15	柏崎市	地震	中越沖地震メモリアル まちから	〒945-0066 柏崎市西本町3-2-8	TEL : 0257-22-2003 FAX : 0257-22-2007
16	三条市	洪水	三条市水防学習館	〒955-0091 三条市上須頃167-1	TEL : 0256-35-6520 FAX : 0256-35-6521
17	小千谷市	地震	おぢや震災ミュージアム そなえ館	〒947-0026 小千谷市上ノ山4-4-2 小千谷市民学習センター 「楽集館」内	TEL : 0258-89-7480 FAX : 0258-89-7485
18	見附市	洪水	防災アーカイブ	〒954-0111 見附市今町1-3358 道の駅パティオにいがた内	TEL : 0258-94-6211 FAX : 0258-94-6215
19	燕市	洪水	信濃川大河津資料館	〒959-0124 燕市五千石	TEL : 0256-97-2195 FAX : 0256-97-2196
20	燕市	地震・火災	燕・弥彦総合事務組合 防災センター	〒959-0248 燕市吉田浜首408-1	TEL : 0256-92-1119 FAX : 0256-92-1129
21	糸魚川市	火災	糸魚川市消防本部庁舎	〒941-0069 糸魚川市南寺島2-10-20	TEL : 025-552-0119 FAX : 025-552-6925
22	糸魚川市	地震・土砂・ 火山	フォッサマグナミュージアム	〒941-0056 糸魚川市一ノ宮1313	TEL : 025-553-1880 FAX : 025-553-1881
23	糸魚川市	雪	柵口雪崩資料館	〒949-1323 糸魚川市大字田麦平7-2	TEL : 025-566-3111 FAX : 025-566-4286 (糸魚川市能生事務所)
24	上越市	土砂	地すべり資料館	〒944-0125 上越市板倉区猿供養寺402-1	TEL : 0255-78-2687
25	上越市	雪	上越科学館	〒942-0063 上越市下門前446-2	TEL : 025-544-2122 FAX : 025-544-3939
26	佐渡市	地震・火災	佐渡市消防本部 防災センター	〒952-1311 佐渡市八幡58	TEL : 0259-51-0123 (消防本部予防課)

<各施設の概要>

No.1 新潟県立自然科学館 【地震・洪水】			
所在地	〒950-0948 新潟市中央区女池南3-1-1	連絡先	TEL : 025-283-3331 FAX : 025-283-3336
開 館	9:30-16:30（土日祝・夏期 -17:30） （入館は閉館30分前まで） 休館日：月曜日（祝日の場合は翌日） 年未年始	入 館 料	大人580円（団体 大人470円） 小学生・中学生 100円
施設の概要	見て、触れて、操作して、遊びながら科学に対する興味を喚起できるように展示設計された参加・体験型の総合科学館です。常設展示場「新潟県の移り変わり」では、これまで新潟県内で起きた地震・水害の記録や、それを防止するための対策などを紹介しています。  新潟県立自然科学館の外観  過去の地震・水害の記録を多数展示		

No.2 新潟市歴史博物館みなとぴあ 【地震・洪水】			
所在地	〒951-8013 新潟市中央区柳島町2-10	連絡先	TEL : 025-225-6111 FAX : 025-225-6130
開 館	9:30-18:00 （10月～3月は17:00まで） 休館日：月曜日（祝日の場合は翌日） 休日の翌日・年未年始 など	入 館 料	一般 300円 高校生・大学生 200円 小学生・中学生 100円 （土日祝日は小・中学生無料）
施設の概要	新潟市の歴史・文化を楽しく学べる施設です。「郷土の水と人々の歩み」を常設展示しており、かつてこの地が地理的な特徴から洪水を起こしやすい場所であったこと、過去に起こった大洪水の状況などを学習できます。また、新潟地震も紹介しています。  過去の洪水の状況を示した電飾パネル  新潟地震を紹介するコーナー		

No.3	亀田郷土地改良区資料館「芦沼館」【地震・洪水】		
所在地	〒950-0168 新潟市江南区東早通1-2-25	連絡先	TEL：025-381-2131 (亀田郷土地改良区企画課)
開館	平日9:00-16:30(要予約) ※10名以上の団体のみ	入館料	無料
施設の概要	亀田郷土地改良区創立50周年を記念して、平成10年に開館しました。湛水時代の苦難を乗り越えてきた歴史を伝える資料として、農具・民具(約200点)や地域を襲った洪水・地震の写真を展示しています。  芦沼館外観  かつての暮らしを伝える資料		

No.4	新潟市江南区郷土資料館【洪水・その他】		
所在地	〒950-0144 新潟市江南区茅野山3-1-14	連絡先	TEL：025-383-1001 FAX：025-381-7921
開館	月～木・土曜日：10:00-19:00 日曜日・祝日：10:00-17:00 休館日：金曜日・年末年始	入館料	無料
施設の概要	過酷な「水との闘い」が続いた江南区の歴史や文化・先人の努力などを将来にわたって広く伝え、人々の郷土に対する誇りや愛情の醸成に貢献できる施設を目指し、平成24年10月にオープンしました。近隣の小中学校への出前講座も行っています。  1階 農機具や遺跡資料など  2階 昔の人々が使用した生活用品など		

No.5	新潟防災センター（国土交通省北陸地方整備局北陸技術事務所）【水害・その他】		
所在地	〒950-1101 新潟市西区山田2310-5	連絡先	TEL：025-231-1281 FAX：025-231-1282
開館	対応時間帯 9:30-16:00 閉庁日：土・日曜日 祝日・年末年始	入館料	無料（要予約。通常業務、災害対応業務によっては受入できないことがあります。）
施設の概要	発災時に現地で作業を行う災害対策車両を実際に見ることができます。排水ポンプ車、照明車、遠隔操縦ショベル、災害対策本部車を保有しており、この他、応急組み立て橋等もご覧いただけます。体験型学習として降雨体験装置や災害支援等の説明も行っています。  災害対策車両の見学  防災センターの役割について学習		

No.6	長岡震災アーカイブセンター きおくみらい【地震】		
所在地	〒940-0062 長岡市大手通2-6 フェニックス大手イースト2F	連絡先	TEL：0258-39-5525 FAX：0258-39-5526
開館	10:00-18:00 （土日祝日は17:00まで） 休館日：火曜日・年末年始	入館料	無料（案内希望の場合は要相談）
施設の概要	中越大震災の記憶と教訓を未来へ伝える施設として平成23年10月にオープンしました。最新の防災技術展示、災害や防災に関する約1000点の図書コーナー、中越大震災の記録映像を視聴できるシアターなどが用意されており、新潟県中越の災害や復興に関する様々な情報、知識を入手することができます。  床一面に広がる被災当時の航空写真と実験・防災グッズ展示コーナー  自由に閲覧できる文献・図書コーナー		

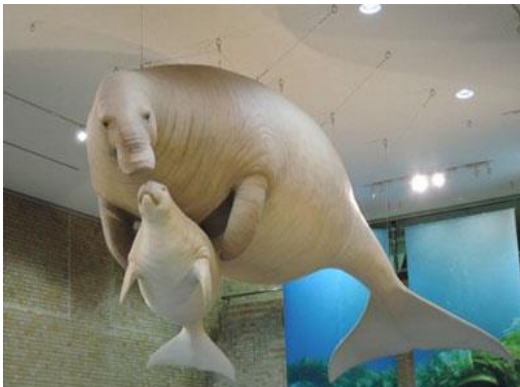
No.7 川口きずな館【地震】			
所在地	〒949-7503 長岡市川口中山1441	連絡先	TEL : 0258-89-3620 FAX : 0258-89-3621
開 館	10:00-17:00 休館日：火曜日	入 館 料	無料（案内希望の場合は要予約）
施設の概要	住民5,000人の「絆の物語」を集積・伝承して地域内外との交流を深め、地域づくりの拠点をめざす施設です。震災後に生まれた多くの「絆」を大切にしながら様々な団体と連携して交流プログラムなどに工夫を凝らし、多様な地域間交流を生み出しています。  地域内外との交流をすすめるスペース  絆ポストと絆物語		

No.8 やまこし復興交流館おらたる【地震】			
所在地	〒940-0204 長岡市竹沢甲2835 (山古志支所隣、旧山古志会館)	連絡先	TEL : 0258-41-1203 FAX : 0258-41-1204
開 館	1階 9:00-17:00 2階 10:00-16:00 休館日：毎週火曜日、年末年始	入 館 料	無料（案内希望の場合は要予約） 無料音声ガイド貸出（日本語・英語）
施設の概要	中山間地域の再生拠点、地域と来訪者との交流拠点として整備されました。地形模型シアターでは、中越地震の概要と、全村避難により無人となった山古志村で何が行われていたのかを8分間の映像で説明します。震災の体験と復興に向け積み重ねてきた経験をお伝えし、山古志の魅力を全国に情報発信する拠点です（英語対応可）。  プロジェクションマッピングを用いた 地形模型シアター  復旧・復興の歩みを写真パネルで紹介		

No.9 新潟県立歴史博物館【洪水・雪】			
所在地	〒940-2035 長岡市関原町1丁目字権現堂2247-2	連絡先	TEL : 0258-47-6130 FAX : 0258-47-6136
開 館	9:30-17:00（入館は16:30まで） 休館日：月曜日（祝日の場合は翌日） 12/28～1/3	入 館 料	一般：520円（団体410円） 高校・大学生：200円（団体160円） 中学生以下無料
施設の概要	新潟県の歴史・民俗を総合的に展示し、全国的・世界的視点から縄文文化を紹介する博物館です。「新潟県のあゆみ」コーナーでは、洪水の歴史と大河津分水の役割を紹介。また「雪と暮らし」コーナーでは、豪雪地・新潟の雪害対策などを紹介しています。   洪水の歴史と大河津分水を紹介するコーナー 豪雪地・新潟を再現した展示		

No.10 ながおか市民防災センター【地震・津波・洪水・雪・火災】			
所在地	〒940-0082 長岡市千歳1-3-85 ながおか市民防災センター2F	連絡先	TEL : 0258-39-2262 FAX : 0258-39-2283 (長岡市危機管理防災本部)
開 館	9:00-18:00	入 館 料	無料（案内希望の場合は要予約）
施設の概要	地震、雪・水害、火災、備え・救護、高さ体験と5種類のパネルで、災害や防災について学習することができます。巨大タッチスクリーンでは、クイズに答えたり、ゲームをしたりしながら、楽しく防災について学ぶことができます。   高さ体験ゾーン 80インチの巨大タッチスクリーン		

No.11 長岡市消防本部庁舎 【火災】			
所在地	〒940-0082 長岡市千歳1-3-100	連絡先	TEL : 0258-36-0119 FAX : 0258-36-8320
開 館	8:30-17:15	入 館 料	無料（団体視察・案内希望は要予約）
施設の概要	県内初の免震構造を採用した建物であり、庁舎内の見学が可能です。天然ガスを用いたコージェネレーションシステムや、雨水を貯めてトイレの洗浄に使うことができる地下貯留槽など、様々な防災機能を備えています。  ガラス越しに見学できる地下の免振装置  ガラス越しに見学できる指令室		

No.12 長岡市立科学博物館 【地震】			
所在地	〒940-0084 長岡市幸町2-1-1さいわいプラザ内	連絡先	TEL : 0258-32-0546 FAX : 0258-36-7691
開 館	9:00-17:00 休館日：毎月の第1・3月曜日 12/28～1/4	入 館 料	無料
施設の概要	長岡及びその周辺地域の自然や歴史、文化を学ぶことができる展示の中で、地盤地震災害や地殻変動も取り上げています。 また、災害復旧工事中に化石が見つかったヒドロダマリス属海牛（愛称：ミョウシー）を復興のシンボルとして展示しています。  地震地盤災害の展示  海牛の生体復元模型		

No.13 柏崎原子力広報センター「アトミュージアム」【原子力】			
所在地	〒945-0017 柏崎市荒浜1-3-32	連絡先	TEL : 0257-22-1896 FAX : 0257-32-3228
開 館	9:00-16:30 休館日：月曜日（祝日の場合は翌日） 年末・年始（12/29～1/3）	入 館 料	無 料 （研修室等利用の場合は施設利用申請書への記入が必要）
施設の概要	原子力発電、放射線利用など原子力の平和利用に関する知識の普及啓発を行い、地域社会の安全と安心に寄与することを目的とした施設です。館内は研修室や実験室を備え、エネルギー関連の体験、「霧箱」の飛跡観察体験やモニタリング情報の表示もしています。また、「原子力（出前）講座」や「放射線・エネルギー教室」等の講座も開催しています。   アトミューひろば、アトミューらぼ キッズコーナー、ライブラリー、研修室		

No.14 新潟県柏崎刈羽原子力防災センター【原子力】			
所在地	〒945-0034 柏崎市三和町5-48	連絡先	TEL : 025-282-1695 FAX : 025-285-2975 (新潟県防災局原子力安全対策課)
開 館	平日9:00-17:00 (視察対応可能時間)	入 館 料	無料（要予約。日常業務・訓練実施等で視察できないことがあります。）
施設の概要	原子力災害発生時、国や県の職員、市町村、原子力事業者、消防や自衛隊等関係機関及び専門家が参集し、情報を共有し、住民避難等の対策の調整を図る拠点施設です。同じ建物内には、原子力規制庁の柏崎刈羽原子力規制事務所が設置され、原子力発電所の保安検査業務を行っています。   （訓練）県現地本部会議 （訓練）県現地本部要員の活動		

No.15 中越沖地震メモリアル まちから【地震】			
所在地	〒945-0066 柏崎市西本町3-2-8	連絡先	TEL : 0257-22-2003 FAX : 0257-22-2007
開 館	9:30-17:00 休館日：火曜日・年末年始	入 館 料	無料
施設の概要	歴史的建造物を改修して、中越沖地震の経験と教訓を発信する役割を新たに担いました。シアターでは地震発生の状況や市民力による復興まちづくりの様子を映像でご覧いただけます。情報ルームではタッチパネルで災害・防災だけでなく、柏崎地域の魅力などの情報も確認いただけます。また語り部やまち歩きなど要望に応じてコーディネートします。  中越沖地震シアター  中越沖地震情報ルーム（旧 読書室）		

No.16 三条市水防学習館【洪水】			
所在地	〒955-0091 三条市上須頃167-1	連絡先	TEL : 0256-35-6520 FAX : 0256-35-6521
開 館	9:00～17:00 休館日：12/29-1/3	入 館 料	無料
施設の概要	三条市を襲った二度の水害を教訓とし、災害時には復旧活動の拠点となる三条防災ステーションに併設されています。平成16年と平成23年に起きた豪雨災害の記録、水害の疑似体験などを通じて市民の防災意識の向上を図る「防災教育」の拠点です。水圧体験や音と映像による水害の怖さを体感できます。  ドア水圧体験  水害降雨再現シアター		

No.17 おぢや震災ミュージアム そなえ館 【地震】			
所在地	〒947-0026 小千谷市上ノ山4-4-2 小千谷市民学習センター「楽集館」内	連絡先	TEL : 0258-89-7480 FAX : 0258-89-7485
開 館	9:00-17:00 休館日： 毎週水曜日・年末年始	入 館 料	無料（案内希望の場合は要予約）
施設の概要	中越大震災発生の様子を国内文化施設初導入のMX4D映像で体験。被災状況と「そなえ」の重要性を学べます。館内は災害の時系列に沿って展示案内が行われ、発災直後、避難生活、復旧・復興、それぞれの場面に応じた「そなえ」について知ることができます。また、希望に応じて、被災経験者による語り部講話（有料）を受講することもできます。  大迫力MX4Dシアターで揺れを体験  実験・防災グッズ工作などの リクエストにも対応		

No.18 防災アーカイブ 【洪水】			
所在地	〒954-0111 見附市今町1-3358 道の駅パティオにいがた内	連絡先	TEL : 0258-94-6211 FAX : 0258-94-6215
開 館	9:00-21:00	入 館 料	無料
施設の概要	先人が培ってきた「災害から学んだ知恵」を生かし、「平成16年7.13水害」後に講じた対策が、7年後に発生した「平成23年7月新潟・福島豪雨」にどのように生かされたかを模型や写真パネルで展示しています。見附市が行っている防災対策についてシアターで知ることができます。  刈谷田川の歴史や水害に関する写真  見附市の防災対策に関する映像		

No.19 信濃川大河津資料館【洪水】			
所在地	〒959-0124 燕市五千石	連絡先	TEL : 0256-97-2195 FAX : 0256-97-2196
開 館	9:00-16:00 休館日：月曜日（祝日の場合は翌日以降の休日ではない最初の日）	入 館 料	無料（団体での利用の場合は要予約）
施設の概要	大河津分水の歴史と役割を学ぶための施設です。信濃川は豊かな実りをもたらした反面、たび重なる洪水により多くの命や家や田畑を流し去りました。人々の命とくらしを守るため、多くの人々の願いと努力によってつくられた「大河津分水」は、今も洪水から越後平野を守り続けています。  模型を見ながら大河津分水を見学  洪水の様子をシュミレーションできる		

No.20 燕・弥彦総合事務組合 防災センター【地震・火災】			
所在地	〒959-0248 燕市吉田浜首408-1	連絡先	TEL : 0256-92-1119 FAX : 0256-92-1129
開 館	8:30-17:15 休館日：12/29～1/3	入 館 料	無料 （案内希望及び団体の場合は要予約）
施設の概要	自家発電装置や蓄熱槽を備えており、災害時に避難施設として機能します。備蓄庫には生活に必要な食糧・水・毛布などの非常用持ち出し品を備えています。平常時には、体験コーナーや防災シアターといった各種施設で、防災や消防の知識や技術を学ぶことができます。  展示コーナー  備蓄庫		

No.21 糸魚川市消防本部庁舎 【火災】			
所在地	〒941-0069 糸魚川市南寺島2-10-20	連絡先	TEL : 025-552-0119 FAX : 025-552-6925
開 館	8:30-17:15 休館日：なし（災害の発生等により受入れできない場合あり）	入 館 料	無料 （見学・施設利用の場合は要予約）
施設の概要	消防署機能と防災センターとしての機能を兼ね備えた施設として、平成16年2月に開庁しました。火災が起きた時の対応について学習できる体験コーナーなどがあり、消防署見学と併せて随時、受け付けています。事前に電話等でご連絡ください。   消防本部庁舎 体験コーナー		

No.22 フォッサマグナミュージアム 【地震・土砂・火山】			
所在地	〒941-0056 糸魚川市一ノ宮1313	連絡先	TEL : 025-553-1880 FAX : 025-553-1881
開 館	9:00-17:00（入館は16:30まで） 休館日：12月～2月の月曜日 （月曜日が祝日の場合は翌日） 祝日の翌日、12/28～1/4	入 館 料	一般500円（団体20名以上400円） 小学生-高校生300円（団体200円） 小学生未満・障がい者は無料
施設の概要	日本列島や大地の生い立ちを学ぶことができます。地震や火山噴火、地すべりなどの自然災害はフォッサマグナと大きく関係しています。新潟県の活火山の一つ、焼山の火砕流堆積物のはぎとり展示があります。   火山噴出物（焼山）のはぎとり展示 フォッサマグナシアター		

No.23 柵口雪崩資料館【雪】			
所在地	〒949-1323 糸魚川市大字田麦平7-2	連絡先	TEL 025-566-3111 FAX 025-566-4286
開 館	予約時のみ開館 ※糸魚川市能生事務所にて予約受付	入 館 料	無料
施設の概要	昭和61年に発生した柵口雪崩災害の記録保存と災害教訓を後世に伝えるため、平成8年に建設されました。館内には雪崩災害の被害状況や救出作業にあたる様子を伝える報道記事や、雪崩のメカニズムを分かりやすく解説したジオラマなどが展示されています。   雪崩災害への対応啓蒙コーナー 柵口雪崩災害ジオラマ		

No.24 地すべり資料館【土砂】			
所在地	〒944-0125 上越市板倉区猿供養寺402-1	連絡先	TEL : 0255-78-2687
開 館	9:30-16:30 休館日：毎週火曜日・年末年始	入 館 料	無料
施設の概要	1階では、地すべり現象も含めた自然災害全般を学ぶことができ、地すべりを止めるための施設や装置の模型を見ることができます。2階では、液状化や土石流、雪崩などの自然災害について模型を使って体験できます。監視・観測を行う機器の展示や、災害への備え、伝説・地名の由来について知ることができます。   1階：地すべりで埋まっていた埋もれ木 2階：地すべり工事がわかる断面模型		

No.25 上越科学館【雪】			
所在地	〒942-0063 上越市下門前446-2	連絡先	TEL : 025-544-2122 FAX : 025-544-3939
開 館	9:00-17:00（入館は16:30まで） ※夏期特別展期間：9:00-18:00 休館日：月曜日（祝日の場合は翌日） 12/29～1/1 （夏休み・春休み期間は無休）	入 館 料	一般（高校生以上）600円 小学生・中学生 300円 【年間パスポート】 一般（高校生以上）1,500円 小学生・中学生 750円
施設の概要	上越科学館は「人間の科学」と「雪の科学」をテーマとした科学館です。10のゾーンに分かれていて、地球ができてから現在までの生命の進化と人間の関係、雪が降る理由と生活とのかわりなどについて学習できる構成となっています。環境とエネルギーについて学べる「環境エネルギー学習施設」もあります。   Fゾーン 雪のサイエンス 入口 雪の結晶等の展示		

No.26 佐渡市消防本部 防災センター【地震・火災】			
所在地	〒952-1311 佐渡市八幡58	連絡先	TEL : 0259-51-0123 (消防本部予防課)
開 館	10:00-16:00 休館日：月曜日（祝日の場合は開館） 年未年始	入 館 料	無料
施設の概要	煙避難体験や消火体験、119番通報体験、新潟地震や中越地震、中越沖地震など様々な防災・災害体験を行うことができます。防災について学んでいただくミニシアターもあります。展示コーナーでは、防災グッズなどを展示しています。   防災シアターと地震体験コーナー 煙体験・119番通報体験・消火体験コーナー		

(3) 防災教育の実践サポート団体

出前講座、授業支援、資料提供など、防災教育の実践をサポートしてくれる新潟県内の団体を紹介します。

① 国土交通省北陸地方整備局

津波

地震

洪水

土砂

雪

総合学習支援、出前講座、社会資本見学ガイドを柱に、「歴史」「自然」「地域」「防災」を学習テーマとした学校での講演、写真資料の提供、学習プログラムの作成、施設の案内などを行っています（無料）。



NEWS.

探索.

ジャンル

トップへ戻る

総合学習支援 ●メッセージ ●総合学習の現場から ●ニュースレター ●相談窓口 ●支援実績 ●Q&A

出前講座 ●目的 ●登録出前講座一覧 ●申込み方法

社会資本見学ガイド ●社会資本見学ガイドトップページ

河川(55) ダム(10) 防砂(16) 渇水(6) 道路(35) 建設産業(0) 都市・住宅整備(4) 公園・緑地(1) 宮廷(9) 産
業・空港(28) 用地取得・補償(2) 発注・契約(6) 建設(1) 農林・工法(4) コスト削減(2) リサイクル(2) 運
送(15) 社会資本整備(2) 施設・設備(2) 防犯(10) 情報・通信(3) Q&A(1) その他(2)

総合学習支援 ～学校のフィールドワーク～	出前講座	社会資本見学ガイド
小中高校の「総合学習」のために、北陸地方整備局の社会資本整備をテーマとする学習教材を提供します。社会資本の役割を理解し、地域を思いやる豊かな心を持った人の育成に役立ちたいと考えます。	北陸の地域づくりなど幅広くわかりやすい講座を準備しています。北陸地方整備局の役割や地域との関わりを正確に理解いただけるプログラムです。	北陸地方の暮らしを支えている社会資本を紹介し、社会資本整備の重要性についてご理解いただくための見学ガイドです。

例えばこんな出前講座を行っています

歴史 × 講演

大河津分水ができるまでの先人たちの苦闘を紹介し、自分たちになにができるかを考えていただきます。

講演者

- ① 多くの読者
- ② 橋田切や幸川初
- ③ 苦闘した分水工事
- ④ 大河津分水の恵み
- ⑤ 私たちにできること

自然 × 体験

水辺の生き物を観察したり植えたたり観察したりすることで、自然の豊かさと厳しさに気づいていただきます。

プログラム案

- ① 水辺の注意事項
- ② 生き物のとり方
- ③ 生き物の保護
- ④ バックテスト
- ⑤ 川のきれいを考える

地域 × 見学

鳥屋野渇排水機場や新渇大堰の現地説明を行い、郷土の発展を支える施設の役割を学んでいただきます。

工程案

- ① やすらき橋
- ② 信濃川水門
- ③ 新渇大堰
- ④ 渇水分水資料館
- ⑤ 鳥屋野渇排水機場

防災 × WS

ハザードマップを使って地域の危険箇所や避難場所、自宅を探し、水害から命を守る方法を考えていただきます。

プログラム案

- ① 様々なマップ
- ② マップの使い方
- ③ 学校や自宅探し
- ④ 命を守る方法の検討
- ⑤ 発表とまとめ

他にも...

- ✓ ワークシートやクイズなどの資料も準備できます。
- ✓ フィールドワークやバスに乗車してのガイドも可能です。
- ✓ 先生方やPTAの皆様に対象とした研修も対応できます。
- ✓ 現地見学の際は環境の操作室や工事現場など普段は入れない所のご案内もできます。
- ✓ 年間を通じた学習プログラム案のご提案もできます。

● 授業時間や先生方のご希望に合わせて内容を調整させていただきます。● 現地見学会などは天候等に合わせ内容を変更させていただきます場合があります。● 10月のフィールドワークや材料等の実施は確認させていただきます。● 講演の準備について代表者にアンケートをお願いする場合があります。● 児童・生徒の安全確保は先生方にお任せいたします。

お申込み・お問い合わせ

信濃川河川事務所
〒940-0098 新潟市中央区
TEL: 0258-32-3020
FAX: 0258-33-8168
E-mail: shinano@hrr.mlit.go.jp

信濃川下流河川事務所

〒951-8153 新潟市中央区文庫1-14-13
TEL: 025-266-7131
FAX: 025-266-7105
E-mail: shinaga@hrr.mlit.go.jp

信濃川大河津資料館

〒950-0124 新潟市下石
TEL: 0256-97-2195
FAX: 0256-97-2196
E-mail: ohkouzu@hrr.mlit.go.jp

出前講座は、こんなことをやっています。

- ✓ 防災（洪水対策）、治水の取り組み、信濃川の歴史などについて「**信濃川の専門**」（河川事務所の職員）が詳しく説明します。
- ✓ 小学生用に作成した、**やさしい内容のイラスト**を使って説明します。
- ✓ 随時の質問、質疑には丁寧に答えします。
- ✓ 講演料などは不要、**無料でお手伝い**します。

現場へ来て「見て！」

対象 信濃川、魚野川が流れる市町村の小学校4～6年生、中学校

時間 学校側の要望に合わせて調整

内容 学校側の要望に合わせて調整
・ 信濃川大河津資料館と分水路跡施設
・ 妙見山の展望について
・ その他、当該校近隣の川づくりの現場 など

総合学習 お手伝いします

国土交通省の～出前講座～のご紹介

洪水って何だろう？

大河津分水って人工の川？

信濃川にはどんな魚がいるの？

河川事務所ってどんなお仕事しているの？

学校へ行きます！

おすすめの講座は「信濃川と洪水対策について」

地域を流れる大河「信濃川」について紹介するとともに、洪水の歴史などからその危険性について説明します。

また、「洪水対策」として河川事務所がどのようなことを行っているのか解説をしたり、自ら被害に遭わないために何をすべきかなど、「防災」に関する解説をします。

水害から身を守るためには、日頃からリスクを認識しておくことが重要です！

国土交通省は、洪水からの「逃げ遅れゼロ」を目指し、様々な取組を行っています。

信濃川、魚野川が流れる市町村の小学校4～6年生、中学校
中・小・高の授業1コマ
主にパワーポイントを使いながらのレクチャー

内容 学校側の要望に合わせて調整
・ 信濃川と地域の関係に関すること
・ 防災対策（洪水）に関すること
・ 大河津分水、妙見山などの役割など
・ 治水の取り組みに関すること
・ 信濃川にすむ生き物に関すること

国土交通省北陸地方整備局 信濃川河川事務所
〒940-0098 新潟市中央区信濃1-5-30
TEL: 0258-32-3020
URL: http://www.hrr.mlit.go.jp/shinano/

各事務所で学習支援内容が異なります。詳しくは北陸地方整備局企画部企画課もしくは各事務所へお問い合わせください。

国土交通省北陸地方整備局 企画部企画課

〒950-8801 新潟市中央区美咲町1-1-1

TEL : 025-280-8834 Email : demae@hrr.mlit.go.jp

北陸技術事務所

〒950-1101 新潟市西区山田2310-5

TEL : 025-231-1281 (代表) FAX : 025-231-1283

阿賀野川河川事務所

〒956-0032 新潟市秋葉区南町14-28

TEL : 0250-22-2211 (代表) FAX : (0250)24-3005

信濃川河川事務所

〒940-0098 長岡市信濃1-5-30

TEL : 0258-32-3020 FAX : 0258-33-8168

信濃川下流河川事務所

〒951-8153 新潟市中央区文京町14-13

TEL : 025-266-7131 FAX : 025-266-7105

羽越河川国道事務所

〒959-3196 村上市藤沢27-1

TEL : 0254-62-3211 FAX : 0254-62-1106

高田河川国道事務所

〒943-0847 上越市南新町3-56

TEL : 025-523-3136 FAX : 025-526-0411

②新潟県の各地域振興局地域整備部

地震

洪水

土砂

雪

小中学校等における総合学習や社会科学習、防災学習の授業支援を行っており、地域振興局が管理する河川に関する内容ははじめとして、地震や水害等に関連する講座も行っています（無料）。

以下に各地域振興局の主な取組を紹介します。

● 三条地域振興局 地域整備部

学習支援メニューのご案内

https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/sanjou_seibi/1356911194045.html

2019年度用 新潟県三条地域振興局地域整備部

小中学校の先生の皆様へ 学習支援メニューのご紹介

新潟県三条地域振興局地域整備部では、小中学校等における総合学習や社会科学習、防災学習といった授業の支援を行っております。
ここに記したメニューを参考にしながらどうぞお気軽にご相談ください。

メニュー1 出前講座 キャリア教育や防災教育のお手伝いをいたします！

【説明内容の例】

①土木の仕事のやりがいや魅力(職業紹介)
■土木の仕事ってどんなことをするの？
■土木・建設業の仕事を紹介する。
■どんな人たちが仕事をしているの？
新潟県のほか、民間3協会（新潟県測量設計業協会、新潟県建設業協会、建設コンサルタンツ協会）との共同での紹介もいたします。

②災害からくらしを守る
■震災地域で発生した水害と土砂災害等から、立ち直る取り組みを紹介。
■災害のそなえや災害時に命を守る行動を解説します。

③土木施設の役割
■ダム、道路、堤防など、私たちの暮らしを支え、住みやすいまちにするための土木施設の歴史や役割を紹介。
■ドローンによる空撮等、新しい技術を活用したこれからの土木を紹介。

★その他、川の環境、ダム、道路、橋、除雪、土砂崩れ、雪害、コンクリート、まちづくり など テーマはご要望に応じます。

【H30 出前講座 参加者の声】

- 自分たちの生活にすぐ関わっていることを知りました。
- 土木の人たちが、去年の大雪で地域のためにがんばってくれたことを知り、自分もこれからできることを考えてみたい。
- ドローンの写真撮影が楽しかった。

【案内手帳の一例】

①出発地(学校等)から同乗
②到着までの車中での説明
③見学地(ダム等)での施設説明
④現場での作業(測量等)を体験
⑤見学地で働く人々へのインタビュー
⑥特殊な機械や装置の紹介
⑦到着地(学校等)での質疑応答

【見学・体験の例】

施設や機械・設備に密着して、土木を体験！

朝日大橋工事現場見学 測量体験

学習プログラムの例 大谷ダムの見学 所要時間約 60 分のケース

大谷ダムは、五十嵐川の洪水を防ぐ役割のほか、三条市・加茂市・田上町の水道用水を供給するとともに、川の流水を維持する役割があります。

①資料館でダムの概要を説明
■大谷ダムふれあい資料館で、建設のあゆみやダムの役割などを説明します。3D 映像の視聴もできます。

②操作室の見学
■ダムの管理方法や様々な機器を紹介します。
■普段は入ることができない場所です。

③ダムの内部を見学
■ダム内部の管理用通路に入り、ダムの大きさを体感します。
■普段は入ることができない場所です。

★三条市水防学習館や浄水場などを含めて行程を検討することも可能です。

ふれあい資料館の様子
模型や映像でダムの役割などを解説します。

ダム路上部から約 80m 高いところにある通路で解説している様子

学習支援の実績

平成30年	平成29年
○出前講座 : 小学校 2校 (44名)	○出前講座 : 小学校 1校 (90名)
○大谷ダム見学 : 中学校 1校 (74名)	○大谷ダム見学 : 小学校 10校 (384名)
○大谷ダム見学 : 小学校 10校 (443名)	○朝日大橋見学 : 高 校 1校 (40名)
○大谷ダム見学 : 高 校 2校 (125名)	○朝日大橋見学 : 小学校 2校 (82名)
○除雪実習 : 高 校 1校 (21名)	○遊水地見学 : 高 校 3校 (16名) など
○水防工法演習 : 高 校 1校 (18名) など	

メニューご利用にあたって

学校の希望に沿って柔軟に対応いたしますのでお気軽にご相談ください。

講師・費用等

- 講師は新潟県職員です。外部講師に依頼することもあります。
- 地域性や授業の進め方などを踏まえて、使用資料や説明内容、説明スタイル、所要時間を調整します。
- 費用は無料です。
- 現地見学のための移動手段（バス）はご用意します。
- プロジェクター等の機材はご用意いただくと助かりますが、無い場合はこちらで準備も可能です。

お問合せ先
新潟県三条地域振興局地域整備部 計画調整課
〒955-0046 三条市奥野1丁目13-45 TEL: 0256-36-2308 FAX: 0256-36-2290

● 新潟地域振興局 新津地域整備部

土木出張PR

https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/niigata_seibi_niitsu/1356901317535.html

【新津】「土木出張PR」のこれまでの開催状況

印刷 文字を大きくして印刷 ページ番号: 0055201 更新日: 2019年12月24日更新

新津地域整備部における「土木出張PR」のこれまでの開催状況は、以下のとおりです。

- 令和元年12月5日開催: 五泉市立川東中学校
- 平成30年11月13日開催: 五泉市立川東中学校
- 平成30年1月31日開催: 五泉市立川東中学校
- 平成28年10月7日開催: 五泉市立山王中学校
- 平成28年3月16日開催: 五泉市立川東中学校
- 平成28年1月28日開催: 五泉市立五泉中学校
- 平成28年1月18日開催: 新潟県立新津高等学校
- 平成27年12月22日開催: 五泉市立五泉北中学校



● 長岡地域振興局 地域整備部

『みんなの土木教室』学習支援プログラム

https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/nagaoka_seibi/1356851196061.html



みんなの土木教室

～ 学習支援プログラム ～

令和元年度版



私たちの暮らしと地域の安全を守る
建設業界。

体験して、楽しく学びましょう。



新潟県
長岡地域振興局 地域整備部



2. 学習支援のご案内

「まちをつくる まちをまもる」
土木の仕事について学んでみませんか？

① 社会科などで
…道路や橋の学習
私たちの暮らしを支える道路ネットワークのあらましや、橋・トンネルの歴史やしぐみについて学びます。税と公共事業のはたらきなどの切り口も可能です。

…除雪の学習
グレーダーやロータリー除雪車など実際に活躍している除雪機械が学校にお邪魔します。運転台にのぼって死角の大きさを体感してらうほか、冬の交通を守るための取り組みについて学びます。

② 総合的な学習などで…河川の学習
身近な河川の歴史、水害を防ぐための堤防やダム・遊水地などの整備や、水辺の利用や環境保全のくふうなどについて学びます。

③ 防災教育で…災害と復旧の学習
これまでの水害や地震などを題材に、道路や河川・橋などに起きた被害とその後の復旧のようす、建設業が果たした役割や、災害から身を守るための知識を学びます。

④ キャリア教育の一環として…土木のお仕事紹介編（土木出張PR）
建設産業の重要性和魅力を理解してもらい、将来の担い手確保につなげるため、中高生を対象に、県・測量会社・建設コンサルタント・建設会社が合同で、それぞれの仕事の内容を紹介しつゝ。スライドショーを用いた説明に加え、測量実習やドローンによる空撮実演なども行っています。









● 上越地域振興局 妙高砂防事務所

地すべり資料館のご案内（自然災害に関する防災教育は地すべり資料館で！）

https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/jouetsu_sabou/museum.html

出前教室（防災教室・防災講座）

【妙高砂防】上越市立谷浜小学校で防災講座を実施しました。

印刷 文字を大きくして印刷 ページ番号：0243081 更新日：2019年12月9日更新

令和元年10月26日（土曜日）に上越市立谷浜小学校で開催された「谷浜小学校・潮陵中学校合同文化祭」にて、土砂災害に関する防災講座を行いました。

当日は谷浜小学校5・6年生、潮陵中学校1～3年生、地域・保護者の皆様に参加いただき、自然災害から命を守る方法などについて説明しました。



【妙高砂防】上越市立美守小学校の皆さんを対象に防災教室を実施しました

印刷 文字を大きくして印刷 ページ番号：0250685 更新日：2020年1月23日更新

1月21日、美守小学校の5年生・6年生が地すべり資料館を訪れました。

この日はスキー授業を控えた児童の皆さんへ向けて、雪崩災害についての防災講座を行いました。



● 魚沼地域振興局 地域整備部

出前講座を受付けています

<https://www.pref.niigata.lg.jp/site/uonuma-seibi/1356773096148.html>

小中学校の先生の皆様へ 学習支援メニューのご紹介

新潟県魚沼地域振興局地域整備部では、小中学校等における総合学習や社会科学部、防災学習といった授業の支援を行っております。ここに記したメニューを参考にしながらどうぞお気軽にご相談ください。

メニュー1 出前講座 防災教育の1コマとして説明することもできます。

【主な説明内容】

- ① 魚沼地域の自然災害の歴史
 - 水害、地震、土砂災害、雪害等の魚沼地域の災害のメカニズムや歴史を紹介いたします。
- ② 自然災害を克服してきたあゆみ
 - ダム、道路、雪崩、雪崩予知警報など、私たちの暮らしを支える施設の歴史や役割を紹介いたします。
 - 佐梨川、破龍川などの個別の川（事例参照）、国道252号やシルバラインの個別道路、あるいは除雪作業や除雪機などの雪対策など、地域性を踏まえて取り上げることができます。
- ③ 災害から私たちの暮らしを守る人々たち
 - 尽力した、あるいは今でも尽力している人々の苦労や工夫、魚沼に対する思いを紹介いたします。

メニュー2 現地案内 治水施設や工事現場をご案内します。

【主な案内手順】

- ① 出発地（学校等）から同乗
- ② 到着までの車中での説明
- ③ 見学地（ダム等）での施設説明
- ④ 見学地で働く人々へのインタビュー
- ⑤ 特殊な機械や装置の紹介
- ⑥ 到着地（学校等）での質疑応答

ダム内部の工事現場では無関係な場所へは入れない場所が多く特別な体験ができます。工事現場は足場状況や作業内容によって見学地を相対させていただきます。

メニュー3 資料提供 学習の補助となるワークシートや写真等のデータを提供します。

① ワークシート

- 説明内容に合わせたワークシートやテスト問題を提供します。授業内容に即して活用できます。適宜修正いただくこともできます。

② 写真・動画・パワーポイントスライド等

- 先生ご自身が使うための情報や資料を提供します。

学習プログラムの例1 佐梨川をテーマにした出前講座 所要時間約 90 分

① パワーポイントで佐梨川の概要を説明（60 分）

- 佐梨川の概要一長一短、源流、地形、気象などを紹介します。
- 洪水の歴史一明治・大正時代から現代までの被害を紹介します。水害体験者の言葉を動画などで紹介することもできます。
- 利水の状況一円形分水工と農業や流通への利用、水力発電への利用を紹介します。
- 自然環境の状況一水質、水生生物や鳥類とその関係を紹介いたします。

② 佐梨川のテストを実施（20 分）

- 10 問程度の 3 ポテスト。パワーポイントの説明を聞いていれば全問正解できる内容とします。

③ 質疑応答（10 分）

「水害の歴史」、「土砂災害を防ぐ対策」など、内容を特化し、お話しすることもできます。

学習プログラムの例2 広神ダムの見学 所要時間約 60 分（発着の移動時間含まず）

① 広神ダムの概要を説明（10 分）

- 広神ダムを見ながら、建設のあゆみや役割などを説明します。

② 操作室見学（15 分）

- ダム操作の方法や様々な機器を紹介します。
- 操作員に苦勞などを聞くこともできます。
- 階段は入ることができません。

③ 広神ダムの内部を見学（25 分）

- 洪水を流すゲートや発電所などを紹介します。
- ダムの下から大きさを確認できます。
- 階段は入ることができません。

④ 質疑応答（10 分）

ダム内部の工事現場では無関係な場所へは入れない場所が多く特別な体験ができます。工事現場は足場状況や作業内容によって見学地を相対させていただきます。

メニューご利用にあたって 詳細はご相談させていただきます

講師・費用等

- 講師は新潟県職員です。外部講師に依頼することもあります（依頼することもできます）。
- 地域性や授業の進め方などを踏まえて、使用資料や説明内容、説明スタイル、所要時間を調整します。
- 出前講座を 2 回実施したり、現地見学会を別の日に実施するなど複数回の授業にも対応できます。
- 費用は無料です。現地見学会のためのバスのチャーター代などは相談させていただきます。
- プロジェクター等の機材はご用意いただくと助かりますが、無ければこちらで準備も可能です。

お問合せ先：新潟県魚沼地域振興局地域整備部 計画調整課
〒946-0004 魚沼市太田新田 91-4 TEL：025-792-4211 FAX：025-792-7401
e-mail：ngt111540@pref.niigata.lg.jp

● 糸魚川地域振興局 地域整備部

学習支援メニューのご案内

<https://www.pref.niigata.lg.jp/site/itoigawa-seibi/itodobokugakushuusen200110.html>

小中学校の先生の皆様へ 学習支援メニューのご紹介

糸魚川地域振興局地域整備部では、土木・建設の分野から、小中学校等における総合学習や社会科学部、防災学習といった授業の支援を行っております。ここに記したメニューを参考に、どうぞお気軽にご相談ください。

メニュー1 出前講座 キャリア教育や防災教育のお手伝いをいたします！

【説明内容の例】

- ① 土木の仕事紹介（職業紹介）
 - 土木の仕事のやりがいや魅力を紹介いたします。
 - 新潟県のほか、民間 3 協会（新潟県測量設計業協会、新潟県建設業協会、建設コンサルタンツ協会）と共同での紹介も可能です。
- ② 災害から暮らしを守る
 - 災害（水害、土砂災害、雪崩、地震、火山噴火など）のメカニズム、歴史や対策を紹介いたします。
 - 災害のそなえや災害時に「命を守る行動」を解説します。
- ③ 土木施設の役割
 - 道路、河川、海岸など、私たちの暮らしを支え、住みやすいまちにするための土木施設の役割を紹介いたします。

メニュー2 施設見学

- 糸魚川の主な土木施設を見学し、施設の役割を学びます。

【主な施設】

- ・ 能川港
- ・ 焼山火山対策の砂防えん堤
- ・ 浦口（能生地区）の雪崩減勢工
- ・ など

メニュー3 工事現場見学・体験

- 普段は近づくことができない工事現場を歩いたり、動く重機を間近で見学することができます。
- 現場での作業（測量など）を体験することもできます。

学習プログラムの例 出前講座「土木の仕事紹介」 所要時間約 120 分のケース

- ① 教室で土木の仕事を紹介（約 40 分）
 - 土木の仕事のやりがいや魅力を紹介いたします。
 - 土木にはどんな仕事があって、どうやって土木施設が作られているかを学びます。
- ② バスに乗って工事現場へ（片道約 15 分）
 - ちょっとした遠足気分です。
- ③ 工事現場の見学（約 50 分）
 - 普段は近づくことができない工事現場を見学します。
 - 動く重機を間近で見ることができ、貴重な体験ができます。
- ④ 工事をしている方にインタビュー（約 10 分）
 - 実際に工事現場で働いている方にインタビューを行い、土木の仕事の生の声を聞くことができます。

学習支援の実績（令和元年）

内容	対象学年
土木出張 PR（民間 3 協会共同の仕事紹介）	中学 2 年生（51 名）
災害・防災教育	小学 4 年生（42 名）
仕事紹介・現場見学	小学 6 年生（14 名）
防災教室・施設見学	小学 4 年生（8 名）

メニューご利用にあたって 学校の希望に沿って柔軟に対応いたしますのでお気軽にご相談ください。

講師・費用等

- 講師は新潟県職員です。外部講師に依頼することもあります。
- 地域性や授業の進め方などを踏まえて、使用資料や説明内容、説明スタイル、所要時間を調整します。
- 費用は無料です。現地見学会のためのバスのチャーター代などは相談させていただきます。
- プロジェクター等の機材はご用意いただくと助かりますが、こちらで準備も可能です。

お問い合わせ先
新潟県糸魚川地域振興局地域整備部 計画調整課
〒941-0052 糸魚川市南坪上 1 丁目 15-1
TEL：025-552-1969
e-mail：ngt112450@pref.niigata.lg.jp

各地域振興局で学習支援内容が異なります。詳しくは各地域振興局へお問い合わせください。

◆村上地域振興局地域整備部 計画調整課

〒958-8585 村上市田端町6-25

TEL : 0254-52-7966

FAX : 0254-53-4511

◆新発田地域振興局地域整備部 計画調整課

〒957-8511 新発田市豊町3-3-2

TEL : 0254-26-9653

FAX : 0254-26-6449

◆新潟地域振興局地域整備部 計画調整課

〒950-8716 新潟市東区竹尾2-2-80

TEL : 025-273-3187

FAX : 025-275-8711

◆新潟地域振興局 新津地域整備部 計画調整課

〒956-8625 新潟市秋葉区新津4524-1

TEL : 0250-24-9674

FAX : 0250-24-7355

◆新潟地域振興局 津川地区振興事務所
土木整備課 計画調整担当

〒959-4402 東蒲原郡阿賀町津川1861-1

TEL : 0254-92-0966

◆三条地域振興局地域整備部 計画調整課

〒955-0046 三条市興野1-13-45

TEL : 0256-36-2308

FAX : 0256-36-2290

◆長岡地域振興局地域整備部 計画調整課

〒940-8567 長岡市沖田2-173-2

TEL : 0258-38-2614

◆魚沼地域振興局地域整備部 計画調整課

〒946-0004 魚沼市大塚新田91-4

TEL : 025-792-4211

FAX : 025-792-7401

◆南魚沼地域振興局地域整備部 計画調整課

〒949-6680 南魚沼市六日町960

TEL : 025-772-3975

FAX : 025-772-2618

◆十日町地域振興局地域整備部 計画調整課

〒948-0037 十日町市妻有町西2-1

TEL : 025-757-5408

FAX : 025-752-5329

◆柏崎地域振興局地域整備部 計画調整課

〒945-8558 柏崎市三和町5-55

TEL : 0257-21-6321

FAX : 0257-24-0346

◆上越地域振興局地域整備部 計画調整課

〒943-8551 上越市本城町5-6

TEL : 025-526-9516

FAX : 025-525-2392

◆上越地域振興局 妙高砂防事務所

〒944-0016 妙高市美守1-4-5

TEL : 0255-72-4141

FAX : 0255-72-4303

◆糸魚川地域振興局地域整備部 計画調整課

〒941-0052 糸魚川市南押上1-15-1

TEL : 025-553-1968

FAX : 025-552-9674

◆佐渡地域振興局地域整備部 計画調整課

〒952-1555 佐渡市相川二町目浜町20-1

TEL : 0259-74-4040

FAX : 0259-74-2048

③新潟地方気象台

津波

地震

洪水

土砂

雪

防災・気象知識の普及啓発と防災情報の利用促進を図り、気象業務への理解を深めることを目的に「出前講座」を行っています。内容は「天気予報」「台風」「大雨と災害」「気象観測」「地域の気象特性」「気候変動・地球温暖化」「地震・津波・火山」など、気象台の業務に関連するものです（講座は無料、交通費等は負担の場合あり）。

<申し込み方法>

1ヶ月前までに電話にておおよその日程や内容をお知らせください。準備が必要な内容によってはお時間をいただくこともあります。申込書は直接持ってきていただくか、FAXまたは郵送でも受け付けています。

<お問い合わせ先>

新潟地方気象台 業務・危機管理担当（窓口）
月曜日～金曜日（祝日及び12/29～1/3日を除く）
午前8時30分～午後5時15分
TEL：025-281-5873 FAX：025-281-5862



出前講座・講師派遣の案内

<https://www.jma-net.go.jp/niigata/menu/demae.shtml>

④NPO法人ふるさと未来創造堂

津波

地震

洪水

土砂

雪

原子力

「子どもも大人も郷土愛を深め、皆でいのちを守る『防災共育』」の応援団として、地域に根差した防災共育の実践をサポートしています。多忙な学校現場の負担軽減と、皆（学校・地域・家庭）で支え合う「持続・発展可能な『共育社会の創造』」を目指して活動を行っています。

<活動の内容>

- ・防災教育や環境教育等に関する相談
- ・単元構成や授業案等の作成支援
- ・講座の企画・運営、コーディネート
- ・教材の開発・研究、研修会の開催
- ・～よりよい未来を子どもと一緒に創るプロジェクト～こども防災未来会議®の開催

<お問い合わせ先>

NPO法人ふるさと未来創造堂
新潟県長岡市福住3-4-39
TEL：0258-94-6119
FAX：0258-94-4582
E-mail：info@furusato-mirai.com
<https://www.furusato-mirai.org/>



防災教育サポート活動の実践事例

<https://www.furusato-mirai.org/学校関係のみなさま/>

(4) 防災教育に役立つサイト

最近では、インターネットから防災教育に役立つ様々な情報を入手することができます。防災教育を実践する上で役に立つサイトを紹介します。

●防災教育スイッチ（新潟県防災教育ホームページ）

防災教育へのハードルを下げたい、やってみようという気持ちを後押ししたい、という想いから制作された新潟県内の防災教育に関するホームページです。防災教育プログラムの全ての内容を掲載しており、ファイルとしてダウンロードすることができます。県内小中学校の実践事例を紹介しています。

<http://furusato-bousai.net/>



●首相官邸 防災の手引き ～いろいろな災害を知って備えよう～

災害の種類（地震、津波、火山、大雨・台風、竜巻、雪害）ごとに、「大規模自然災害ではどのようなことが起きるのか」「その時どう対応したら良いのか」「災害に対する備えはきちんと出来ているか」を確認することができます。詳しい資料や動画のリンク先も紹介されています。

<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/bousai/index.html>



●国土交通省気象庁 防災教育に使える副教材・副読本ポータル

対象年齢別（小学生、中学生 等）、現象別（気象、海洋、地震・津波 等）、形態別（リーフレット、読み物、動画 等）、作成者別（気象庁、国土交通省、日本赤十字社 等）に、副教材や副読本を検索することができます。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/fukukyouzai/index.html>



津波 地震 洪水 土砂

●国土交通省 防災教育ポータル

防災教育に取り組む先生に向けて最新の情報を提供するポータルサイトです。授業の参考資料となる教材・素材が災害種別ごとにわかりやすく紹介しています。防災教育の進め方に関する手引き・ガイドライン、災害分類・科目・学年・地方区分別の事例も多数掲載されています。

<http://www.mlit.go.jp/river/bousai/education/material.html>



津波 地震 洪水 土砂 雪

●総務省消防庁 防災教材

防災教材である「チャレンジ！防災48」「防災紙芝居」「わたしの防災サバイバル手帳」をダウンロードすることができます。「チャレンジ！防災48」では、災害時における身の安全の確保、初期消火や救出・救助などを学ぶためのテキストや補助教材を分類別、年代別に入手できます。

<http://open.fdma.go.jp/e-college/bosai/index.html>



津波 地震 洪水 土砂

●内閣府 TEAM防災ジャパン

教員や防災リーダーが、小・中学生への指導に活用できる防災教育コンテンツとして、「緊急地震速報と地震が来た際の対処法」「津波が起きるしくみと避難の際の心がまえ」「台風の進路を予測して台風に備える」の3つがあり、映像コンテンツ、指導案、ワークシート等が紹介されています。

<https://bosaijapan.jp/education/>



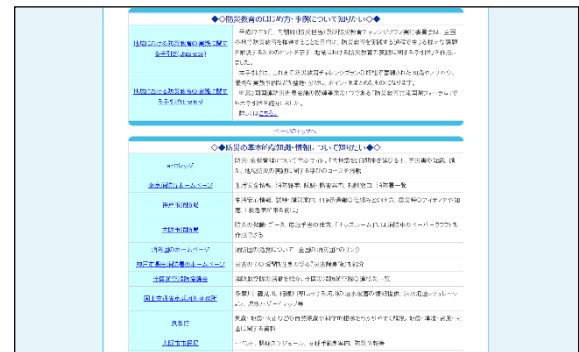
津波

地震

●防災教育チャレンジプラン 防災教育に役立つリンク集

防災教育に関する総合的なリンク集です。「防災教育のはじめ方・事例について知りたい」「防災教育の企画・内容について相談したい」「防災教育で使用する機材・グッズを入手したい」「防災教育の教材を入手したい」など、目的に応じて、参考となるサイトを効率的に探すことができます。

<http://www.bosai-study.net/link/index.html>



津波

地震

洪水

土砂

雪

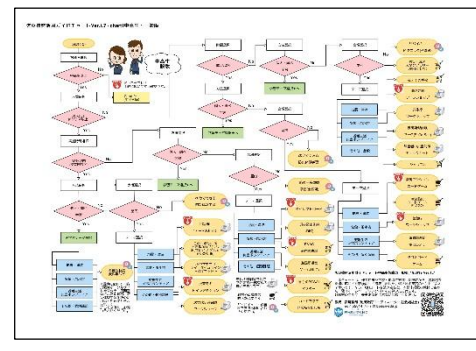
原子力

●防災教育普及協会 防災教育教材・防災ゲーム等の一覧

学校・地域での防災教育で活用できる様々な防災教育教材・防災ゲーム等を一覧（リンク先）で紹介しています。また、防災教育教材活用ガイドチャートがあり、対象者、時間、会場などの条件から適した教材を選ぶことができます。

<https://www.bousai-edu.jp/info/kyouzai-list/>

https://www.bousai-edu.jp/info/kyouzaiuide_support/（防災教育教材活用ガイドチャート）



津波

地震

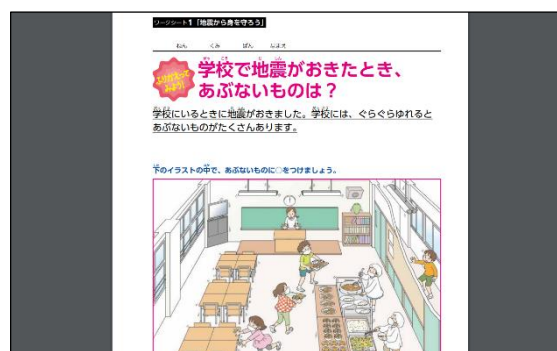
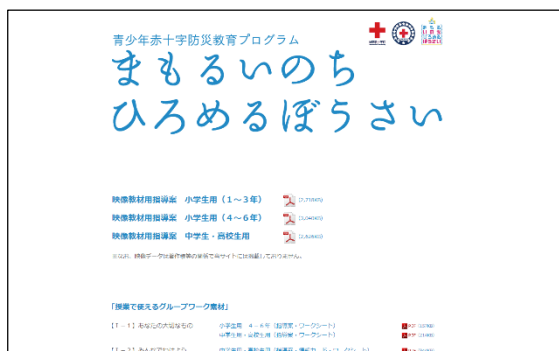
洪水

土砂

●日本赤十字社 青少年赤十字防災教育プログラム まもるいのちひろめるぼうさい

自然災害に向き合ってきた日本赤十字社と現場教員が提案する「授業ですぐ使える防災教材」がまとめられています。小中学生・高校生向けに、授業で使えるグループワーク素材、授業で使える作文素材、授業で使える写真素材をPDFファイルとしてダウンロードすることができます。

<http://nisseki-jrc-bousai.com/>



津波

地震

洪水

土砂

雪

●NHK そなえる防災

地震や台風などの各ジャンルごとに専門家が詳しく解説しているコラムや、身を守るための知恵や工夫をわかりやすく紹介しています。その他、防災に関する質問に専門家が答えるQ&A、動画で学ぶコンテンツ（地震・津波・台風・水害・熱中症）などを掲載しています。

<http://www.nhk.or.jp/sonae/>



津波

地震

洪水

土砂

雪

●独立行政法人防災科学技術研究所 自然災害を学ぶ

地震や火山、気象災害などの自然災害についての基礎知識や、学生（児童・生徒）向けコンテンツ、耐震実験などの動画が配信されています。災害への備えや発生時の心得などをまとめたデジタルブック「そのときに備えて」を閲覧・ダウンロードすることができます。

http://www.bosai.go.jp/activity_general/



津波

地震

洪水

土砂

雪

●NPO法人土砂災害防止広報センター 防災学習お役立ちページ

土砂災害を防ぐ、備える、学ぶ、伝えるための資料として、WEB副読本、映像集、イラスト集、土砂災害年表、土砂防災かるたなどを提供しています。小中学校授業での土砂災害防止教育展開例も学年別、教科別に掲載されています。

<http://www.sabopc.or.jp/library/index.html>



土砂

雪

●NTT東日本 災害用伝言ダイヤル

NTT東日本が提供する「災害用伝言ダイヤル（171）」「災害用伝言板（web171）」の概要や使い方を紹介しています。「映像で見る「171」「web171」の使い方」では、伝言の録音、再生、登録、確認の方法を映像で確認することができます。

<https://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice171/>



津波

地震

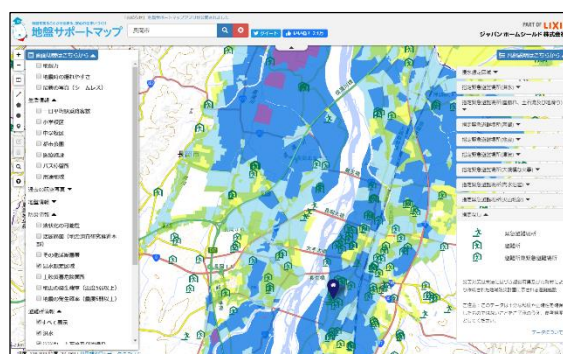
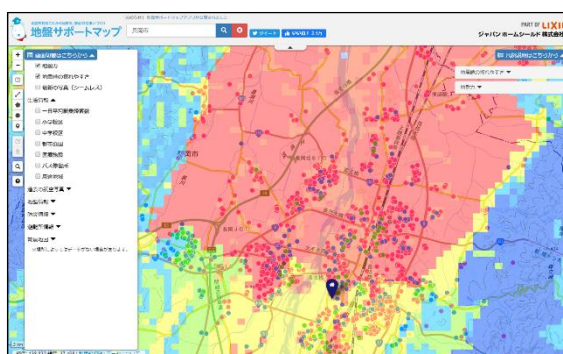
洪水

土砂

●ジャパンホームシールド株式会社 地盤サポートマップ for U

見たいエリアの地質図、地耐力（強い地盤・やや強い地盤・ふつうの地盤・弱い地盤）、地震時の揺れやすさ、液状化の可能性、活断層図、浸水想定区域、地震の発生確率、避難所情報などを地図上で重ねて閲覧することができます。

<https://www.j-shield.co.jp/1million/cp2.htm>



津波

地震

洪水

土砂

●国土交通省信濃川下流河川事務所 信濃川下流域情報アーカイブ

信濃川下流域で水防災・河川環境教育を担当する教育関係者の側方支援を目的に、関連する既存の資料やデータを収集・紹介しています。洪水被害が起こるメカニズム、近年の水害の被害状況とその洪水対策、避難するときの注意事項、気象情報の見方などのコンテンツが掲載されています。

<http://www.hrr.mlit.go.jp/shinage/kyougikai/archives/index.html>

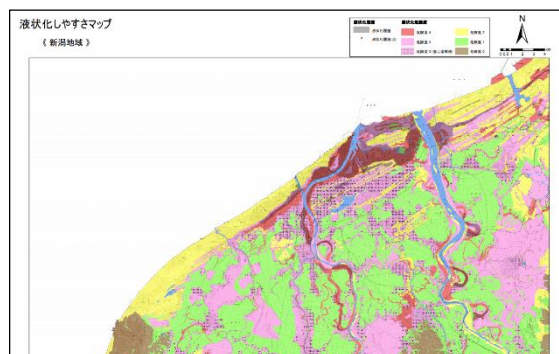
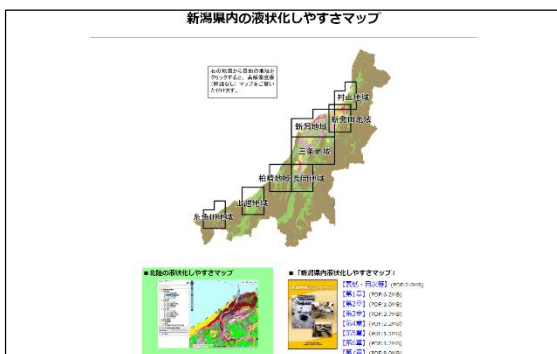


洪水

●国土交通省北陸地方整備局 新潟県内の液状化しやすさマップ

新潟地震や中越地震などで、地盤の液状化現象は家屋や堤防等に大きな被害をもたらしました。このような背景から、過去の液状化発生状況や地形地質情報などを加えて、液状化しやすさマップを掲載しています。「新潟県内液状化しやすさマップパンフレット」(PDF)をダウンロードできます。

<http://www.hrr.mlit.go.jp/ekijoka/niigata/niigata.html>

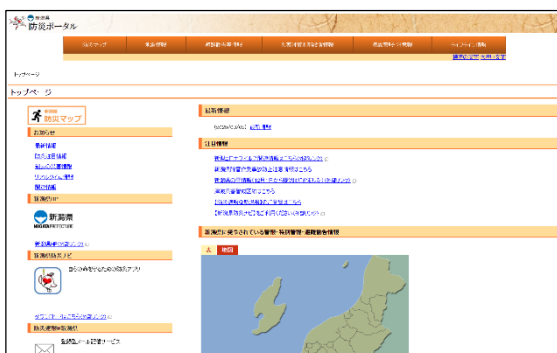


地震

●新潟県 防災ポータル

新潟県内に発令されている警報・特別警報・避難勧告情報、県内の災害情報や避難先を確認することができます。自らの命を守るためのスマートフォン用アプリ「防災ナビ」や登録型メール配信サービスを利用することで、河川防災情報等を受信することができます。

<http://www.bousai.pref.niigata.jp/contents/index.html>



津波

地震

洪水

土砂

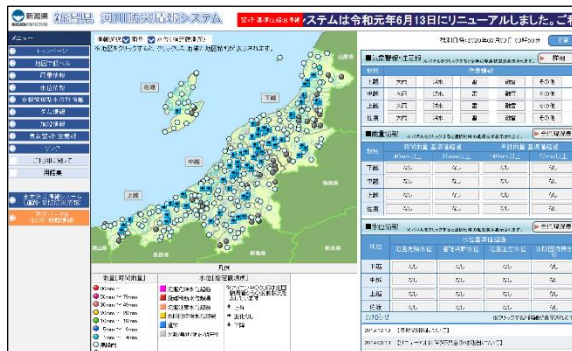
雪

原子力

●新潟県 河川防災情報システム

新潟県及び国土交通省・気象庁で観測している県内各地の水位・雨量・ダム情報を、インターネットや携帯電話を通じて提供しています。県内の地域ごとに気象警報・注意報の発表状況を確認することができます。災害時の避難情報として広く活用してください。

<http://doboku-bousai.pref.niigata.jp/kasen/>

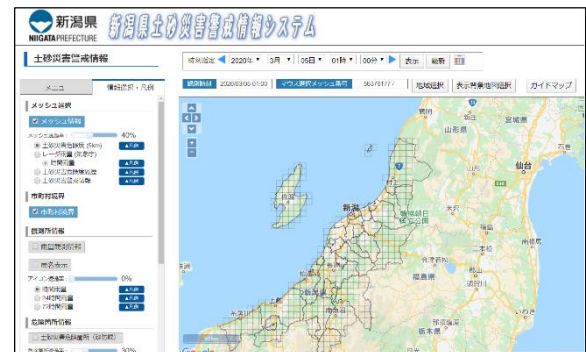


洪水

●新潟県土砂災害警戒情報システム

避難判断の目安となるように、新潟県が地域の詳細な土砂災害危険度を情報提供しています。県内の土砂災害危険度や危険箇所を5km及び1kmメッシュで確認することができ、レーダー雨量、土砂災害危険度履歴、土砂災害警戒情報の確認もできます。

<http://doboku-bousai.pref.niigata.jp/sabou/index.html>



土砂

●防災教育に役立つ資料集

新潟県土木部河川管理課では、子どもたちの防災への理解を深めるため、各地域の写真や浸水想定区域図など河川に関する資料をとりまとめました。過去の水害・豪雨状況、浸水実績図、浸水想定区域図、ハザードマップ、防災啓発資料、用語集などが掲載されています。

<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/kasankenri/1356817679550.html>



洪水

●中越メモリアル回廊

新潟県中越大地震のメモリアル拠点である、きおくみらい、おらたる、そなえ館、川口きずな館の4つの施設と3つの公園施設、中越沖地震のメモリアル拠点まちからの紹介をしています。見学・視察、語り部の紹介も可能です。防災グッズチェックリストもダウンロードできます。

<http://c-marugoto.jp/>



地震

(5) 防災教育の授業例（新潟県内）

防災教育プログラムが配布されて以降（平成26年4月より）、県内の各学校において、創意工夫された様々な防災教育の取組が進められています。今回の改訂版では、いくつかの実例に基づき、学習指導案の形式で7つの事例を紹介します。防災教育の授業を行う際にご活用ください。

防災教育の授業例 掲載リスト

番号	対象学年	内 容
事例1	小学校低学年	防災工作を通して災害後を生き抜く知恵を学ぶ
事例2	小学校中学年	持ち出し品ワークを通して災害への備えを考える
事例3	小学校高学年	地震後に地域で気を付けるもの・役立つものの視点を得る
事例4	小学校高学年	防災まち歩き・マップ作りで地域の危険箇所・防災資源を知る
事例5	中学校	避難所の状況を知り、避難所運営に大切な視点を学ぶ
事例6	中学校	避難所での困りごとの解決方法と中学生の役割を考える
事例7	特別支援	防災クイズを通して災害の危険性を知り、身の守り方を学ぶ



なお、ホームページ『防災教育スイッチ』では、県内各校における防災教育の実践例を紹介しております。年間計画やお手軽防災教育（ちょっとした工夫）なども多数紹介しておりますので、こちららも併せてご参照ください。

防災教育スイッチ（新潟県防災教育ホームページ）

<http://furusato-bousai.net>



事例 1	小学校 低学年	防災工作を通して災害後を生き抜く知恵を学ぶ ○災害後の暮らしの様子を知る。 ○災害後の暮らしを生き抜く知恵を学び体験する。	知る 考える 行動する
---------	------------	--	-------------------

■事前の準備

○ポリ袋レインコート上下分…ポリ袋(45ℓ) 2枚×人数分

○新聞紙スリッパ両足分…新聞紙2枚×人数分

○新聞紙食器1皿分…新聞紙1枚×人数分

※必要に応じて作り方の紙やスライドをプリントアウトする。

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
【導入】	1. 災害後の暮らしの様子を伝える ①災害が起きると、物が壊れたり、電気・ガス・水道が使えなくなったりして、普段の暮らしと様子が変わること伝える。 ②新しく物を手に入れようと思っても、みんなが買うためにお店で売り切れていたり、道が壊れてお店や避難所に届かないことを伝える。 ③災害時はその場にあるものを工夫して使うことが大切だと伝える。 <指導ポイント> ○いきなり物の作り方を教えるのではなく、災害が起きると暮らしはどうなるのか、必要な物をどう確保するか考えさせる。 ○なぜ身の回りのものを工夫して代用する必要があるのか理解させてから工作する。	※確保できる時間や児童の発達段階に応じて、工作する物品を選んで実施する。 ※所要時間のめやす（工作のみの時間） ・ポリ袋レインコート(下)：5分 ・ポリ袋レインコート(上)：10分 ・新聞紙スリッパ：5分 ・新聞紙食器：10分 ◆例) 新聞紙食器の作り方スライド さいがいがおきと…   つかえない うりきれる →そのばにあるものや かんたんにに手に入るものを <u>くふう</u>してつかう
【展開】	2. 防災工作をする ①作り方の資料を参考に、手順に沿って工作をする。 ②1つ完成したら、自力で作れるよう、もう1つ作る。	◆例) 新聞紙食器の作り方スライド しんぶんしでおさらをつくろう  

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
【展開】	3. 完成したグッズの使い心地を確認する ①完成したグッズを試着・使用して使い心地を確認する。 ②試着・使用して気づいたことを発表させる。 <指導ポイント> ○作り方を習うだけでなく、使い心地を確かめて感想を共有し、そこからさらに工夫できることを考えさせる。	■問いかけの例 ・新聞紙スリッパを履いてみてどうですか。 ■想定される答え（新聞紙スリッパの場合） ・紙だから滑りやすい ・履いていないよりは良いけれど足が冷たい ・薄くてずっと履いていると壊れそう ■問いかけの例 ・もっと良いグッズにするためにはどんな工夫ができそうですか。 ■想定される答え（新聞紙スリッパの場合） ・新聞紙を何枚か重ねて折る。 ・底にダンボールを付ける。 ・ガムテープで補強して壊れにくくする。
【まとめ】	4. 災害後の暮らしを生き抜くために必要なことを確認する ①災害が起きると、物が壊れたり、電気・ガス・水道が使えなくなったりして、普段の暮らしと様子が変わることを再確認する。 ②災害時はその場にあるものを工夫して使うことと、電気・ガス・水道が使えなくなっても困らない準備をしておくことが大切だと伝える。 <指導ポイント> ○その場にあるものを工夫して使うだけでなく、その時に困らなくていいような事前の準備も大切であることをおさえる。 例）冬期の場合、家のすぐ持ち出せるところに、防寒具を置いておく。 持ち出し袋にアルミブランケット・ホッカイロを入れておく。	※防災工作を紹介しているサイト NHK NEWS WEB「つくってまろう」 https://www3.nhk.or.jp/news/contents/bousai_tips/ 

事例 2	小学校 中学年	持ち出し品ワークを通して災害への備えを考える ○災害後の暮らしを守るための備えについて考える。 ○人によって必要な備えが違うことに気付く。	知る 考える 行動する
---------	------------	---	-------------------

■事前の準備

○防災グッズチェックリストを人数分A3サイズで印刷する。

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
【導入】	1. 災害後の暮らしを守るための備えについて学習することを伝える ①災害が起きたらまずは安全なところへ移動して命を守ることを伝え、その先の生活はどうなるか問いかける。 ②スライドを使い災害後の家の中の様子をイメージさせる画像を紹介する。 ➡家に物が散乱したり、家具が壊れたり、家が壊れたりして、家に住めなくなる可能性があることを伝える。 ➡家に住めない場合は別の場所で避難生活を送る場合があることを伝える。 ③スライドを使い災害後の避難生活の様子をイメージさせる画像を紹介する。 ➡災害が起きると電気・ガス・水道が止まり、テレビ・風呂・トイレなどが使えなくなる可能性があることを伝える。 ➡上記のような状況になったらどんなことに困るか問いかける。	◆持ち出し品ワークスライドP1～18 ■問いかけの例 ・災害が起きたあと、命が守れたらその後はどんな生活になると思いますか？ ■想定される答え ・水が出なくなる。電気が使えなくなる。 ・家が壊れて住めなくなる。 ・わからない。考えたことがない。 さいがいがおきると… 
【展開】	2. 持ち出し品を考える ①防災グッズチェックリストを1人1枚配り、リストを使って災害時の持ち出し品を考えると伝える。リストの見方の説明をする。 ②災害後の生活をイメージして、自分に必要なものを5つ選びチェックを入れ、選んだ理由も言えるように準備することを伝える。 ＜指導ポイント＞ ○リストに載っているグッズはどれも役立つものだが、持ち出す品が多ければ多いほど、かさばり重くなることを伝える。 ○選ぶときのポイントとして、電気・ガス・水道が使えなくなったら何に困るかイメージを膨らませると考えやすいことを伝える。	◆持ち出し品ワークスライドP19～22 ◆防災グッズチェックリスト(A3両面印刷) ◆筆記用具 ※リストの説明 ・災害後の生活に役立つものが48個載っている。 ・リストには載っていないもので、必要なものがある場合、49～52の空欄に書く。 ぼうさいグッズチェックリスト 

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
【展開】	3. グループで選んだグッズとその理由を発表する ① 3～5人のグループで、それぞれが選んだ5つのグッズと選んだ理由を発表し合う。 ② 全体に向けて意見をいくつか発表させる。 <指導ポイント> ○ 全体発表時に出た意見を板書すると、人によって選ぶものが違うという気づきを得やすい。 ○ リストに載っている48個のグッズ以外に、空白の欄に記入したグッズとその意見を拾うと、さらに人によって違うことが分かりやすい。	■ 発表の仕方（例） ◆ 持ち出し品ワークスライドP23 グループのなかでえらんだグッズとその理由をしようかいしあおう わたしは●●番の■■■と ●●番の■■■と……を えらびました。 りゆうは~~~~~ だからです。  ※ 選んだグッズを紹介する時、番号を読み上げると他の人が見つけやすい。
【まとめ】	4. 持ち出し品についてわかったことを確認する ① 災害後の生活を送るうえで、年齢や体の状況など人によって必要な物は違うことを伝える。 例) 視力が弱い→めがね・コンタクト用品 持病がある→薬・お薬手帳 髪が長い→ヘアゴム・帽子・くし ペットを飼っている→えさ・ケージ 家族に赤ちゃんがいる →オムツ・ミルク・着替え・衛生用品 ② 家族の中でも一人一人必要な物は違うため、持ち出し品の準備を家族に任せるのではなく、よく話し合って分担することを伝える。 ※ 家族に学んだことを伝え、災害への家庭の備えの話し合うことを宿題とするのも良い。 ③ 注意するポイントとして、持ち出し品よりも命が大切であるため、家の倒壊や危険が差し迫っている場合など持ち出すことが難しい場合は、命を優先することを伝える。	◆ 持ち出し品ワークP24 <指導ポイント> ○ 漫画やゲーム・お気に入りの嗜好品など、一見必要のないものでも、被災後の不安定な気持ちを落ち着けるために必要な場合はそれも大切であることを伝える。 ○ ただし、水分の摂取と排泄については、誰もが必要な準備であることも伝える。 まとめ ① ひとりひとり ひつようなものはちがう → 家族でよく話し合う ②  よりいのちがだいじ！ → むりにもっていかなくてよい 24

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
【展開】	3. 地震後に安全な所・役に立つものを知る ①写真を見せながら地震後に安全な所・役に立つものを確認する。 ・空地 ・AED ・消火設備 ・公衆電話 ②写真で見せたもの以外に安全な所・役に立つものがあるか考えさせる。 ※考えたことを防災まち歩きチェックリストに記入させる。 ※個人で考えた内容について、全体で共有し、板書する。	◆防災まち歩き事前学習スライドP19～25 空き地 物が落ちず安全に集まれる  このほかに 役に立つものは 何があるだろう？ 
【まとめ】	4. 学習した内容を振り返る ①大きな地震が起きると様々なものが落ちたり倒れたりすることを確認する。 一方で、地域には地震後に役に立つ資源があることも確認する。 ②次回は、安全に避難し、地震から命を守れるよう、地域を歩きながらチェックすることを伝える。 <指導ポイント> ○普段見なれている景色でも、災害後のイメージを膨らませることで、見方が変わってくる。 ○本時に考えきれなかった部分や、防災まち歩きチェックリストの項目以外で生徒が考えたポイントが実際にどうであるか、次時に確認することを伝える。	◆防災まち歩き事前学習スライドP26 まとめ ★地震が起きると様々なものが 落ちる 倒れる  ★安全に避難できるように 地震が起きる前に地域をチェックしよう！

事例 4	小学校 高学年	防災まち歩き・マップ作りで地域の危険箇所・防災資源を知る ○地域の危険箇所と防災資源を調べる。 ○防災まち歩きの結果をもとにマップを作成する。	知る 考える 行動する
---------	------------	--	-------------------

■事前の準備

○本学習は、事例3「防災まち歩き事前学習」を学習した後に実施するものである。

○防災まち歩きの準備品

- ・カメラ：1班1台 ・時計：1班1個(時間管理用)
- ・防災まち歩きチェックリスト：人数分 ・バインダー：人数分

※まち歩きの班分け、ルート、付き添いの大人等も事前に調整・準備しておく。

○防災マップ作りの準備品

- ・学校周辺の地図：1班1枚 ・太字ペン：1班1セット ・テープ(写真貼付用)：1班1個
- ・丸シール(赤青)：1班1セット ・ふせん(75mm×75mmの赤青黄)：1班1冊

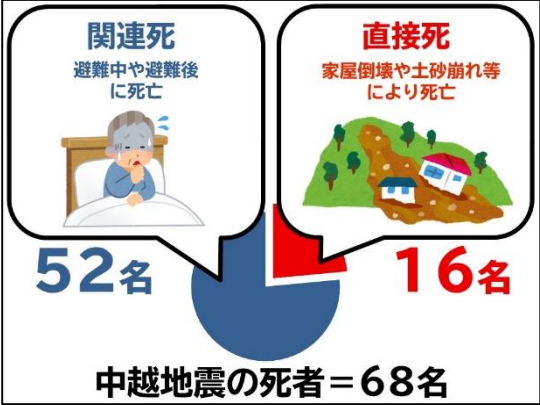
	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
【導入】	1. 地域の危険箇所・防災資源（安全な所や災害時に役に立つもの）を調べることを伝える ①防災まち歩きを通して、地域の危険箇所と防災資源を調べ、マップを作成することを伝える。 ②必要に応じて「防災まち歩き事前学習」で学んだ地域の危険箇所と防災資源を写真を見せ、まち歩きでチェックするポイントを再確認する。 ③まち歩きでやることを説明し、目標時間を伝え、出発する。 ・危険箇所・防災資源を撮影する ・なぜ撮影したかメモする ・そのほかに気付いたことをメモする	注：所要時間として2時間程度を想定(導入と展開1で1時間、展開2とまとめて1時間) ◆<u>防災まち歩き・マップ作りスライドP1～4</u> やること 地震から命を守るために 防災まち歩きをし防災マップをつくる ↓ もくひょう 地震が起きたらこの地域が どうなるかイメージできた！ 自分の通学路をチェックする時の ポイントがわかった！ まち歩きでやること ①チェックリストで点検 ・危険な所⇒地図に ● ・安全な所⇒地図に ● ②写真をとる ③班の人と話し合いながら 地震時の様子をイメージする ※雨や雪の時注意することは？ ※家族や地域の人とも話し合おう
【展開1】	2. 地域の危険箇所・防災資源を調べる ①防災まち歩きチェックリストを参考に、地域で地震が起こった後に危険な箇所や役に立つものについて気づかせ、カメラ撮影・メモさせる。	◆<u>防災まち歩きチェックリスト</u> ◆<u>バインダー</u> ◆<u>カメラ</u> ◆<u>時計</u> ※大人が付き添うことで、安全・時間管理ができるほか、気づきを促したり、長く住んでいる方からは過去の被災状況を聞くことができる。 ※保護者が付き添う場合、保護者自身が気づきを得られ、家庭での話し合いに繋がるなど、より児童の学びが定着する。

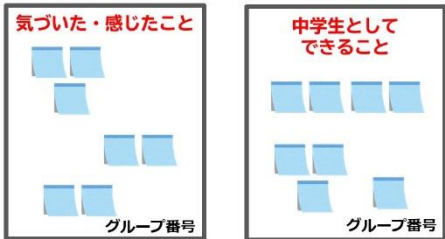
	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
【展開2】	3. 防災マップを作成する ①写真に、なぜ撮影したかコメントを書く。 例) ブロック塀が倒れて道を塞ぐ AEDが設置されている ②写真をとった場所にシールを貼る。 ・危険な所・気をつけるもの ➡赤丸シール ・安全な所・役にたつもの ➡青丸シール ③写真を地図の空きスペースに貼り、②で貼ったシールと線でつなぐ。 ④写真をとった場所以外で気づいたことを、ふせんに書き、地図に貼る。 ・危険な所・気を付けるもの ➡赤ふせん ・安全な所・役にたつもの ➡青ふせん	◆<u>防災まち歩き・マップ作りスライドP5</u> マップ作りでやること ①写真にコメントを書く ②写真をとった所にシールをはる ・危険な所➡地図に● ・安全な所➡地図に● ③写真を地図にはる ④写真をとった所以外で気づいたことをふせんに書き地図にはる
【まとめ】	4. 防災まち歩き・防災マップ作りでわかったことを確認する ①防災まち歩き・防災マップ作りを通して、わかったことや感想を黄ふせんに書く。 ②ふせんに書いた内容を班で話し合う。 ③班で見つけた、地域の危険箇所・防災資源・学習を通しての気づきを全体に向けて何人かに発表させる。 ④学んだ視点をもとに、通学路や普段よく行く場所も再点検するよう伝える。	◆<u>防災まち歩き・マップ作りスライドP6～7</u> マップが完成したらやること ①まち歩き・マップ作りを通して ・わかったこと ・感想 をふせんに書く ②班の人と ・わかったこと ・感想 を話し合う 全体にむけて発表 班で見つけた ・危険な所・気を付けるもの ・安全な所・役に立ちそうなもの わかったこと・感想

事例 5	中学校	避難所の状況を知り、避難所運営に大切な視点を学ぶ ○災害時の避難所の状況についてイメージをつかむ。 ○避難所生活で大切な視点を学ぶ。	知る 考える 行動する
---------	-----	--	-------------------

■事前の準備

- グループ作業用の避難所体験ゲームの記録シート、グループ振り返り用に白紙のA3用紙2枚(または模造紙1枚)、ふせん(75×75mm)1冊、太字ペン1人1本を準備する。振り返りの方法は上記以外にもミニホワイトボードを使うなど各学校の手法に準ずる。
- 本学習は、1時間でも完結可能だが、2時間確保できる場合は、事例6の「避難所での困りごとの解決方法を考える」と合わせて実施することでより学習を深めることができる。

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
【導入】	1. 災害時に学校が避難所になることを伝える ①過去の災害では「直接死」だけでなく「関連死」も多いことを伝え、「避難生活中も命を落とさないよう配慮や工夫が必要である」ことを伝える。 ②避難所の定義と、災害時に小・中学校など公共施設が地域の避難所になることを説明する。 ③写真を見せながら災害時の避難所の状況について伝える。 ◎衣食住や安心感を求めて人が集まるが、衣食住が必ずしも満たされるわけではない。 ◎様々な事情を抱えた人が一斉に集まり、様々な課題が生まれる。	※避難所体験ゲームスライドを適宜モニターなどに映すとスムーズに進行できる。 ◆<u>避難所体験ゲームスライドP1～18</u>  中越地震の死者=68名
【展開】	2. 避難所体験ゲームを実施する ①<u>避難所体験ゲーム記録シート</u>をグループ別に配付し、避難所体験ゲームの状況設定とやり方について説明する。例題でやり方を確認する。 ②避難所における困りごとの対応を話し合わせ、ワークシートに記入させる。 <指導ポイント> ○避難所開設初期に起こりうる課題10間について、学校の設備や自分たちでできることなど、その場でできる限りの対応を考えさせる。 ○課題の解決方法が見つからないうちにあえて次の問題を読み上げて、避難所開設初期は課題をじっくり考える時間がなくあわただしいこともゲームを通して模擬体験させる。	◆<u>避難所体験ゲームスライドP19～22</u> ◆<u>避難所体験ゲーム記録シート(A3印刷)</u> ◆<u>記録シート記入用太字ペン</u> ◆<u>避難所体験ゲームスライドP23～25</u> 避難所での困りごと 3.タバコはどこで吸ったらよいでしょうか？ 4.熱っぽくて寒気が止まらないんですが… 5.足腰が弱く立ち座りが辛そうなお年寄りが結構います。何かしてあげられないかな？ 6.子どもが泣き止まず周りに迷惑をかけてしまうのでどこか良い部屋はないでしょうか？ 7.日本語がよくわかりません。英語なら少し。今の状況を教えてください。 8.何も持たずに避難してきました。水と食料はいつもらえますか？

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
【展開】	3. 避難所体験ゲームを通して気づいたことを振り返る ①振り返り用ワークショップセットをグループに配り、避難所体験ゲームを通しての気づきや感想について振り返る。 ※個人でふせんを書く→グループで共有 振り返りの項目（例） ○気づいたこと・感じたこと ○特に悩んだ問題 ○避難所で中学生としてできること ○準備した方がいいと思ったこと・心構え ②各グループで出た意見を全体に向け発表する。	※振り返りの方法や使用する物品は各学校の普段のやり方に準ずるため、この限りではない。 ◆振り返り用白紙A3用紙2枚 ◆ふせん(75×75mm)1冊 ◆太字ペン1人1本 ◆避難所体験ゲームスライドP26～28 A3用紙・付箋の使い方 
【まとめ】	4. 避難所生活で大切な視点を確認する ①避難所運営は何のためにするのか伝える。 ○避難生活中の死者を出さないため ※体調悪化からの関連死を出さない ○避難所を出たあとの生活の立直しにつなげるため ※避難生活中に人任せ・寝たきりにならず、できることに取組み生活のリズムを作ることが大切。 ◎大人も子どもも関係なくできる人ができることをして支え合うことが大切。 ②避難所運営に正解はあるのか伝える。 ○絶対的な正解はなく避難所によって運営の仕方は異なる ○困りそうなことを事前に予測し対策を立てておく ➡次回（事例6）は、誰が何に困るかを整理し、困りごとの解決方法を考える。 ＜指導ポイント＞ ○本学習を1時間で完結させる場合は、事例6「避難所での困りごとの解決方法と中学生の役割を考える」におけるまとめ部分（災害時中学生ができることとその役割）を、本学習のまとめ部分で触れるとよい。	◆避難所体験ゲームスライドP29～30 まとめ ★避難所運営は何のために？ ①避難生活中の死者を出さないため ②避難所を出たあとの生活の立直しにつなげるため ※大人も子どもも関係なく、できる人ができることをして支え合うことが大切 まとめ ★避難所運営の正解は？ - 絶対的な正解はなく - 避難所によって運営の仕方は異なる - 困りそうなことを - 事前に予想し対策を立てておく ➡次回は誰が何に困るかを整理し 困りごとの解決方法を考える

事例 6	中学校	避難所での困りごとの解決方法と中学生の役割を考える ○避難所での困りごとの解決方法を考える。 ○災害時の中学生の役割と平時の心構えを考える。	知る 考える 行動する
---------	-----	--	-------------------

■事前の準備

- グループ作業用の模造紙1枚、ふせん(75×75mm)1冊、太字ペン1人1本を準備する。振り返りの方法は上記以外にもミニホワイトボードを使うなど各学校の手法に準ずる。
- 本学習は、事例5の「避難所体験ゲーム」を実施した後に実施することで学習を深めることができる。

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料				
【導入】	1. 前回の振り返りを行う ①「避難所体験ゲーム」で取り組んだ問題と、生徒から出たアイデアの一部を紹介する。 ②避難生活で大切な視点を再確認する。 ○災害関連死を防ぐ ○その後の生活の立直しにつなげる ➡大人も子どもも関係なくできる人ができることをして支え合う。	◆<u>困りごとの解決を考えるスライドP1～6</u> 【復習】前回のまとめ ★避難所運営は何のため？ ①避難生活中的死者を出さないため ②そのあとの生活の立直しに繋げるため ※大人も子どもも関係なく、できる人ができることをして支え合うことが大切				
【展開】	2. 避難所での困りごとを共有する ①「避難所体験ゲーム」で気づいたことを参考に災害時の避難所で誰がどんなことに困るか考える。 ②個人で考えた意見を班で共有し、5つ選び模造紙に書く。 <指導ポイント> ○困りごとを整理する際、「誰が」が特定できない場合は「みんなが」として書き、避難所全体の課題として共有する。	◆<u>困りごとの解決を考えるスライドP7～8</u> ◆<u>模造紙：1枚</u> ◆<u>太字ペン：1人1本</u> 困りごとの共有 ★避難所体験ゲームで気づいたことを参考に災害時の避難所で 誰が どんなことに困るか 考える ★個人で考えた意見を 班で共有し 5つ選び模造紙に書く 班で共有する時の 模造紙の使い方 グループ番号 <table><tr><td>みんなが 情報不足 に困る</td><td>〇〇が ××× に困る</td></tr><tr><td>〇〇が ××× に困る</td><td>〇〇が ××× に困る</td></tr></table> 4分の1くらい スペースを空けておく	みんなが 情報不足 に困る	〇〇が ××× に困る	〇〇が ××× に困る	〇〇が ××× に困る
みんなが 情報不足 に困る	〇〇が ××× に困る					
〇〇が ××× に困る	〇〇が ××× に困る					

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
【展開】	3. 避難所での困りごとの解決を考える ①困りごとを解決するために、 使えそうな学校設備・部屋・物とその使い方を 個人でふせんに書き、グループで共有する。 ②困りごとを解決するために、 ○災害時避難所で自分ができそうなこと ○災害前に各自で準備が必要なこと を個人でふせんに書き、グループで共有する ③各グループで出た意見を全体に向け発表する。 ④学習を通しての感想を個人でふせんに書き、 班の中で共有する。	※ワークの方法や使用する物品は各学校の普段のやり方に準ずるため、この限りではない。 ◆模造紙 1 枚 ◆ふせん(75×75mm) 1 冊 ◆太字ペン 1 人 1 本 ◆困りごとの解決を考えるスライドP9～14 グループワーク① ★困りごとを解決するために 使えそうな学校の設備・部屋・物 その使い方を考える ①個人でふせんに書き出す ②班で共有する 武道場 ××××× ××××× ××××。
【まとめ】	4. 災害時の中学生の役割と平時の心構えを確認する ①過去の被災地における小中学生の様子を紹介する。 ◎普段学校や家でやっていることで避難者の役に立っていた ◎本人に役立つ実感がなくてもその姿勢が周りの人を勇気づけていた ②中学生は避難所において大きな力になることを伝える。 ①学校・地域をよく知っているため ②体力・知力があり色々な支援ができるため ③避難所生活で大切なことをおさえる ◎大人も子どもも関係なく、その場にいる人全員ができることを分担して支えあう ◎中学生は期待される存在である ➡普段から自分にできることを増やすことで災害時にもその力が発揮される <指導ポイント> ○過去の被災地における小中学生の様子については、ここで紹介している事例のスライドに限らず、各担当者が見聞きした話を紹介するとより実感が持てて良い。	◆困りごとの解決を考えるスライドP15～23  寝たきりの高齢者に 体操の声掛けをする小中学生 →大人に言われてやるよりも 子どもと一緒に嬉しそうな高齢者 防災(災害に備える)って？ ★いつものことがもしものことにつながる！ たとえば… ・ 人の目を見て話を聞く →大事な話をききもらさない ・ 次の日の準備を自分でする →自分に何が必要か考えて準備する ・ 家族・友達・先生と話をする →人との違いを知る・なやむ・考える →多様な人と関わる避難生活で大切な考え方

事例 7	特別 支援	防災クイズを通して災害の危険性を知り、身の守り方を学ぶ ○地震・津波発生時の危険性を知り、身の守り方が分かる。 ○災害時、大人と行動することで身を守れることが分かる。	知る 考える 行動する
---------	----------	--	-------------------

■事前の準備

○学校の状況や児童・生徒の発達段階にあわせて、クイズの内容を精査する。

※本事例は、津波浸水エリアにおける学校外への移動を想定した避難訓練の、事前学習として行われたものである。

※避難訓練の実施にあたっては、避難場所までの誘導・安全確保のため、地域住民から協力を得たり、避難の様子を希望した保護者へ公開したりした。

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
【導入】	1. 学習の流れを伝える ①本時の学習に見通しが持てるよう、イラストを提示するなどして学習の流れを伝える。 ②スライドを使って地震発生後の様子が分かる写真を提示し、何が起きたかを問いかける。 ③地震は危険で怖いものだが「避難ルール」を守ると安心であることを伝える。 ④「避難ルール」が分かるようにクイズ形式で学習を進めることを伝える。	◆防災クイズスライドP1～10 ※災害を避けることはできないが、災害が起こったらどのように行動したらよいか学習することを伝える。 
【展開】	2. クイズを通して、災害を知り、災害からの身の守り方を理解する ①部屋で地震が起きたらどうする？ ②学校で非常ベルが鳴ったらどうする？ ③避難する時は何をかぶる？ ④避難する時はどのように移動する？ ⑤避難する時に忘れ物をしたらどうする？ ※「おはしも」の確認	◆防災クイズスライドP11～38 ※地震や津波の様子が分かりやすいように、自分の生活に結び付けて考えられるように、イラストや写真を提示する。 ①机を用いたりダンゴムシのポーズを取ったりして、その場で身の守り方を実践する。 

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料										
【展開】	⑥地震が起きると何が起きる？ ⑦津波が来る時はどうする？ （⑧学校で津波が来る時はどこへ逃げる？） ※⑧について、「防災クイズスライド」には無いが、学校指定の津波避難場所を説明するスライドを追加するとよい。 <指導ポイント> ○興味を持って考えられるようにクイズ形式で進行する。 ○分かりやすく話を聞くことができるように、可能な場合はメインティーチャーが進行し、ゲストティーチャーが正解を伝え、解説する。 ※学校の地理的状況や建物の状況によって起こりうる災害は違う。本事例はあくまでも参考として、学校の状況に合わせてクイズの内容を精査する。	②③④⑤⑧学校で学校で落ち着いて避難できるように流れを確認する。 ひじょうベルがなったら どうする？ こたえ 2.しずかにする ほうそうをきこう じしんです 「つなみ」がくるときは、 どうする？ 1.だんごむしポーズをする 2.ジャンプする 3.たかいところへにげる										
【まとめ】	3. 災害からの身の守り方を確認する ①避難する時のルールと、学校で地震が起きた場合の避難場所を確認する。 ②災害が来ても、周りのいろいろな大人が手助けしてくれることを伝える。 <指導ポイント> ○手助けしてくれる大人の例として、普段学校と関わりのある人の写真等を提示すると伝わりやすい。 ※本事例では、避難訓練時に誘導や安全確保の手助けをする地域住民に、その印としてそろいのたすきをかけてもらい、児童・生徒の前に登場してもらった。	◆防災クイズスライドP41～42 ひなんルール わかったかな？ 1.ひなんするときは「お・は・し・も」 2.つなみはたかいところへにげる <table><tr><th colspan="2">避難の約束</th></tr><tr><td>お</td><td>× おさない</td></tr><tr><td>は</td><td>× はしらない</td></tr><tr><td>し</td><td>× しやべらない</td></tr><tr><td>も</td><td>× もどらない</td></tr></table> ひなんルール わかったかな？ 3.おとなといっしょにひなん！ あんしん！	避難の約束		お	× おさない	は	× はしらない	し	× しやべらない	も	× もどらない
避難の約束												
お	× おさない											
は	× はしらない											
し	× しやべらない											
も	× もどらない											

3. 防災教育プログラムの改訂内容（各災害編）

本書「1. はじめに～新潟県防災教育プログラムの改訂～」の「（3）改訂の方針」に即して、現行プログラムの改訂内容をまとめました。災害編別に改訂項目を整理し、それぞれの項目について、指導のポイント、現行プログラムの関連学習項目、参考画像、引用したリンク先、提供する電子データのファイル名を掲載しています。



津波災害編の改訂 ----- 61



地震災害編の改訂 ----- 62



洪水災害編の改訂 ----- 68



土砂災害編の改訂 ----- 75



雪災害編の改訂 ----- 81

(1) 津波災害編の改訂

新潟県市町村別津波ハザードマップ（更新）

新潟県のホームページ「津波浸水想定図及び津波到達・浸水時間図」は、平成31年3月29日に更新されています。お住いの地域のハザードマップをご確認ください。

<指導のポイント>

- 津波浸水想定図、津波到達時間・浸水時間図は、自分たちの住む地域を襲う津波の被害の範囲や高さ（予想）を知ることができます。
- ハザードマップ等に記された情報はある想定で算出されたシナリオであり、想定にとらわれることなく、自ら判断して最善の避難行動をとることの大切さを学習します。

【現行プログラムの関連学習項目】

- ・ 小学校高学年【必須－7】新潟県の津波災害の歴史を学ぶ
- ・ 小学校高学年【選択－6・7】地域の避難マップを作る
- ・ 中学校【必須－9】津波からの逃げ方を学ぶ

【全域】津波浸水想定図及び津波到達・浸水時間図

※新潟県全域を24に図郭割りし、縮尺1:50,000の図として作成したもの

<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/bosaikikaku/1215023428845.html>



【詳細】津波浸水想定図及び津波到達・浸水時間図

※詳細領域（直江津、柏崎、新潟、岩船、両津、真野湾）について、1:25,000の図（新潟は1:50,000）として作成したもの

<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/bosaikikaku/1215023428845.html>



(2) 地震災害編の改訂

①大地震後の地震活動・余震等

熊本地震（2016）の経験から、大きな地震のあとは最初の揺れと同程度の強い揺れに注意する必要があります。必ずしも最初の揺れより弱い（＝余震）とは限りません。

<指導のポイント>

- 熊本地震では、4月14日にマグニチュード6.5、16日にマグニチュード7.3の地震が発生。どちらも震度7を記録し、本震－余震型の判定条件が妥当でなくなりました。「余震」という言葉から、より強い揺れは生じないと受け取られました。
- これらを受け、地震調査委員会「大地震後の地震活動の見通しに関する情報のあり方」に基づき、気象庁はさらに規模の大きな地震が起きることを想定し、「余震」ではなく「地震」を使用することにしました。
- 大きな地震の後には、最初の揺れと同程度の強い揺れに注意する必要があり、必ずしも最初の揺れより弱いとは限りません。誤解を招く「余震」という言葉は使わず、最初の揺れよりも強い揺れが起きる可能性があることを伝えます。

【現行プログラムの関連学習項目】

- ・ 小学校低学年【必須－1】 地震からの身の守り方（学校内）を学ぶ
- ・ 小学校中学年【必須－2】 地震からの身の守り方（学校外）を学ぶ
- ・ 小学校高学年【必須－3】 揺れがおさまった後の身の守り方を学ぶ
- ・ 中学校【必須－4】 地震の発生状況に応じた身の守り方を学ぶ
- ・ 小学校中学年、高学年、中学校の理科

国土交通省

 気象庁

Japan Meteorological Agency

ENGLISH

Google カスタム検索 検索

ホーム 防災情報 各種データ・資料 知識・解説 気象庁について 案内・申請

ホーム > 知識・解説 > 大地震後の地震活動（余震等）について

大地震後の地震活動（余震等）について

大きな地震の後には、多くの場合、その近くで引き続いて多数の地震（余震等）が発生します。普段から大きな地震に備えることはもちろんですが、いざ大きな地震が発生した場合には、その後引き続いて発生する地震にも注意する必要があります。気象庁は、最大震度5弱以上が観測された等の大地震が発生した場合に、約1～2時間後から、今後の地震活動の見通しや防災上注意すべきこと等について発表しており、その主なポイントは以下のとおりです。

- 目次
- 大地震後の地震活動（余震等）に関する基礎知識
- 気象庁が発表する大地震後の地震活動の見通し
- よくある質問

資料：気象庁 | 大地震後の地震活動（余震等）について

https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/aftershocks/index_whats_aftershock.html

(2) 地震災害編の改訂

②地震によるブロック塀倒壊の危険性

大阪北部地震（2018）では、ブロック塀の倒壊により、登校中の小学生1名が下敷きとなり死亡しました。この事故を踏まえ、通学時における地震からの身の守り方を学習します。※現行プログラム「小学校中学年【必須－2】地震からの身の守り方（学校外）を学ぶ」のワークシート「家やまちで地震がおこったら」（地_ワークシート02-1-①）のイラストを1点追加しました。

<指導のポイント>

- 大阪北部地震（2018）は通学時間帯に発生し、通学路にあるブロック塀が倒壊したことにより、登校中の小学生1名が下敷きとなり死亡しました。
- 地震によって、通学路にあるブロック塀が倒れたり、家の瓦屋根が落ちたりするなどの危険があります。
- 大きな地震が発生した場合、その後の強い揺れに備えて、「落ちる」「倒れる」「移動する」ものに注意し、安全な場所へ移動することが大切であることを学習します。

【現行プログラムの関連学習項目】

- ・ 小学校中学年【必須－2】地震からの身の守り方（学校外）を学ぶ
- ・ 小学校高学年【必須－3】揺れがおさまった後の身の守り方を学ぶ
- ・ 小学校高学年【選択－5】避難所までの避難ルートを調べる
- ・ 中学校【必須－4】地震の発生状況に応じた身の守り方を学ぶ

今回追加したワークシート「家の外やどうろにいるとき」のイラスト

ファイル名：
地震01【家の外やどうろにいるとき】地震前
(JPG)



ファイル名：
地震02【家の外やどうろにいるとき】地震後
(JPG)



(2) 地震災害編の改訂

③避難生活における「災害関連死」

中越地震（2004）や熊本地震（2016）においては、「災害関連死」が問題となりました。地震直後だけでなく避難生活においても死者が発生しないよう気を付ける必要があることを学習します。

<指導のポイント>

- 地震の揺れによる建物の倒壊や土砂崩れに巻き込まれ、直接的・物理的原因で死亡した「直接死」に対し、災害による負傷の悪化、避難生活などにおける身体的負担から生じる疾病による死亡を「災害関連死」と呼びます。
- 「災害関連死」は、特に体力が低く持病を持つ高齢者に発生しやすく、なかでも、車中泊など不自由な避難生活が原因で発生する「エコノミークラス症候群」に注意が必要です。
- エコノミークラス症候群とは、食事や水分を十分に取らない状態で、車などの狭い座席に長時間同じ姿勢でいることにより、血管に血のかたまり（血栓）ができ、それが肺に移動して呼吸困難が起こり、最悪の場合、死に至る症状のことを指します。
- エコノミークラス症候群を予防するためには、こまめに水分をとり、トイレを我慢せず、4～5時間おきに軽い運動を行う必要があります。
- 災害関連死の発生を防ぐために大切なことを学習します。

【現行プログラムの関連学習項目】

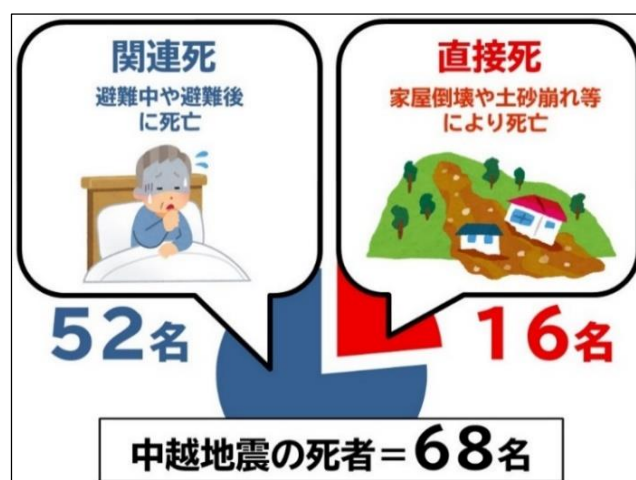
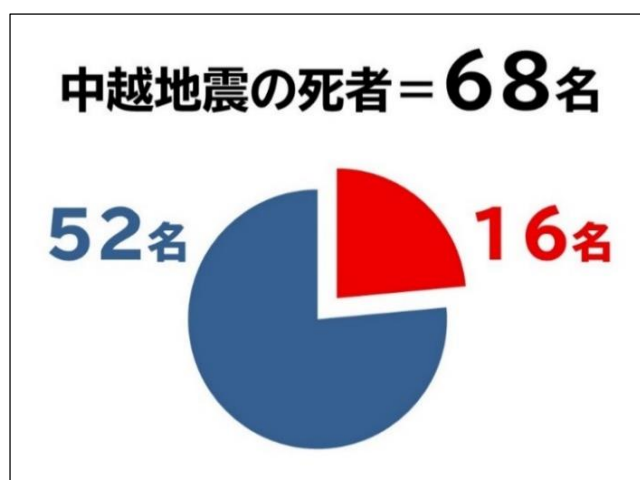
- ・ 小学校中学年【選択－2】地震への備えを知る（家庭でできること）
- ・ 小学校高学年【選択－6】地震の被害から生活への影響を考える
- ・ 中学校【必須－5】避難所と避難者について考える
- ・ 中学校【選択－8】避難所運営計画を作成する

資料：厚生労働省 | エコノミークラス症候群予防のために

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000170807.html>

資料：消防庁 | 新潟県中越地震（確定報）

<https://www.fdma.go.jp/disaster/info/assets/post335.pdf>



ファイル名：
地震03 中越地震の死者の内訳
(PowerPoint)

消防庁「新潟県中越地震（確定報）」をもとに作成

(2) 地震災害編の改訂

④避難所の質の向上に関する国の取組

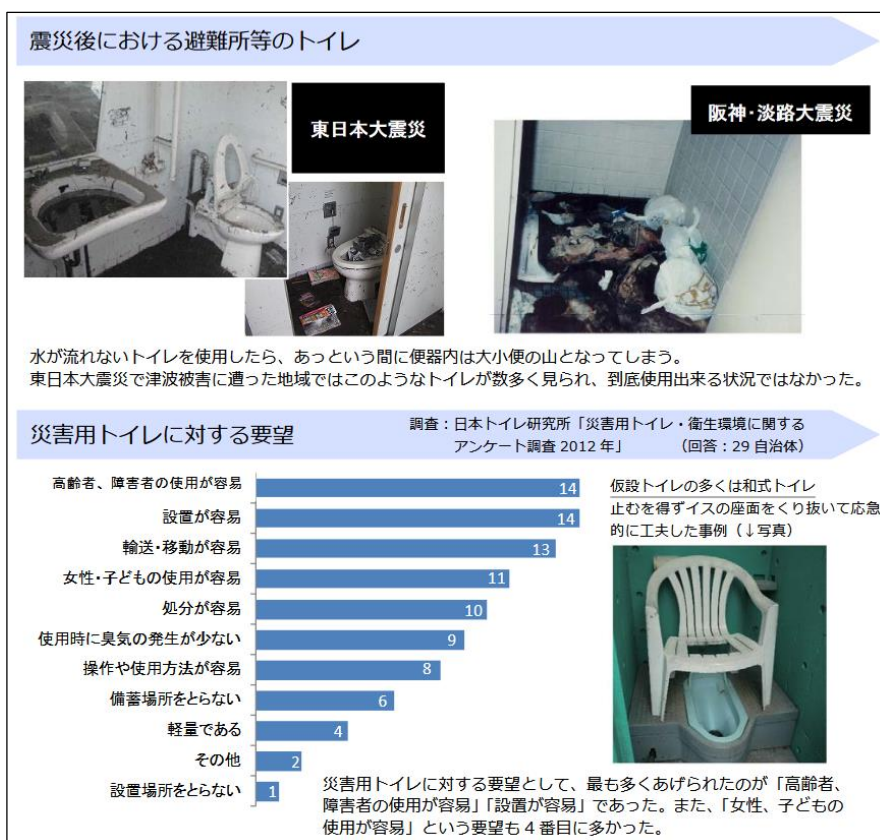
内閣府は、熊本地震において災害関連死が多数発生した経験を踏まえ、平成28年4月に「避難所運営ガイドライン」「避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン」「福祉避難所の確保・運営ガイドライン」を策定し、避難所の質の向上を目指しています。これらを踏まえ、避難所の環境改善について学習します。

<指導のポイント>

- 高齢者や障がい者など特に配慮が必要な人（要配慮者）を対象とした「福祉避難所」が設置される場合があります。避難者のなかに要配慮者がいることを早期に把握することが大切です。
- 避難生活における「災害関連死」を防ぐため、どのような事前の準備やその場での行動が必要であるかを学習します。
- なお、本書掲載の「防災教育の授業例」の事例5（P54,55）、事例6（P56,57）は、上記について考えるプログラムとなっています。

【現行プログラムの関連学習項目】

- ・ 中学校【必須－5】避難所と避難者について考える
- ・ 中学校【選択－8】避難所運営計画を作成する



資料：内閣府 | 避難所運営ガイドライン

http://www.bousai.go.jp/taisaku/hinanjo/pdf/1604hinanjo_guideline.pdf

資料：内閣府 | 避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン

http://www.bousai.go.jp/taisaku/hinanjo/pdf/1604hinanjo_toilet_guideline.pdf

資料：内閣府 | 福祉避難所の確保・運営ガイドライン

http://www.bousai.go.jp/taisaku/hinanjo/pdf/1604hinanjo_hukushi_guideline.pdf

(2) 地震災害編の改訂

⑤防災グッズチェックリスト（参考）

災害時の避難場所への持ち出し品、避難生活を送るための備蓄品を準備する際に役立つ「防災グッズチェックリスト」（長岡震災アーカイブセンターきおくみらい制作）を紹介します。

<指導のポイント>

- 電気・ガス・水道が使えなくなった場合に何に困るか、自分の生活に照らし合わせて考えておくことが大切です。
- 持ち出せるものには限りがあります。
- 食料をはじめとした備蓄品は、災害時専用のものを準備するのではなく、普段使うものを多めに準備しておき、使ったら買い足すという「ローリングストック」を実践することで、期限切れの心配がなく、災害時でも使い慣れたもので安心することができます。
- なお、本書掲載の「防災教育の授業例」の事例2（P48,49）は、防災グッズチェックリストを活用した備えを考えるプログラムとなっています。

【現行プログラムの関連学習項目】

- ・ 小学校中学年【選択－2】地震への備えを知る（家庭でできること）
- ・ 小学校高学年【選択－6】地震の被害から生活への影響を考える

ファイル名：
地震04 防災グッズチェックリスト
(PDF)



資料：長岡震災アーカイブセンターきおくみらい | 防災グッズチェックリスト
<http://c-marugoto.jp/nagaoka/download/checklist.pdf>

(2) 地震災害編の改訂

⑥【地_資料301】「新潟県の主な被害地震」(更新)

現行プログラム地震災害編のその他資料にある「【地_資料301】新潟県の主な被害地震」において、「⑮2019.6.18 山形県沖地震負傷者43人、家屋全壊0棟、半壊36棟」を追記しました。

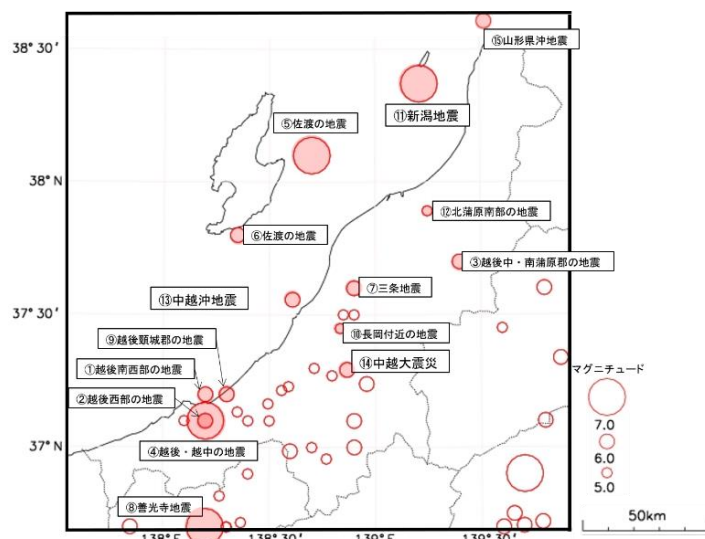
<指導のポイント>

- 山形県沖地震（2019年6月18日）は、児童・生徒が在宅している22時22分に発生しました。
- 山形県沖地震では、村上市や新潟市の沿岸部で津波注意報が発令されました。日本海側でも地震による津波が発生する可能性があります。
- 実際に新潟県内で発生した山形県沖地震を身近な例として、自宅にいる時の地震の備え、沿岸部における津波の可能性等について学習します。

【現行プログラムの関連学習項目】

- ・ 小学校低学年【必須ー1】 地震からの身の守り方（学校内）を学ぶ
- ・ 小学校中学年【必須ー2】 地震からの身の守り方（学校外）を学ぶ
- ・ 小学校高学年【必須ー3】 揺れがおさまった後の身の守り方を学ぶ
- ・ 中学校【必須ー4】 地震の発生状況に応じた身の守り方を学ぶ

ファイル名：
地震05【地震_資料301】
新潟県の主な被害地震
(PDF・PowerPoint)



番号	西暦.月.日	地域(名称)	新潟県の主な被害(カッコは全国での被害)	参考事項
①	1502.1.28	越後南西部	越後の国府(現直江津)で家屋の倒壊並びに死者多数。	
②	1666.2.1	越後西部	高田城破壊。死者約1500人、住家倒壊多数。	
③	1670.6.22	越後中・南蒲原郡	上川4万石で、死者13人、家屋全壊503棟	
図外	1729.8.1	能登・佐渡	佐渡で死者、家屋倒壊あり。	能登半島を震源とする地震
④	1751.5.21	越後・越中	高田城破壊。全体で死者2000人。高田領の死者1128人、家屋全壊及び焼失6088棟。	
⑤	1762.10.31	佐渡	石垣、家屋が破壊、死者があり。鶴島村で津波により家屋流出26棟。	
⑥	1802.12.9	佐渡	佐渡3群全体で死者19人、全壊家屋1150棟、同焼失328棟	
⑦	1828.12.18	(三条地震)	三条・見附・今町・与板などで被害。死者1400人、家屋倒壊9800棟、同焼失1200棟	大規模な液状化を伴う
図外	1833.12.7	羽前・羽後・越後・佐渡	死者5人	山形県沖を震源とする地震津波被害も発生
⑧	1847.5.8	(善光寺地震)	(死者12000人、全壊家屋34000棟)上越市付近中心に家屋倒壊などの被害	長野県で発生した浅い地震
⑨	1847.5.13	越後頸城郡	善光寺地震の被害と区別できないところが多い。	
⑩	1961.2.2	長岡付近	死者5人、住家全壊220棟	陸域の浅い地震で約3km程度の非常に狭範囲で震度6程度の揺れ
⑪	1964.6.16	(新潟地震)	新潟市内で地盤の流動、不同沈下による被害が著しかった。死者13人、負傷者315人、住家全壊1448棟、同全焼290棟	日本海東縁部の地震津波被害も発生
⑫	1995.4.1	北蒲原南部	負傷者82人、家屋全壊55棟	
⑬	2004.10.23	(中越大地震)	死者68人、負傷者4795人、家屋全壊3175棟	
⑭	2007.7.16	(中越沖地震)	死者15人、負傷者2316人、家屋全壊1331棟	
⑮	2019.6.18	山形県沖地震	負傷者43人、家屋全壊0棟、半壊36棟	新潟県内に津波注意報が発令

地震調査研究推進本部ホームページから（一部追記）：http://www.jishin.go.jp/main/yosokuchizu/chubu/p15_niigata.htm

(3) 洪水災害編の改訂

①新潟県市町村別洪水ハザードマップ（更新）

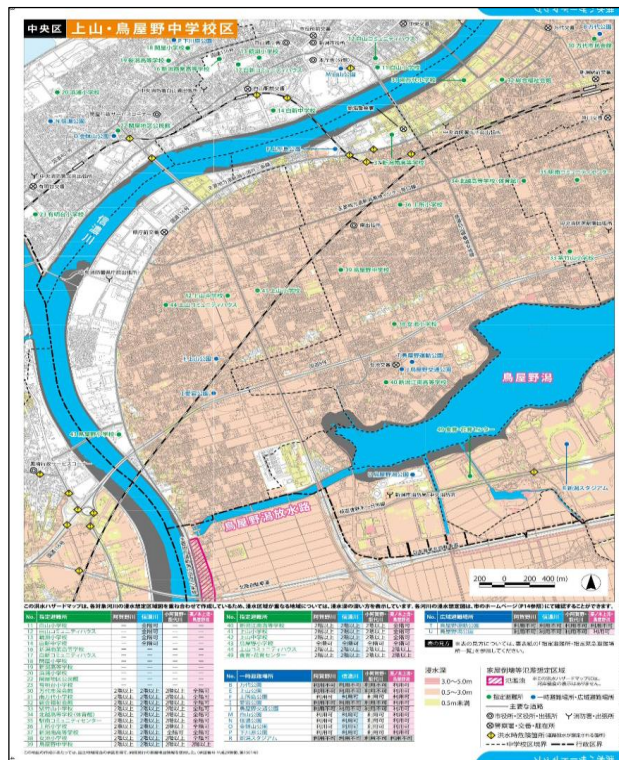
新潟県のホームページ「県内市町村の洪水ハザードマップ」（リンク集）から、お住いの市町村の最新の洪水ハザードマップを入手し、各学校の防災教育に活用してください。

<指導のポイント>

- 洪水ハザードマップは、河川がはん濫した場合に浸水することが想定される区域を示すとともに、安全かつ速やかに避難するための情報を示したものです。
- ハザードマップ等に記された情報はある想定で算出されたシナリオであり、想定にとらわれることなく、自ら判断して最善の避難行動をとることの大切さを学習します。

【現行プログラムの関連学習項目】

- ・ 小学校中学年【必須－４】洪水から街を守る対策について知る
- ・ 小学校高学年【必須－５】洪水に対する日頃からの備えを知る
- ・ 中学校【必須－７】洪水時の具体的な避難方法を考える



資料：県内市町村の洪水ハザードマップ（リンク集）

<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/kasenganri/1233691298080.html>

(3) 洪水災害編の改訂

②雨量・水位観測情報の取得

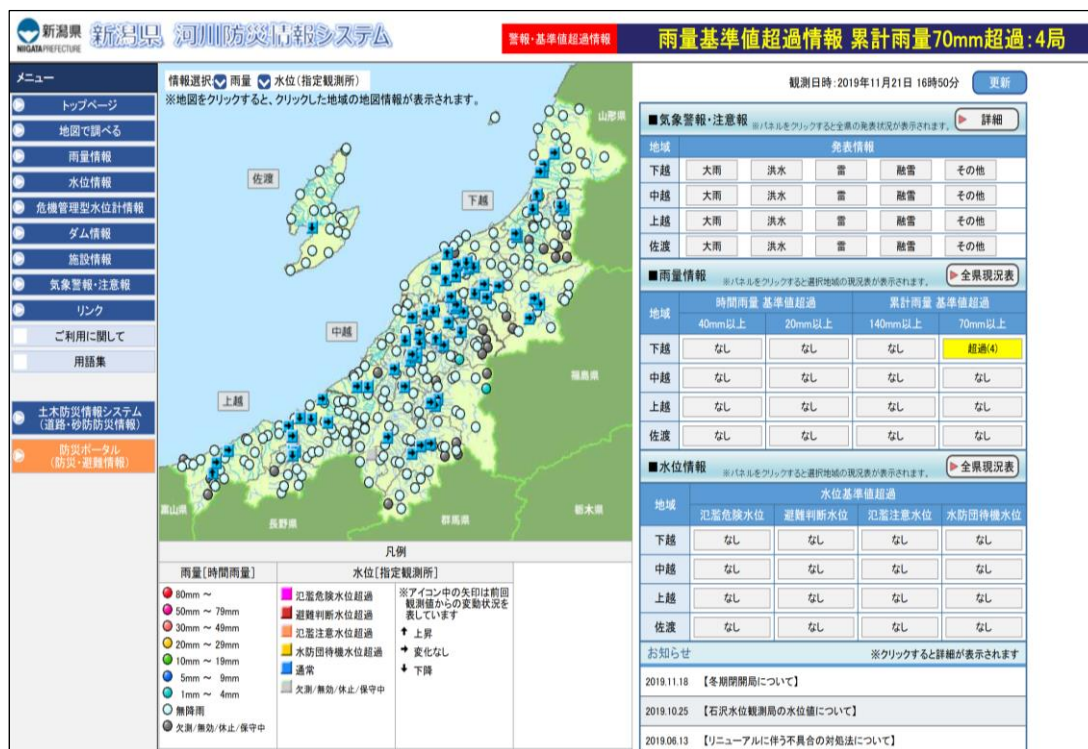
新潟県河川防災情報システムによって、県内各地の雨の強さや川の水位の情報を入手できることを学習します。

<指導のポイント>

- 「新潟県河川防災情報システム」は、県内各地の雨量情報や河川の水位情報などをインターネットや携帯電話を通じて提供するものです。
- 平成16年、平成23年豪雨で浸水被害を起こした五十嵐川や刈谷田川のような中小河川の場合、一部の地域で降った大雨で一気に水位が上昇し、氾濫してしまうことも起こり得ます。
- 信濃川のような大河川は、下流域で雨が降っていなくても、上流域で大雨が降った場合には氾濫する危険性があります。
- 自分で雨や川の情報を入手することができ、いつ避難をするか、どこに避難すればよいかの判断に活用できることを学習します。

【現行プログラムの関連学習項目】

- ・ 小学校低学年【必須－2】大雨が降った時の身を守る行動を知る
- ・ 小学校中学年【必須－4】洪水から街を守る対策について知る
- ・ 小学校高学年【必須－5】洪水に対する日頃からの備えを知る
- ・ 小学校中学年、高学年の理科・社会



モバイルサイト

雨量・水位観測情報はスマートフォンサイトまたは携帯サイトでもご覧になれます。



スマートフォンサイト
http://doboku-bousai.pref.niigata.jp/kasen_s/



従来型携帯サイト
http://doboku-bousai.pref.niigata.jp/kasen_m/

資料：新潟県河川防災情報システム（新潟県土木部河川管理課）
<http://doboku-bousai.pref.niigata.jp/kasen/>

(3) 洪水災害編の改訂

③洪水警報の危険度分布

洪水警報の危険度分布から何がわかるのかを学習します。

<指導のポイント>

- 「洪水警報の危険度分布」は、洪水警報を補足する情報です。指定河川洪水予報の発表対象ではない中小河川（水位周知河川及びその他河川）の洪水害発生の危険度の高まりの予測を示しており、洪水警報等が発表されたときに、どこで危険度が高まるかを面的に確認することができます。
- 洪水警報の危険度分布は気象庁のホームページから確認することができます。
- 自分で情報を入手することができ、いつ避難をするか、どこに避難すればよいかの判断に活用できることを学習します。

【現行プログラムの関連学習項目】

- ・ 中学校【必須－ 7】洪水時の具体的な避難方法を考える
- ・ 中学校【必須－ 8】避難できない人間の心理を理解する

洪水警報の危険度分布の表示例（気象庁ホームページ）



資料：気象庁ホームページ「洪水警報の危険度分布」

<https://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/flood.html>

(3) 洪水災害編の改訂

④5段階の警戒レベルと防災気象情報

「避難勧告等に関するガイドライン」が平成31年3月に改定されたことを受け、5段階の警戒レベルを明記して防災情報が提供されることになったことを学習します。

＜指導のポイント＞

- 「避難勧告等に関するガイドライン」（内閣府（防災担当））が平成31年3月に改定されました。この方針に沿って、住民がとるべき行動を直感的に理解しやすくなるよう、自治体や気象庁等から5段階の警戒レベルを明記して防災気象情報が提供されることになりました。
- 住民は「自らの命は自ら守る」意識を持ち、自らの判断で避難行動をとることが求められます。
- 避難が必要とされる警戒レベル4や高齢者等の避難が必要とされる警戒レベル3に相当する防災気象情報が発表された際には、避難勧告等が発令されていなくても、危険度分布や河川の水位情報等を参考に自ら避難の判断をすることを学習します。

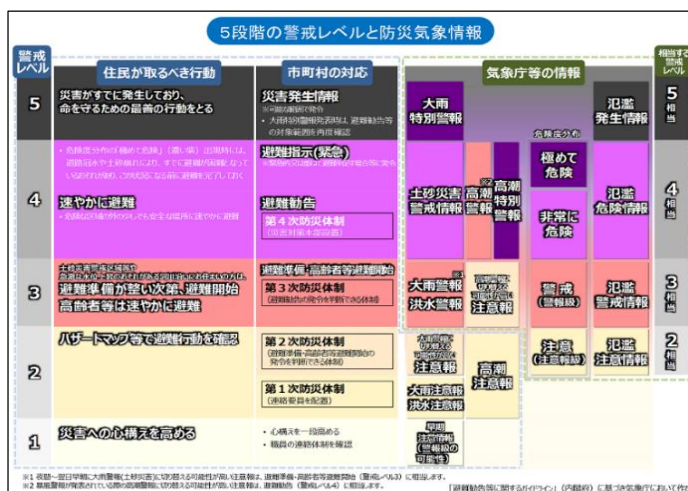
【現行プログラムの関連学習項目】

- ・中学校【必須－７】洪水時の具体的な避難方法を考える
- ・中学校【必須－８】避難できない人間の心理を理解する

ファイル名:

洪水01

5段階の警戒レベルと防災気象情報
(PNG)



ファイル名:

洪水02

5段階の警戒レベルチャシ
(PDF)

資料：気象庁ホームページ「防災気象情報と警戒レベルとの対応について」

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/alertlevel.html>

(3) 洪水災害編の改訂

⑤ テレビのdボタン

災害情報を取得する手段の一つとして、テレビのdボタンが利用できることを学びます。

<指導のポイント>

- NHK総合テレビのデータ放送は、簡単なリモコン操作で、全国や新潟県の最新ニュースのほか市区町村ごとのきめ細かい気象情報など、地域の身近な情報をいつでも見ることができます。
- 災害時の情報取得として有効な方法の一つであることを学習します。

【現行プログラムの関連学習項目】

- ・ 小学校低学年【必須－2】大雨が降った時の身を守る行動を知る
- ・ 小学校中学年【必須－4】洪水から町を守る対策について知る
- ・ 小学校高学年【必須－5】洪水に対する日頃からの備えを知る
- ・ 小学校中学年、高学年の理科・社会



資料：上越市ホームページ「安心・安全情報や市の情報をNHKデータ放送でご覧いただけます」

<https://www.city.joetsu.niigata.jp/soshiki/koho/data-transmission.html>

(3) 洪水災害編の改訂

⑥授業で使うワークシートの改良（更新）

授業で習ったことを各家庭で話し合ってもらうため、すべての学習項目のワークシートの枠外に、下記の文を追加しました。

<小学校低学年>

※このワークシートをおうちの人にもみせて、こうずいからどのようにみをまもればよいか、はなしあってみましょう。

<小学校中学年高学年>

※このワークシートをおうちの人にも見せて、洪水からどのように身を守ればよいか、話し合ってみましょう。

<中学生>

※このワークシートをおうちの人にも見せて、洪水からどのように身を守ればよいか、話し合ってみましょう。

ファイル名：

洪水03

改訂版 洪水災害編ワークシート
(Word)

洪水ワークシート 01
<小学校低学年：必須ー1 大雨が降った時の危険性を知る>

おおあめがふったときの

きけんをしよう

ねん くみ ばん なまえ ()

1. わかったこと

.....

.....

.....

.....

.....

2. もしおおあめがふっていたら、どうしますか？

.....

.....

.....

.....

.....

追加

※このワークシートをおうちの人にもみせて、こうずいからどのようにみをまもればよいか、はなしあってみましょう。

⑦災害からの教訓（参考）

近年多発する災害から、学ぶべき教訓を以下にまとめました。現行の防災教育プログラム洪水災害編に掲載している『教職員用副読本：指導の前に最低限知っておいてほしいこと』への追加事項としてお読みください。

1. 流域全体で危機感を持つ（⇒【必須－9 川との共存】で展開可能）

令和元年10月に発生した台風19号では、長野県の千曲川などで堤防が決壊し、河川の氾濫が起きました。千曲川で氾濫が起きた翌日に、同じ流域である信濃川（津南町）や信濃川水系の浄土川（長岡市）で河川の氾濫が起きています。このことから、上流域で氾濫などが起きた場合、下流域でも時間差で氾濫が起こる場合もあります。流域全体で同じように危機感を持つておくことが大切です。

2. 避難準備情報が「避難準備・高齢者等避難開始」に（⇒教職員用副読本 p33）

平成28年8月に発生した台風10号では、「避難準備情報」が発令されていたにもかかわらず、岩手県の高齢者施設で高齢者9人が死亡しました。同施設では、避難マニュアルが準備されていなかったこともあり、避難誘導が行われなかったそうです。もっと早期に避難が行われていれば助かった可能性もあります。これを受けて、「避難準備情報」はより一般にわかりやすい「避難準備・高齢者等避難開始」という名称に改められました。

3. 避難中に被害にあってしまうこともある（⇒教職員用副読本 p22「避難の段階性」）

避難しようとした際には、すでに周辺の状況が危険になっていて避難場所に到達できない場合や、避難途中で被災したと思われる事例が数多くあったと推測されます。安全に避難するためには、早めの避難が大切で、避難勧告や避難指示を待っているのではなく、避難所が開設されて危険を感じたら、早めに避難することが重要です。

4. 避難するときには周りの人に声をかけること

（⇒教職員用副読本 p22～27「避難の段階性」）

平成30年7月豪雨の際、避難した人にアンケートをした結果、声掛けによる避難が3番目に多い結果となりました。周りの人と一緒だと、避難をするとの調査結果があります（状況によっては自宅にとどまった方がよい場合もあります）。自宅外の方が安全だと判断した場合は、避難の際に周りの人への声掛けをするようにしましょう。

(4) 土砂災害編の改訂

①全国の土砂災害発生件数の推移

毎年、全国でどのくらいの土砂災害が発生しているのか、平成30年度に発生した土砂災害はどのような状況だったのかを学習します。

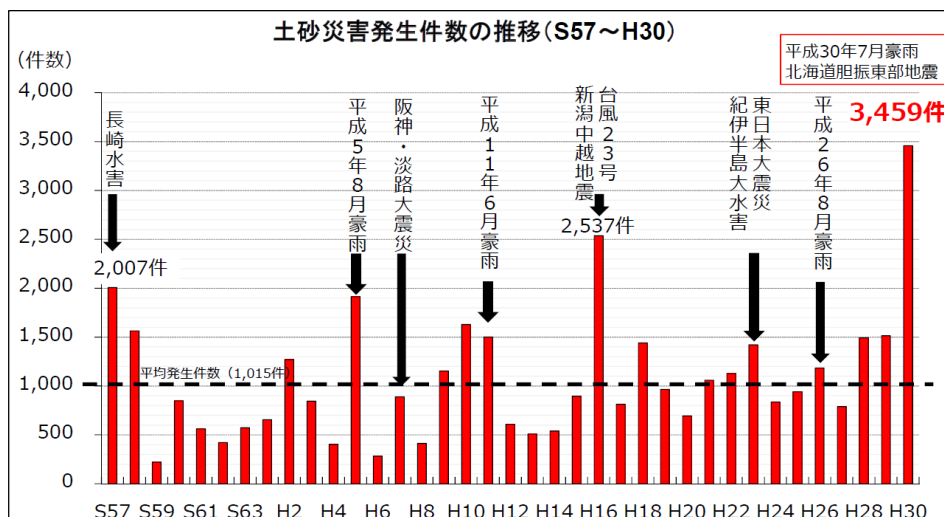
<指導のポイント>

- 日本は土砂災害の多い国です。土砂災害の発生件数は、年によってかなりばらつきがありますが、土石流・地すべり・がけくずれを合わせて平均すると、年に1000件くらいになります。
- 土砂災害が多いのは、日本列島の地形や地質、気象などの自然条件に大きな原因があります。
- 土砂災害は大雨や地震によって発生することが多く、新潟県中越地震（2004）では、新潟県中越地域の山間部で、がけ崩れや地すべりなど多くの土砂災害が発生しました。
- このように土砂災害は全国で毎年多数発生している身近な災害であることを学習します。

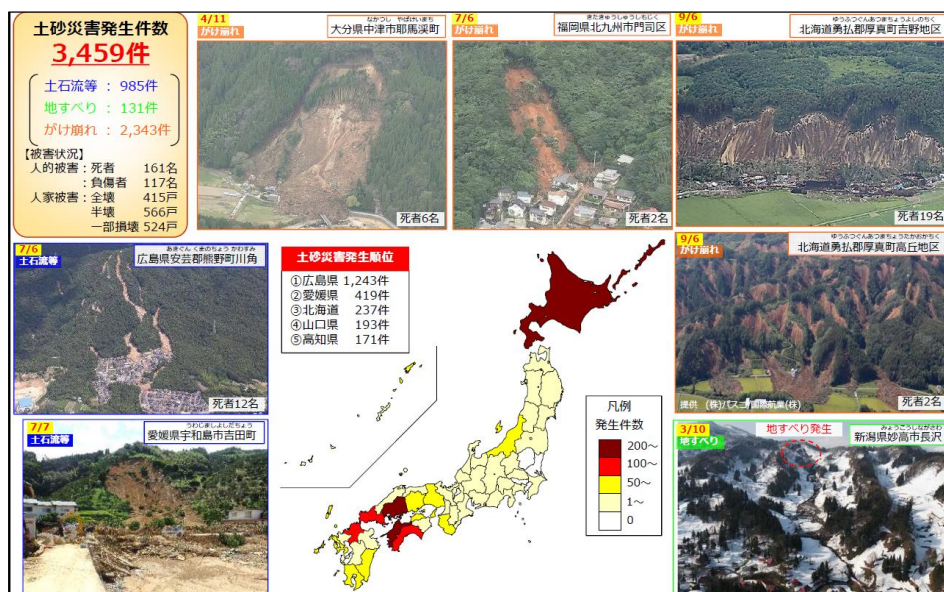
【現行プログラムの関連学習項目】

- ・ 小学校高学年【必須ー3】土砂災害の発生要因と身を守る行動を知る

ファイル名：
土砂01
土砂災害発生件数の推移
(S57～H30) (PDF)



ファイル名：
土砂02
平成30年全国の土砂災害
発生状況 (PDF)



資料：国土交通省報道発表資料「平成30年の土砂災害発生件数が確定しました」（平成31年3月28日）
https://www.mlit.go.jp/report/press/sabo02_hh_000068.html

(4) 土砂災害編の改訂

②新潟県で発生した土砂災害

新潟県では、毎年どのくらいの土砂災害が発生しているのか、どのような特徴があるのかを学習します。

<指導のポイント>

- 新潟県では毎年多くの土砂（雪崩）災害が発生しています。年によりバラツキがありますが、平成21年から30年までの10年間を平均すると、年間で94件発生しています。
- 平成30年は61件の土砂災害が発生しました。内訳は、土石流3件、地すべり39件、がけ崩れ17件、雪崩2件です。
- 新潟県は脆弱な地質や豪雪の影響で地すべりの発生が多いことが特徴です。
- 新潟県は日本でも有数の地すべり地帯で、春先の融雪時期や夏から秋にかけての梅雨前線や台風による降雨で山や崖の土砂が水を含んでもろくなり、土砂災害が発生しやすくなります。
- このように土砂災害は新潟県内でも多数発生している身近な災害であることを学習します。

【現行プログラムの関連学習項目】

- ・ 小学校低学年【必須ー1】土砂災害の存在と危険性を知る
- ・ 小学校高学年【必須ー3】土砂災害の発生要因と身を守る行動を知る

ファイル名：

土砂03

過去10年間の土砂災害発生件数
(新潟県) (PowerPoint)

過去10年間の土砂災害発生件数(新潟県)

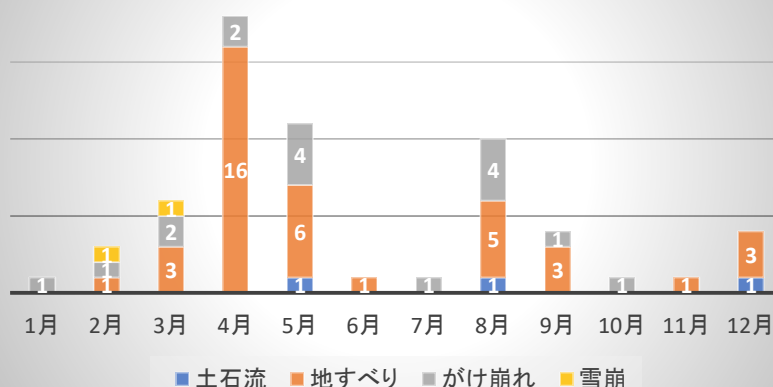


ファイル名：

土砂04

平成30年 月別土砂災害発生件数
(PowerPoint)

平成30年 月別土砂災害発生件数



資料：新潟県砂防課「砂防だより2019」より作成

<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/sabo/1191256252658.html>

(4) 土砂災害編の改訂

③土砂災害警戒区域

土砂災害警戒区域とは何か、どのように確認することができるのかを学習します。

<指導のポイント>

- 「土砂災害警戒区域（イエローゾーン）」及び「土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）」とは、土砂災害防止法に基づいて指定される土砂災害の危険性のある区域です。
- 新潟県では、土砂災害警戒区域が14,110箇所、土砂災害特別警戒区域が8,982箇所指定されています（令和2年1月31日時点）。
- 土砂災害警戒区域の指定を受けた市町村は、土砂災害ハザードマップを作成しています。指定箇所は、新潟県土木部砂防課ホームページから確認することができます。
- このように土砂災害の危険性が高いところを、事前に知ることができることを学習します。

【現行プログラムの関連学習項目】

- ・ 小学校中学年【選択－3】土砂災害の危険箇所マップを作成する
- ・ 小学校高学年【必須－3】土砂災害の発生要因と身を守る行動を知る
- ・ 中学校【必須－4】土砂災害から身を守る方法を考える

新潟県土砂災害警戒区域等の指定状況 及び 基礎調査結果の公表状況
新潟県土木部砂防課

ホーム >

■ 利用上の注意 ■

1. 本サイトは、新潟県が告示した土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域、基礎調査結果(※)を公開しています。
土砂災害警戒区域等についての詳しい説明は、「土砂災害防止法・警戒区域とは」をご覧ください。
※基礎調査結果：調査は完了しているが、現時点で区域指定をしていない区域（指定予定区域）
また、予定図のため、指定時には変更となる場合があります。
2. 本サイトは、システムの都合上、利用を制限する場合があります。
3. ページ途中から入場すると、正常に表示されない場合があります。必ずトップページからお入りください。
4. 本サイトをご利用いただくため、次のブラウザを推奨します。
・ Internet Explorer 8,9
・ Firefox8
・ google chrome
・ safari 5
※JavaScript を有効にしてご利用ください。

エリア検索

指定状況 及び 基礎調査結果の公表状況をご覧になりたい地域をクリックしてください。

南魚沼市

選択している市町村の情報のみ表示されます。
他の市町村の状況を確認したい場合は、ホームへ戻って検索してください。

ご覧になりたい場所にスクロールしてください。
バウレンをクリックすると指定状況が表示されます（バウレンは指定区域のおおよその位置を示しています）。

基礎調査結果（指定予定区域）
イエローゾーン・レッドゾーンともに指定
イエローゾーン指定

イエローゾーン＝土砂災害警戒区域
レッドゾーン＝土砂災害特別警戒区域

自然災害の種類

ご覧になりたい自然災害の種類をクリックしてください。

急傾斜地の崩壊 土石流 地すべり 全選択

住所検索

選択している市町村のご覧になりたい場所を町字で検索できます。（入力例：新光町）
なお、所在地は指定区域の代表的な地点で表示されますのでご注意ください。

〆

※位置図をクリックすると、地図上に該当する指定区域が表示されます。
※区域図をクリックすると、詳細な指定区域をご覧いただけます。（PDF形式）

所在地(字単位)	区域名	災害の種類	指定年月日		位置図	区域図
			警戒区域 (イエローゾーン)	特別警戒区域 (レッドゾーン)		
一之沢	セドノヤマ	土石流	2013/03/12	2013/03/12		
一之沢	一之沢川（1）	土石流	2013/03/12	2013/03/12		
一之沢	一之沢川（2）	土石流	2013/03/12	2013/03/12		

資料：「新潟県土砂災害警戒区域等の指定状況及び基礎調査結果の公表状況」
（新潟県土木部砂防課ホームページ）

<http://www.sabou-niigata.jp/dosyahou/>

(4) 土砂災害編の改訂

④土砂災害警戒情報

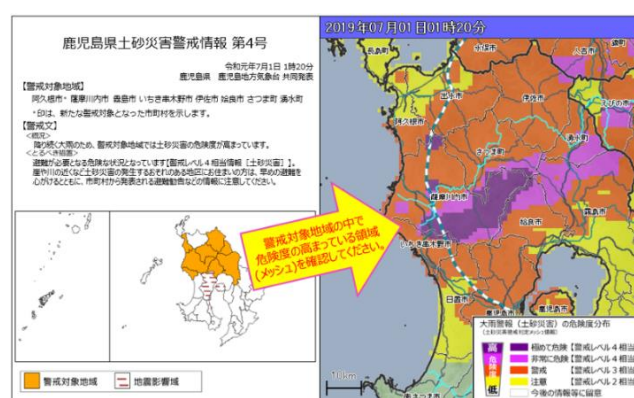
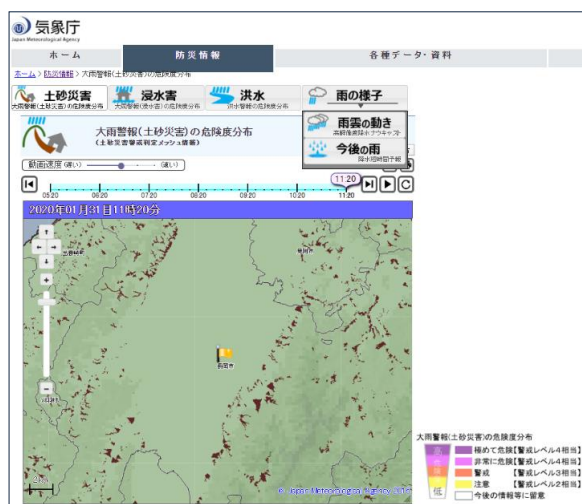
土砂災害警戒情報とは何か、どのように確認することができるのかを学習します。

<指導のポイント>

- 「土砂災害警戒情報」は、大雨による土砂災害発生の危険度が高まった時に都道府県と気象庁が共同で発表する防災情報です。
- 土砂災害警戒情報は気象庁のホームページから確認することができます。
- 新潟県では、土砂災害警戒情報を補完する情報として、土砂災害発生の危険度の高まりをメッシュ毎に確認できる「新潟県土砂災害警戒情報システム」を公開しています。
- もし自分たちの地域に土砂災害警戒情報が発令されたら、どのような状況が想定されるのか、どのような行動が求められるのかを学習します。

【現行プログラムの関連学習項目】

- ・ 小学校高学年【必須－3】土砂災害の発生要因と身を守る行動を知る
- ・ 中学校【必須－4】土砂災害から身を守る方法を考える



資料：気象庁「防災情報」

<https://www.jma.go.jp/jp/doshamesh/index.html>



資料：新潟県「新潟県土砂災害警戒情報システム」

http://doboku-bousai.pref.niigata.jp/sabou/index_top.html?

(4) 土砂災害編の改訂

⑤5段階の警戒レベルと防災気象情報 ※洪水災害編の④と同じ内容です。

「避難勧告等に関するガイドライン」が平成31年3月に改定されたことを受け、5段階の警戒レベルを明記して防災情報が提供されることになったことを学習します。

＜指導のポイント＞

- 「避難勧告等に関するガイドライン」（内閣府（防災担当））が平成31年3月に改定されました。この方針に沿って、住民がとるべき行動を直感的に理解しやすくなるよう、自治体や気象庁等から5段階の警戒レベルを明記して防災気象情報が提供されることになりました。
- 住民は「自らの命は自ら守る」意識を持ち、自らの判断で避難行動をとることが求められます。
- 避難が必要とされる警戒レベル4や高齢者等の避難が必要とされる警戒レベル3に相当する防災気象情報が発表された際には、避難勧告等が発令されていなくても、危険度分布や河川の水位情報等を参考に自ら避難の判断をすることを学習します。

【現行プログラムの関連学習項目】

- ・中学校【必須一４】土砂災害から身を守る方法を考える

ファイル名:

土砂05

5段階の警戒レベルと防災気象情報
(PNG)

5段階の警戒レベルと防災気象情報					
警戒レベル	住民が取るべき行動	市町村の対応	気象庁等の情報	相対的な警戒レベル	
5	災害がすでに発生しており、命を守るための最善の行動をとる	災害発生情報 ・大規模な災害発生は、避難勧告等の対象区域の内外を確認	大雨 特別警戒 土砂災害警戒情報 高潮特別警戒 高潮警戒	氾濫発生情報 警戒（警戒情報） 警戒（警戒情報）	5 相当
4	速やかに避難 ・避難指示（緊急）の発令（1階）の区域には、避難指示と同等のレベルになり、すでに避難行動が完了している区域の避難、対応などにも避難指示が示している	避難指示（緊急） 避難勧告 第4次防災体制 （国が対象区域指定）	土砂災害警戒情報 高潮特別警戒 高潮警戒 大雨警戒 洪水警戒 土砂災害警戒情報 高潮警戒 高潮特別警戒 注意情報	極めて危険 非常に危険 危険情報 警戒（警戒情報） 警戒（警戒情報）	4 相当
3	避難準備が整い次第、避難開始 高齢者等は速やかに避難 大規模な災害発生は、避難指示（緊急）の発令（1階）の区域には、避難指示と同等のレベルになり、すでに避難行動が完了している区域の避難、対応などにも避難指示が示している	避難準備・高齢者等避難開始 第3次防災体制 （国が対象区域指定）	大雨警戒 洪水警戒 土砂災害警戒情報 高潮警戒 高潮特別警戒 高潮警戒 大雨警戒 洪水警戒 土砂災害警戒情報 高潮警戒 高潮特別警戒 注意情報	警戒（警戒情報） 警戒（警戒情報） 警戒（警戒情報）	3 相当
2	ハザードマップ等で避難行動を確認	第2次防災体制 （国が対象区域指定） 第1次防災体制 （事前警報を放送）	土砂災害警戒情報 高潮警戒 高潮特別警戒 高潮警戒 大雨警戒 洪水警戒 土砂災害警戒情報 高潮警戒 高潮特別警戒 注意情報	注意（注意情報） 注意（注意情報） 注意（注意情報）	2 相当
1	災害への心構えを高める	第1次防災体制 （事前警報を放送） ・心構えを一段高める ・機器的な避難体制を構築	土砂災害警戒情報 高潮警戒 高潮特別警戒 高潮警戒 大雨警戒 洪水警戒 土砂災害警戒情報 高潮警戒 高潮特別警戒 注意情報	注意（注意情報） 注意（注意情報） 注意（注意情報）	1 相当

※1 夜間・休日や大雨・大雪時に特別警戒となる場合の土砂災害警戒情報（警戒レベル3）に相当する。

※2 避難指示（緊急）の発令（1階）の区域には、避難指示と同等のレベルになり、すでに避難行動が完了している区域の避難、対応などにも避難指示が示している。

【避難指示（緊急）に関するポイント】（内閣府）
【土砂災害警戒情報に関するポイント】（内閣府）
【高潮警戒に関するポイント】（気象庁）

水害・土砂災害の防災情報の伝え方が変わります

防災情報はいろいろあるけど
いつ避難すればいいの？

警戒レベル4で全員避難!!

【警戒レベル】で避難のタイミングをお伝えします。

2019年の出水期(6月)より、
「警戒レベル」を用いた
避難情報が与えられます。
市町村から「警戒レベル0、1」が
発表された地域にお住まいの方は、
速やかに避難してください。

警戒レベル
4
安全な場所へ
避難
(市町村で発表)

警戒レベル
3
高齢者等
は
避難に時間を
要する人は避難
(市町村で発表)

警戒レベル
2
避難行動の
確認
(気象庁で発表)

警戒レベル
1
心構えを
高める
(気象庁で発表)

【警戒レベル0】(市町村で発表)は既に災害が発生している状況です。

次のような内容で自治体から避難行動を呼びかけます！

警戒レベル4

避難行動要請区域
に居住する方

- 緊急放送、緊急速報、警戒レベル4、避難開始。
- 緊急放送、緊急速報、警戒レベル4、避難開始。
- ここからは、〇〇市です。
- 〇〇地区に洪水に懸する警戒レベル4、避難開始を
発令します。
- 〇〇川が氾濫するおそれのある水川に到達しました。
- 〇〇地区の方は、速やかに全員避難を開始してください。
- 避難場所への避難が危険な場合は、近隣の安全な場所に
避難するか、屋内の高いところ(市)に避難してください。

警戒レベルととるべき行動の目安に伝えます

避難行動の発生を伝えます

避難が開始していることを伝えます

避難場所への避難が危険な場合は、近隣の安全な場所に避難するか、屋内の高いところ(市)に避難してください

内閣府(防災担当)・消防庁

[illegible]

ファイル名:

十砂06

5段階の警戒レベルチャシ
(PDF)

資料：気象庁ホームページ「防災気象情報と警戒レベルとの対応について」

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/alertlevel.html>

(4) 土砂災害編の改訂

⑥【土_資料308】「火山と火山災害の基礎知識」(更新)

現行プログラム土砂災害編のその他資料にある「【土_資料308】火山と火山災害の基礎知識 1/2」において、現時点の情報を追記しました。

1. 活火山とは

かつては、今現在活動している、つまり噴火している火山は「活火山」、現在噴火していない火山は「休火山」あるいは「死火山」と呼ばれていた。例えば、富士山のように歴史時代（文献による検証可能な時代）に噴火記録はあるものの、現在休んでいる火山のことを指して「休火山」、歴史時代の噴火記録がない火山のことを指して「死火山」という表現が使われていた。

しかし、火山の活動の寿命は長く、数百年程度の休止期間はほんのつかの間の眠りでしかなく、噴火記録のある火山や今後噴火する可能性がある火山を全て「活火山」と分類する考え方が国際的に広まり、1960年代からは気象庁も噴火の記録のある火山をすべて活火山と呼ぶことにした。さらに1975（昭和50）年には火山噴火予知連絡会が「噴火の記録のある火山及び現在活発な噴気活動のある火山」を活火山と定義して77火山を選定した。

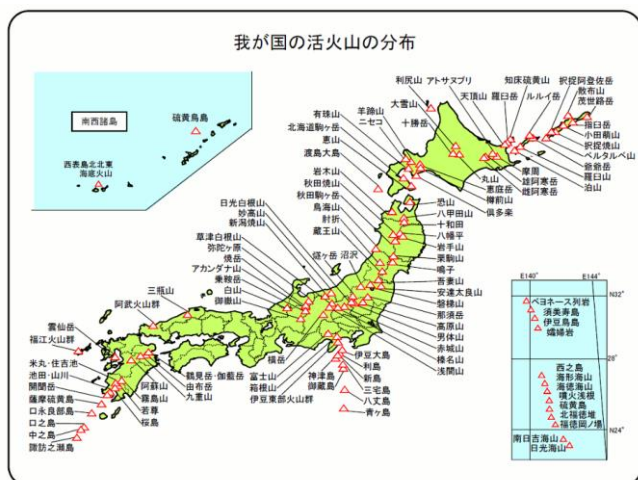
その後、数千年にわたって活動を休止した後に活動を再開した事例もあり、近年の火山学の発展に伴い過去1万年間の噴火履歴で活火山を定義するのが適当であるとの認識が国際的にも一般的になり、2003（平成15）年に火山噴火予知連絡会は「概ね過去1万年以内に噴火した火山及び現在活発な噴気活動のある火山」を活火山と定義し直した。2017（平成29）年6月現在で活火山の数は111となっている。

2. 火山防災のために監視・観測体制の充実等が必要な火山

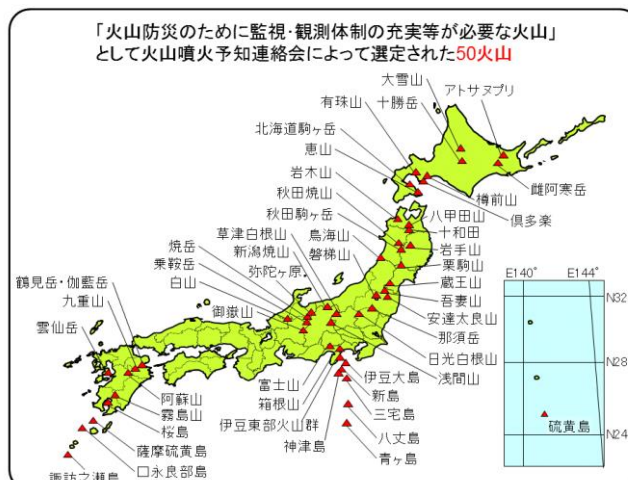
2009年に、今後100年程度の中長期的な噴火の可能性や噴火した場合の社会的影響等を勘案して、火山噴火予知連絡会は「火山防災のために監視・観測体制の充実等が必要な火山」として47火山を選定。新潟県の焼山も選ばれている。さらに、2014(平成26)年11月、「御嶽山の噴火災害を踏まえた活火山の観測体制の強化に関する緊急提言」（火山噴火予知連絡会「火山観測体制等に関する検討会」）により、3火山が追加された。

これを受けて、気象庁では噴火の前兆を捉えて噴火警報等を適確に発表するために、50火山に地震計、傾斜計、空振計、GPS観測装置、遠望カメラ等の観測施設を整備し、関係機関（大学等研究機関や自治体・防災機関）からのデータ提供も受け、火山活動を24時間体制で常時観測・監視している。

ファイル名：
土砂07 我が国の活火山の分布
(PowerPoint)



ファイル名：
土砂08 監視・観測体制の充実等が必要な火山
(PowerPoint)



資料：気象庁「知識・解説」

<http://www.jma.go.jp/jma/menu/menuknowledge.html>

※現行プログラムの土砂災害編「土_ワークシートD」の表記も修正。

全国の活火山110（2011年現在）⇒ 全国の活火山111（2017年現在）

(4) 土砂災害編の改訂

⑦土砂災害の学習教材・資料（参考）

「特定非営利活動法人 土砂災害防止広報センター」のホームページでは、土砂災害の学習に役立つ副読本、動画、写真、イラスト等の教材が公開されています。土砂災害の学習の際に必要な素材を使用することができます。

※教育機関での使用については、基本的に無料となっています。ご使用にあたっては、必要な手続きをご確認ください。



学び伝える

土砂災害を防ぐ、備える、学ぶ、伝える
(防災教育と学習・防災訓練・報道向け資料)

写真等の資料を防災教育や防災学習にご活用ください

大規模な自然災害が重なり、防災に対する国民的関心が、かつてないほど高まっています。教育現場でも、義務教育課程において、いわゆる「防災教育」が本格的に始動しています。一層努めていくことが「私たちの使命」と考え、このページを開設しました。ウェブ副読本のほか、ここに集められている写真やイラスト類は、右下の「資料等の提供について」をご熟読のうえ、お手続きいただければお使いいただいております。（動画につきましては当センターの著作物ではないものも含まれますので右上のお問い合わせよりご相談ください。）防災教育・防災学習の様々な場面で活用いただけることを願っております。

 Web副読本 ・土砂災害とは ・土砂災害をふせぐ砂防 ・わたしたちにできる災害への備え ・日本の砂防のあゆみ	 映像集 ・土砂災害現象 ・土砂災害に備える ・キッズ向け映像作品	 イラスト集 ・土砂災害とは ・土砂災害をふせぐ砂防 ・土砂災害のまえぶれ ・災害への備え ・ドッシャー & ボッシー	 支える 業務紹介&販売・レンタル 地域の防災力を向上させる（公共事業・地域防災支援）
 図書 ・六甲山の緑の歴史 ・災害伝承「念仏講まんじゅう」 ・災害伝承「念仏講まんじゅう」調査報告書 ・災害伝承「念仏講まんじゅう」関連	 土砂災害年表 ・2017年07月 平成29年 九州北部豪雨災害 ・2016年08月 台風10号【死者・行方不明者22名】※平成28年9月16日現在 ・2016年04月 熊本地震【土砂災害による死者15名（関連死含む）】	 土砂災害防止教育の展開例 ・小中学校での土砂災害防止教育展開例	 学び伝える 防災学習 お役立ちページ 土砂災害を防ぐ、備える、学ぶ、伝える（防災教育と学習・防災訓練・報道向け資料）
			 共有する フィールドコミュニティ 土砂災害防災のフィールドネットワーク

資料：特定非営利活動法人 土砂災害防止広報センター「学び伝える」
<http://www.sabopc.or.jp/library/>

(5) 雪災害編の改訂

① 雪による死者数の推移と内訳

雪によって全国で毎年どれくらいの方が亡くなっているのか、雪の量とどのような関係があるのか、主な原因は何かを学習します。

<指導のポイント>

- 雪の多い年になるほど、雪による死者は増える傾向となっており、特に多い年になると全国で100名以上の死者が発生しています（ただし交通事故は含んでいません）。
- 雪による死者のうち、約4分の3は除雪作業中の事故によるものであり、その中でも雪下ろし中の屋根からの転落事故が最も多くなっています。
- 雪による死者を年齢別にみると、65歳以上（高齢者）が約4分の3を占めます。
- 安全な雪国づくりのために、除雪作業中の事故をいかに減らすか、高齢者の事故をいかに減らすかが重要な課題となっていることを学習します。

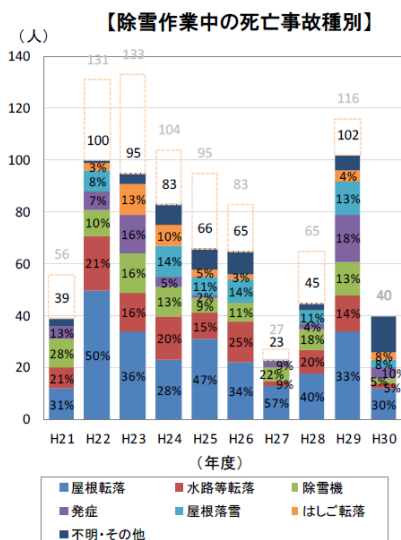
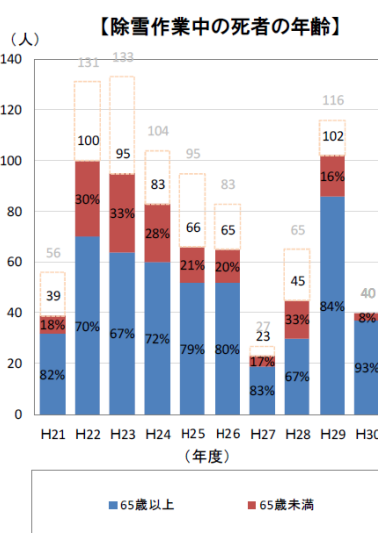
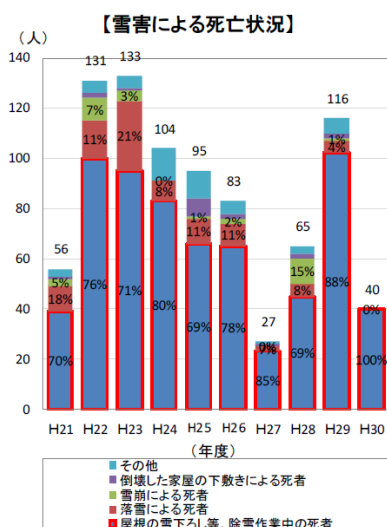
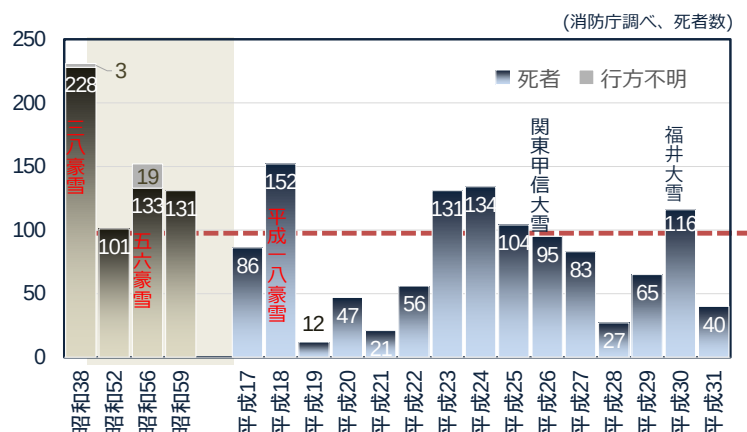
【現行プログラムの関連学習項目】

- ・ 小学校高学年【必須－6】 様々な雪の災害について学ぶ
- ・ 中学校【必須－7】 様々な雪の災害事例から対策を考える

ファイル名：

雪01 雪による死者数の推移
(PowerPoint)

雪による死者数の推移



資料：国土審議会 豪雪地帯対策分科会（2019年12月10日）配布資料
豪雪地帯対策における施策の実施状況等

<https://www.mlit.go.jp/policy/shingikai/content/001319590.pdf>

(5) 雪災害編の改訂

②新潟県による事故防止の注意喚起

雪による死者の原因のうち、一番の多い除雪作業中の事故を防止するため、どのようなことに気をつけなければいけないのか、行政（新潟県を例に）はどのように注意を呼び掛けているのかを学習します。※現行プログラムにおいても、新潟県の注意喚起のチラシを掲載していますが、最近のものを追加しました。

<指導のポイント>

- 除雪作業中の事故を防止するため、雪国の自治体は住民に対して注意喚起を行っています。特に冬期シーズン前には、各世帯にチラシを配布したり、広報誌で呼び掛けたりしています。
- 新潟県においても、「一人でしない」「無理しない」「落雪・転落気をつけて」の3つを「除雪中の事故を防止するための合言葉」として、注意喚起に努めており、ポスター、リーフレット、チラシを作成・配布しています。
- なぜこの3つの言葉が大切なのかを学習します。

【現行プログラムの関連学習項目】

- ・ 中学校【必須ー7】様々な雪の災害事例から対策を考える

ファイル名：

雪02 新潟県注意喚起資料
(PowerPoint)

ポスター



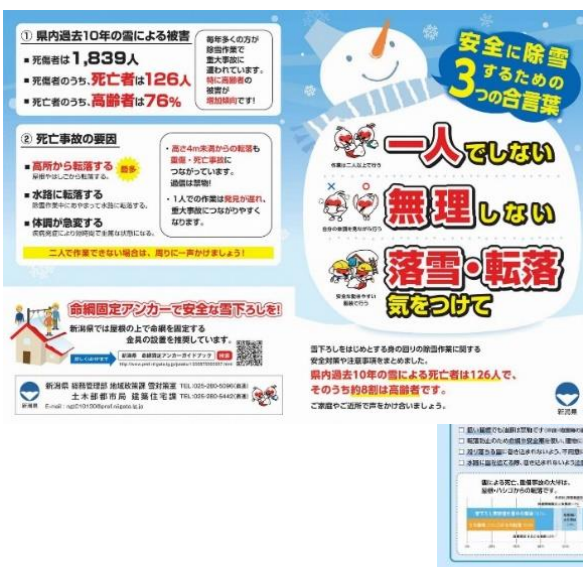
県内過去10年の雪による死亡者は126人で、そのうち約8割は高齢者です。
ご家庭やご近所でお声をかけ合ひましょう。

新潟県 総務管理部 地域政策課 雪対策室 TEL: 025-280-5096 (直通)

ファイル名：

雪03 新潟県注意喚起ポスター
雪04 新潟県注意喚起リーフレット (A3詳細版・表面)
雪05 新潟県注意喚起リーフレット (A3詳細版・裏面)
雪06 新潟県注意喚起チラシ
(PDF)

リーフレット



チラシ



資料：新潟県地域政策課ホームページ「除雪作業中の事故にご注意ください」

<https://www.pref.niigata.lg.jp/site/chiikiseisaku/191025zikoboushi.html>

③雪かき作業前の準備運動

除雪作業（雪かき）中の事故を防ぐため、雪かき前の準備体操の大切さを学び、体操を実践してみます。※ラジオ体操でも良いのですが、現行プログラムでは「健康雪かき体操（青森県が制作）」を紹介しており（イラストのみ）、最近の新しい体操を追加しました。

<指導のポイント>

- 雪かきは重労働です。暖かい室内から寒い屋外に出て、急に激しい作業を始めると、身体を痛めたり、体調を崩したりするおそれがあります。
- 青森県が高齢者の健康・体力づくりのために制作した「健康雪かき体操」をもとに、「みちのく仙台ORI☆姫隊」が出演した新しい健康雪かき体操の動画が完成しました。児童生徒がより楽しく雪かきの準備体操を行うことができます。
- 日本ジョセササイズ協会では、「除雪でエクササイズ」という考え方にに基づき、雪かきで怪我をしないためのウォーミングアッププログラムを制作しています。
- これらのコンテンツを適宜活用して、雪かき前の準備体操の必要性を学び、実践してみます。

【現行プログラムの関連学習項目】

- ・ 中学校【選択一7】除雪作業（雪かき）の基本を学ぶ

ファイル名：
雪07 健康雪かき体操
(MP4) ※動画です



資料：みちのく仙台ORI☆姫隊による「健康雪かき体操」の動画
<https://www.youtube.com/watch?v=RjOlvt9JTJw>
(YouTubeで「健康雪かき体操」を検索)



ジョセササイズの効果

<肉体的効果>

- ・ 冬期間の運動不足解消 ※有酸素運動
- ・ 運動強度：6 METs程度

<精神的効果>

- ・ 除雪を始めるまでの憂鬱に打ち勝てる。
- ・ 体にエクササイズと意識させることで、毎日の作業がポジティブに。
- ・ 目の前から積雪が無くなり、達成感が得られる。
- ・ 家族に感謝されることによる満足感が得られる。

<社会的効果>

- ・ 家族に喜ばれる。
- ・ 自宅だけで物足りず、隣の家や高齢者宅などまでジョセササイズをした場合、この上なく喜ばれる。
- ・ 除雪ボランティアがジョセササイズすることで、みんなが喜び幸せになる。

資料：日本ジョセササイズ協会 <http://jjxa.mystrikingly.com/>
(ウォーミングアッププログラムの動画が掲載されています)

④新潟県の雪冷熱利用施設に関する情報

雪を資源やエネルギーとして利用している取組として、新潟県内にはどのような施設があるのか、その施設では何のために、どのように雪を利用しているのかを学習します。

<指導のポイント>

- 雪は「災害」としてだけでなく、資源やエネルギーとしての「恵み」の要素も大きく、新潟県内の各地で雪を冷熱（雪冷熱）として利用する取組が行われています。
- 雪冷熱の主な用途は、部屋を「冷房」することと農作物などを「冷蔵」することです。
- 新潟県内には40以上もの雪冷熱利用施設があること、雪という自然エネルギーを活かした取組が雪国の地域づくりにおいて重要なことを、事例（施設の紹介）を通して学習します。

【現行プログラムの関連学習項目】

- ・ 中学校【選択－8】雪の利用について学ぶ

ファイル名：
雪08 雪冷熱利用ガイド
Niigataパンフレット
(PDF)



※新潟県環境保全事業団のホームページ「雪ルネッサンス新潟」（左図）には、上記の「雪冷熱利用ガイド Niigataパンフレット」に掲載されている施設のより詳細な情報が掲載されています。

資料：雪ルネッサンス新潟 雪利用ガイドniigata
(公益財団法人新潟県環境保健事業団)
<http://www.eco-niigata.or.jp/renaissance/guide/>

⑤参考図書の紹介（参考）

児童生徒の副読本として『空から宝物が降ってきた!』、教職員の参考図書として『雪かきで地域が育つ』を紹介します。



空から宝ものが降ってきた！ 雪の力で未来をひらく

著者：伊藤 親臣

公益財団法人雪だるま財団

チーフスノーマン（主任研究員）

発行書：株式会社旬報社

発行日：2016年2月1日

小学校高学年から中学生を対象としたノンフィクションです。じゃまものに感じる「雪」を資源としてとらえるという逆転の発想で、雪国を元気にするために駆けまわる著者が、「いまどきの雪国の暮らし」、「知っているようで知らない雪の話」、「日本人と雪の関係」、「スローフードとスノーフード」、「雪エネルギー大国、ニッポン」などをテーマに、やさしい文章で語りかけます。



雪かきで地域が育つ 防災からまちづくりへ

編者：上村靖司（長岡技術科学大学 教授）

筒井一伸（鳥取大学 教授）

沼野夏生（東北工業大学 名誉教授）

小西信義（北海道開発技術センター）

発行書：コモンズ

発行日：2018年11月10日

日本の雪国各地で、「地域の助け合いによる雪かき」（共助による地域除雪）をキーワードに、地域づくりの新しい動きが出てきています。「第Ⅰ部 雪対策の進展と地域の弱体化」、「第Ⅱ部 雪かきで育った15の事例」、「第Ⅲ部 地域が育つキーワードを読み解く」、「第Ⅳ部 雪問題の今後の展望」という構成で、これから地域で共助による除雪に取り組もうと考えている方々にとってのガイドブックを意図しています。

「雪問題に向き合う過程を通して地域が育つ」という発見は、雪国の可能性を示唆してくれます。

新潟県防災教育プログラム 【改訂版】

令和2年3月
公益財団法人 新潟県中越大震災復興基金
協力：新潟県教育委員会、新潟県

制作：公益社団法人 中越防災安全推進機構 地域防災力センター
新潟県長岡市大手通2-6 フェニックス大手イースト2階
TEL 0258-39-5525 FAX 0258-39-5526
